主催 Organized by

特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク Japanese Geoparks Network (JGN)



[住所] 〒101-0047

東京都千代田区内神田1-5-1 トライエム大手町ビル7階

[TEL] 03-3219-2990 [FAX] 03-3219-2990

[E-mail] info@geopark.jp [URL] http://www.geopark.jp/ https://twitter.com/OfficialJGN/

共催 Co-organized by

白山手取川ジオパーク推進協議会

Hakusan Tedorigawa Geopark Promotion Council

[住所] 〒924-8688

石川県白山市倉光二丁目1番地

[TEL] 076-274-9564 [FAX] 076-274-9546

[E-mail] geopark@city.hakusan.lg.jp [URL] http://hakusan-geo.main.jp/

https://www.facebook.com/Yukimama.to.Shizuku/

国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

Operating Unit Ishikawa/Kanazawa, Institute for the Advanced Study of Sustainability, United Nations University (UNU-IAS OUIK)

[住所] 〒920-0962

石川県金沢市広坂2-1-1

石川県政記念しいのき迎賓館3階

[E-mail] unu-iasouik@unu.edu [URL] http://ias.unu.edu/jp/

https://www.facebook.com/OUIK.UNU.IAS/

日本ジオパーク委員会

Japan Geopark Committee (JGC)

[住所] 〒101-0047

東京都千代田区内神田1-5-1

トライエム大手町ビル7階

[TEL] 03-3219-2990 [FAX] 03-3219-2990

[E-mail] info@geopark.jp [URL] http://jgc.geopark.jp/



UNU-IAS

展示協力 Collaborated by

北海道地図株式会社

Hokkaido-Chizu Co.,Ltd.

[住所] 〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1

平河町ビル

[TEL] 03-5216-4833 [FAX] 03-5216-4830 [E-mail] info@hcc.co.jp [URL] http://www.hcc.co.jp/

http://www.facebook.com/Hokkaido.Chizu/

🖎 株式会社 古今書院

Kokon Shoin Co., Ltd.

[住所] 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-10

[TEL] 03-3291-2757 [FAX] 03-3233-0303

[E-mail] order@kokon.co.jp [URL] http://www.kokon.co.jp/

http://www.facebook.com/kokonshoin/





2016年 1月23日(土)

開催時間:13:00~

開催場所:白山市松任学習センター

コンサートホール

in Hakusan Tedorigawa Japanese Geopark

特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク

白山手取川ジオパーク推進協議会 国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

日本ジオパーク委員会 後 援 日本ユネスコ国内委員会

白山市



一目次一

概要3ページ
当日のプログラム4ページ
シンポジウム ····································
講演① (Patrick James McKeever 氏)9ページ
講演②(松浦晃一郎氏)
パネルディスカッション ·······························44ページ 閉会あいさつ ····································
記念祝賀会67ページ
オプショナルワークショップ68ページ
当日の参加者95ページ

****** 主催者からの一言 *******

このフォーラムは、2015年11月の第38回ユネスコ総会で、ユネスコ世界ジオパークがユネスコの正式事業として位置づけられたことを受け、これを記念するとともに、これからの日本のジオパークの未来をともに考えていくために開催したものです。

ユネスコとはいったい何かを学ぶため、ユネスコでジオパークの正式事業化に尽力された Patrick James McKeever 氏、ユネスコの最高責任者を10年にわたり務められた松浦晃一郎氏、そして同じユネスコの事業であるユネスコエコパークの国内第一人者である松田裕之氏と、これまでにないラインアップの講演者をお迎えして開催しました。

本報告書では、その場をご一緒いただけなかった方にもその雰囲気を感じていただけるよう、またその場を共有された方には改めて振り返っていただけるよう、講演者やパネリストの発言をなるべく忠実に、再現しました。

10年後に振り返ったとき、このフォーラムが日本のジオパークの歩みに少しでも貢献できていたとしたら、望外の喜びです。



概要

†主 催 特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク

◆井 催 白山手取川ジオパーク推進協議会

国連大学サステイナビリティ高等研究所

いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

日本ジオパーク委員会

◆後 援 日本ユネスコ国内委員会

石川県 白山市

中展示協力 北海道地図株式会社

株式会社古今書院

中開催日 2016年1月23日(土)~24日(日)

◆開催地 白山手取川ジオパーク(石川県白山市)

キスケジュール 1月23日 13:00~18:30 シンポジウム

(於 白山市松任学習センター/参加者 173名)

1月23日 19:00~20:30 記念祝賀会 (於 グランドホテル白山/参加者 116名)

1月24日 09:30~11:30 オプショナルワークショップ

(於 白山市松任文化会館/参加者 27名)













【趣旨】

創立以来ユネスコの支援を受けてきたジオパークが、2015年11月に開催された第38回 ユネスコ総会において、ユネスコの正式事業として位置づけられました。正式事業になる までにどのような経緯があったのか?正式事業化により何が変わり、その変化に日本のジ オパークはどのように対応していくべきなのか? そもそもユネスコとは、どのような組織なの か? ジオパークやユネスコに関わる第一級の話者を迎え、ジオパークに携わる一人一人ととも に考えていきます。

シンポジウム(13:00~18:30 松任学習センター)

司会:永井三岐子氏

(国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット事務局長)

世 田 憲 昭氏(白山手取川ジオパーク推進協議会会長/白山市長)



[UNESCO Global Geoparks]



Dr. Patrick Mc Keever パトリック・マッキーバー氏 (逐次通訳付き) ユネスコ生態地球科学部地球科学ジオハザード減災セクションチーフ 国際地球科学ジオパーク計画事務局長

プロフィール

アイルランド出身。北アイルランド地質調査所の研究員として、ジオパークの初期から中心的な人物の1人として活動。のちにユネスコ入りして現職に就任。ジオパークのガイドラインの策定や、世界ジオパークの審査に携わってきた。このたびのユネスコ正式事業化にも大きく貢献し、新しく立ち上がった国際地球科学ジオパーク計画 (IGGP) の事務局長にも就任した。

(14:40~15:00 休憩)



「ユネスコの理念と地球環境保全のための活動」



取り うら こういちろう 松 浦 晃一郎氏 Dr. Koichiro Matsuura

前ユネスコ事務局長

プロフィール

山口県出身。東京大学法学部を経て、1959年に外務省に入省。経済協力局長、北米局長、外務 審議官、駐仏特命全権大使等を歴任。その後、世界遺産委員会議長を経て、1999年にアジア人 で初めてユネスコ事務局長に就任。2期10年の在任中はユネスコの機構改革に尽力した。現在 は、公益財団法人日仏会館理事長や株式会社パンナグループ社外監査役等を務める。



「ユネスコMAB計画と日本のユネスコエコパーク」



松 田 裕 之氏 Dr. Hiroyuki Matsuda

日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会調査委員 日本MAB計画委員会委員長

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

プロフィール

福岡県出身。京都大学大学院理学研究科修了。水産庁中央水産研究所、東京大学海洋研究所等を経て、2003年より現職。専門は、生態リスク学、数理生物学、水産資源学、海洋政策学。前日本生態学会会長。ユネスコエコパークの国内審査を担う日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会調査委員のほか、支援研究者の集まる日本MAB計画委員会の委員長を務める。

(16:30~16:50 休憩)

パネルディスカッション「ユネスコ正式事業化を受けての日本のジオパーク活動」

コーディネーター

渡辺真人氏

アジア太平洋ジオパークネットワーク諮問委員

産業技術総合研究所地質調査総合センター 地質情報研究部門地球変動史研究グループ長

パネリスト

Patrick Mc Keever 氏

中田節 也氏

日本ジオパーク委員会副委員長

東京大学地震研究所教授

松田裕之氏

松浦晃一郎氏

野 辺 一 寛氏

日本ジオパークネットワーク事務局次長 隠岐世界ジオパーク推進協議会事務局長

記念祝賀会(19:00~20:30 グランドホテル白山)

オプショナルワークショップ (1/24(日)9:30~11:30 松任文化会館)



開会あいさつ 米田 徹 特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 理事長



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介を賜りました。私は、日本ジオパークネットワークの理事長を務めさせていただいています米田と申します。本日は、ユネスコジオパーク誕生記念フォーラムの開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

このたびの世界ジオパークネットワークの世界的な活動が評価されまして、昨年の11月にユネスコの総会で正式決定されました。正式なプログラムになったということで、ジオパーク活動をする者にとりましては大変な喜びであります。そして、

本当に感激をいたしておる次第でございます。しかし、その喜びと反面、ジオパーク活動の品質の向上やその責任の重さというものをまた感じておる次第であります。

このことにつきましては、世界ジオパークネットワークの関係者の皆様方、そしてまた日本ジオパーク委員会、尾池委員長をはじめとする委員の皆様方、またジオパーク関係者の皆様方や国会議員の先生方のお力、そしてご参会の皆様方の本当に絶大なるご援助、またお力があったと、本当に感謝いたす次第であります。

日本は、長きにわたって景気低迷や少子・高齢化に伴う人口減少などが大きな社会問題となっておりますが、この影響は地方においては特に顕著になっておるわけであります。これを解決するために、持続可能な経済発展は地方自治体の最重要課題であるわけであります。そのような背景で、地域、地方は、みずからの持っております自然資源を活かした地域の活性化をしていかなくてはいけないという自律的な感覚を持った中において、世界ジオパーク活動というのを取り入れてきたのではないかな、それが非常に急速に日本の中に広がっていったと捉えております。

現在、世界ジオパークは8地域、そして日本ジオパークは31地域、また、それを目指そうと活動いただいている地域は16地域、全部で55地域あるわけでありますが、各自治体、先ほど言いましたような理由から全国に1,718市町村があるんですが、192の市町村がその中に加わって今活動いただいております。それほど今、日本全体が、13%かもしれませんが、ジオパークに取り組んでおるのが実情であります。

日本ジオパークネットワークといたしましても、国内ジオパークのさらなる品質向上を目指して、積極的なジオパーク活動に取り組んでいかなくてはいけないと思っております。世界ジオパークネットワーク及びアジア太平洋ジオパークネットワークの一員として、国際社会への貢献も大切だと捉えておるわけでございまして、日本全体で、またそういったものを取り組んで進めていかなくてはいけないと捉えている次第でございます。

本日のこのフォーラム開催に当たりましては、地元、白山手取川ジオパーク推進協議会の山田会長をはじめ、地元の皆様方には大変お世話になり、このフォーラムが開催できたことを感謝申し上げる次第でございます。

結びになりますが、本日ご参会の皆様方のますますのご活躍と、そして世界ジオパーク、また日本ジオパークがますます繁栄することをご祈念申し上げ、ご参会の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。

開会あいさつ 山田 憲昭 白山手取川ジオパーク推進協議会 会長(白山市長)



皆さん、こんにちは。きょうは、ユネスコジオパーク誕生記念フォーラムの開催 であります。白山手取川ジオパーク協議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し 上げたいと思います。

本日は、新年を迎えご多用のところ、また今週初めから冬型の気圧配置による寒気の影響で雪が降り続いており、大変足元の悪い中、日本ジオパークネットワーク米田理事長様をはじめ会員各位、多くの地域の住民の皆様、そして関係団体などからこのように多くの皆様方に参加をいただきました。まことにありがとうございます。また、本日のフォーラムに、世界ジオパークの第一人者であるマッキーバー様、

前ユネスコ事務局長の松浦様、日本MAB計画委員会委員長の松田様、さらに日本ユネスコ国内委員会事務 総長の山脇様には、ご多忙にかかわらず白山市へお越しをいただきましたことを心から感謝申し上げます。

さて、白山手取川ジオパークは、標高2,702メートルの白山の頂から手取川、日本海までの白山市域全域をエリアとしておりまして、その中にある豊かな自然や地形、地質、資源をはじめ、その歴史や文化、伝統などを一つのテーマとしてつなぎ、教育活動やツーリズムにその魅力を発信しているところであり、そのことが白山市の一体感の醸成につながっております。このことは、例えば公民館との交流事業やジオパーク資源を利用した小中学校の遠足など、さまざまな形で活かされております。

今回、冬の時期での開催でありますが、白山手取川ジオパークのテーマは「山-川-海そして雪 いのちを育む水の旅」であります。白山と日本海の存在により、この地域に大量の雪をもたらし、その雪解け水が手取川を流れ、その流域に生活する私たちに恵みをもたらしてきました。ときには土砂流出や洪水などの災害もありましたが、私たちはこれらをいなしながら生活を営んできました。これも白山手取川ジオパークの特徴でもあります。

また、当地の代表的な地質資源に桑島化石壁があります。これは中生代の白亜紀前期の化石の産出地でありまして、日本で最初に化石から時代を推定する本格的な地質学論文が出た地であることから、日本の地質学発祥の地と呼ばれてもおります。恐竜だけではなく、植物や爬虫類、哺乳類などの多種にわたり産出しており、この地の化石発見が契機となり国内各地で本格的な調査が行われるようになりました。市におきましても、近年は20年にわたり継続して調査を実施しており、世界的にも貴重な新種の化石が数多く発見されております。桑島化石壁は、過去から続く水の旅を意識させてくれる場所であり、ジオパークの大地を形成する重要な要素の一つとなっております。

市といたしましても、ジオパーク活動を地方創生の取り組みにうまく活かしながら、より一層効果的な市 政の展開を図ってまいりたいというふうに考えております。

また、当地は同じユネスコのプログラムである白山ユネスコエコパークに登録されております。ジオパークとエコパークが重複しているエリアであるがゆえ、2つのプログラムを相互に理解し、その連携についても考えていきたいというふうに思っております。

終わりに、今回のフォーラム開催に当たり、日本ジオパーク委員会様、国連大学サステイナビリティ高等 研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット様には一方ならぬご協力をいただき、感謝を申し上 げます。

改めて、皆様の白山手取川ジオパークへお越しをいただきましたことにお礼を申し上げますとともに、本 日のフォーラムはもとより、こうして多くの関係者が集うこの機会を通じて、さらなる交流の場を広げてい ただき、ジオパークが目指す持続可能な地域の発展のために皆さんとともに活動を盛り上げていくことをお 願い申し上げまして、開催地としての挨拶といたします。よろしくお願いいたします。ありがとうございま した。

開会あいさつ 山脇 良雄 日本ユネスコ国内委員会 事務総長(文部科学省国際統括官)



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました文部科学省の国際統括官を務めております山脇と申します。あわせて、日本ユネスコ国内委員会事務総長の任務もいただいております。本日は、ユネスコジオパーク誕生記念フォーラムにお招きいただきまして、ありがとうございます。一言ご挨拶を申し上げます。

私自身、ジオパークというものには幾つかの重要な要素、役割があると思います。 第1は、言うまでもなく、地質学的に重要な地域の価値の保全と向上です。この たびユネスコで決定された世界ジオパーク作業指針では、このように述べられてい

ます。「景観や地質構造は、我々の惑星の進化の重要な証人であり、我々の将来の持続可能な開発の決定要因となる」。この地質学的な重要性がまさに第一義的な役割であるというふうに思います。

第2は、教育と研究であります。学校、地域社会、さらには大学における教育研究に至るまで、ジオパークの背景にある地質、自然、そして人間とのかかわりを学ぶ教育と研究は、ジオパークの大事な側面であるというふうに思います。

加えて、ジオパークは、地質遺産が地域社会とともに相互に利益をもたらすものであるという重要な役割を果たすという特徴を持っていると思います。

このジオパーク事業が昨年11月のユネスコ総会で正式事業として決定されたことは、極めて意義深いものと確信をしております。

ところで、昨年はユネスコが設立70周年を迎えた年でありました。我が国のユネスコ国内委員会では、安西会長ステートメントを、70周年を記念してまとめて発表いたしました。このステートメントにおきましては、70年を超えて歴史を刻むユネスコの新たな重要な役割の一つとして、持続可能な社会の実現への貢献ということを提言したところです。この点、ユネスコ世界ジオパーク事業は、地質学的な遺産を受け継ぎながら地域の活性化を図るという、まさに持続可能性を体現する取り組みであります。文部科学省、日本ユネスコ国内委員会といたしましても、関係機関と連携し、積極的にその推進に当たってまいりたいと考えます。

我が国におけるジオパーク活動は、これまで日本ジオパーク委員会、日本ジオパークネットワークを中心に、多くの関係者の共同によりまして非常に活発に取り組んでこられたものと承知しております。これまでのこうした関係者の皆様方のご努力を尊重しつつ、ユネスコ正式事業化を受けて、我が国からユネスコ世界ジオパークへの申請に関する体制につきまして、検討をしてまいりました。一昨日開催されました日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会におきまして、この日本ジオパーク委員会を我が国におけるジオパークナショナルコミッティとして認証し、審査業務などを担っていただくということが合意されたところでございます。これまでジオパーク振興のために取り組まれてきた自治体及び関係者の皆様のご努力に深く敬意を表するとともに、今後新たな体制のもとでジオパークがさらなる発展を遂げることを期待しております。

最後になりますが、本日のユネスコジオパーク誕生記念フォーラムの開催に当たり、多大なるご尽力をいただいた方々に御礼申し上げます。特に、米田糸魚川市長をはじめとする日本ジオパークネットワークの方々、尾池委員長をはじめとする日本ジオパーク委員会の先生方、山田白山市長をはじめといたします、白山手取川ジオパーク推進協議会の方々、国連大学サステイナビリティ高等研究所の方々など、多くの関係者に心から御礼とお祝いを申し上げまして、私のご挨拶にかえさせていただきます。

講演

[UNESCO Global Geoparks]



Patrick James McKeever 氏

ユネスコ生態地球科学部地球科学ジオハザード減災セクションチーフ 国際地球科学ジオパーク計画事務局長

Key Messages

- * ジオパークの基本理念は持続可能な発展であり、それはコミュニティ・エンパワーメント(地域社会の力)によって実現される
- * ユネスコ世界ジオパークは、ユネスコが既存の認証を採用する初めての例であり、世界遺産とユネスコエコパークに続くユネスコで3つ目の地域認証である
- * ジオパークはネットワークであり、ユネスコ世界ジオパークというメリットを他の地域でも享受できるようにすることは、日本のユネスコ世界ジオパークの青務である

Thank you very much for the introduction.

ご紹介をいただきましてどうもありがとうございます。

I'm delighted to be back in Japan and I'm especially delighted to be here to celebrate with you the creation of the first new site designation from UNESCO since 1972. I'm happy to be here to celebrate with you UNESCO Global Geoparks.

また、私自身このように日本に再び来日することができ大変うれしく思っております。

本日は、1972年以来となるユネスコの新しい地域認証制度の誕生を皆さまとお祝いできることも大変うれ しく思っております。そして、ユネスコジオパークの誕生記念フォーラムに参加でき非常に光栄でございま す。

I introduced to the new logo of UNESCO Global Geoparks. This is my native language, the Irish language.

そして、まずは皆様にこの新しいユネスコ世界ジオパークのロゴのほうをご紹介したいと思っています。 ちなみに、こちらに使っている言語なのですが、私の母国語でもあります、アイルランド語でこちらは記載 をしております。

On every slide you will see this logo in a different language including Japanese.

ちなみに私の使っているスライドの中では、 このロゴの下の言語を毎回違う言語に変えてい ます。日本語も登場いたします。

We have heard a lot in the opening speeches, the opening comments, about the 38 th General conference of UN-ESCO which occurred last November.



本日の開会のお言葉、開会のご挨拶の中でも、昨年11月に行われました38回目のユネスコの総会についての言及がありました。

And this is the photograph of that general conference.

その時の総会の写真がこちらです。



I will be followed by the former director general of UNESCO, Mr. Matsuura, who will describe in detail exactly, what is UN-ESCO.

ちなみに本日、私の次に講演をされるのが前 ユネスコ事務局長の松浦さんです。松浦さんの ほうからは詳しく、ユネスコがどのような組織 なのかについてお聞かせいただく予定です。

But for me, to really explain to you UN-ESCO Global Geoparks, I want to just get

a little bit of history about UNESCO because the geoparks are now a part of that history and I want you to understand exactly how they fit in to the world of UNESCO.

私のほうからは、ユネスコ世界ジオパークについて本日ご紹介をいたしますけれども、このジオパークというものは今ではユネスコの中の一つの地位を占めているわけですから、一体どのような位置付けになっているのかということを説明するためにも、少しユネスコとの関わりについてお話をいたします。

UNESCO is an acronym. It stands for United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization.

ユネスコは略語になっています。その言葉ですけれども、正式には国連教育科学文化機関でございます。 Our headquarters are in Paris, France, and UNESCO was founded in 1945 at the end of the Second World War with a very simple agreement.

我々の本部はフランスのパリにございます。設立されたのが、第二次世界大戦が終了した1945年です。その時には非常に簡潔な使命を持って設立されました。

Because war was created in the hearts of men and women, so it is UNESCO's job to build peace in the hearts of men and women.

戦争というのは人の心の中からつくられ生まれてしまうものであると、したがってユネスコの使命としま しては、人の心に平和の砦を築いていく必要があるという使命です。

In the early years, UNESCO helped to rebuild schools, libraries, and museums that were destroyed during the Second World War and it served as an intellectual forum for the exchange of ideas and scientific knowledge.

初期の頃、ユネスコは第二次世界大戦によって破壊されてしまった学校、図書館、そして美術館などを再建する仕事をしてきました。また、さらには、科学的な知識や意見交換などをする場としても使われています。

During the 1950 s, 1960 s, 1970 s, many countries in Asia and Africa became independent, and they turned to UNESCO for help in creating their own educational systems and to ensure education for all girls and boys, and to tackle illiteracy, which remains a major challenge.

その後1950年代、60年代、そして70年代に入ると、アジア地域、そしてアフリカでも次々と国が独立して

いきました。このような新しい国は、教育制度を築くにあたってユネスコに支援を求めてきました。また、 当時から大きな課題であった全ての男児、女児に対する教育を提供すること、そして識字率の対策といった ところが大きな課題になっていました。

UNESCO led the movement to protect the global environment and sounded the alert over the state of the planet's shrinking biodiversity.

さらには、ユネスコは世界の環境保護の先陣に立ってきました。また、地球の持つ生物多様性の縮小に対しても真っ先に警鐘を鳴らしています。

In 1971, UNESCO created the Man in Biosphere Programme which sought to reconcile the use and conservation of natural resources. It marked the very first step towards what we all know now as sustainable development.

そして、1971年にユネスコは人物と生物圏プログラムをつくりました。これは、自然資源の保護と活用を 両立しようといったもので、今では我々が持続可能な開発と呼んでいるものに向けての第一歩となったわけ です。

In the 1960s there was concern about the creation of new dams on the River Nile, which would cause some of the great monuments of the Nile Valley to disappear. This inspired the creation of what would be the Convention on World Heritage, which was signed in 1972.

また、1960年代に入ると、ナイル川における新たなダムの建設が、その時のナイルの谷間にあった遺跡を 水没させるのではないかという懸念が浮上しました。このときのさまざまな取り組みが後に、1972年、世界 遺産の条約という形に発展しました。

So at the same time as the creation of the MAB programme and the creation of the World Heritage Convention, many international scientific programmes were also created, including the International Geoscience Programme.

そして、このときに MAB というプログラム、また世界遺産の条約が作られましたと同時に、この時の国際地質科学プログラムといったような国際的な科学分野における多くのプログラムが立ち上がりました。

Today, this International Geoscience Programme still continues to foster cooperation between scientists – especially between scientists from the developing world.

今でもこの IGCP、地質科学国際研究計画は、研究者同士の交流を、特に開発途上国からの研究者に対しても多くの支援をしています。

Last year for example, scientists from 133 countries participated in projects under the IGCP.

一例を申し上げますと、昨年はこの IGCP 傘下のプロジェクトに133カ国もの科学者が参加をしています。 And this is an example of the one of the IGCP projects. This is from Africa and these children are mining for gold, and they're using very dangerous chemicals which is poisoning the groundwater, in turn, poisoning the soil, poisoning plants, poisoning animals. Through IGCP, we are trying to teach people like this that there is a better way to do this, a more environmentally friendly way, but more importantly a way that doesn't damage their own health.

そして、IGCPが行っている取り組みの一例をこちらでご紹介いたします。写真はアフリカの写真です。 こちらのここに映っている子供達は、このようにして金を採掘しようとしているわけですが、彼らは非常に 有毒な危険な化学物質を使ってこの作業を行っています。その有毒な化学物質は地下水、そして土壌を汚染 し、また地域の植物や動物にも影響を与えています。我々は、IGCPを通して、いかにこういったことが環 境に悪影響を及ぼしているのかということを啓蒙するとともに、さらにはこの地域の人たちが健康を害する ことなくこのような生活をしていくには何が必要なのか、そのための取り組みを行っています。

But I suppose to the ordinary person who doesn't know too much about UNESCO, perhaps UNESCO is most famous for the site designation of World Heritage.

しかし、ユネスコについて、あまり多くをご存知ではないかもしれない一般の方にとって、一番ユネスコを象徴しているのがこのユネスコの世界遺産認定制度ではないでしょうか。

UNESCO has now three official site designations. There are three official site labels, the World Heritage site, which includes 1,030 sites in 163 countries. We have 650 biosphere reserves in 119 countries, and as of last November we have 120 UNESCO Global Geoparks in 33 countries.

現在、ユネスコでは3つの地域認定制度を持っています。まずは163カ国に1,030以上もの箇所が登録されています世界遺産。それから、ユネスコエコパークとして認定されているのは、119カ国で650カ所になっています。さらには、昨年11月の時点でユネスコ世界ジオパークに認定されている箇所が、33カ国に120カ所あります。

Of course many of the World Heritage sites include geological sites. This is a geological World Heritage site from China, and here are fossils of animals about 540 million years ago from a period of time, a period of Earth history, when there was a huge explosion in the diversity of life.

もちろん、世界遺産の中には、地質的な重要性を持っているところもあります。今、写真でご紹介しているのは、中国のそのような地質的なサイトになります。こちら、小さい写真はそこで発掘された化石になっています。この化石も5億4000万年前の地球にどのような生命体があったのかを示しているわけなんですが、その時期というのはこの地球上で生物の多様性が爆発的に増えた時期でもあります。

But with many geological World Heritage sites, I suppose you might ask, "Why do we need UN-ESCO Global Geoparks?"

これだけ多くの地質的な側面を持っている世界遺産があるわけですから、では一体なぜ、ユネスコ世界ジオパークという存在が必要なのかと疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。

So this is something I will try to explain to you.

その点について今私のほうから説明をいたします。

This is now the definition as adopted last November in UNESCO. This is the definition of a UNESCO Global Geopark. It is a single, unified, geographical area where sites and landscapes of international geological significance are managed with a holistic concept of protection, education, and, most importantly, sustainable development.

こちらに今、お示ししていますのが、昨年の11月の総会で採用されているユネスコ世界ジオパークの定義になります。ユネスコ世界ジオパークというのは、単一で統一的な地理的地域であり、国際的に地質学的な重要性を持っているところであります。それは全体的な視点から、保護と教育、そして何よりも重要なのが持続可能な開発に焦点を当てられているということです。

This is the Zhangjiajie UNESCO Global Geopark in China. It may look familiar to you if you have ever watched the movie Avatar. This is where they filmed it.

こちらの写真にありますのは、中国にある張家界のユネスコ世界ジオパークの写真です。アバターの映画をご覧になっている方はひょっとすると見覚えがあるかもしれません。映画の撮影が行われたのがこちらの場所です。

And is a geopark just about geology? Absolutely not.

では、このジオパークというのは、地質学だけ がポイントなのかと言いますと、決してそんなこ とはありません。

The Geo in geopark comes from the Greek word "Gaia". "Gaia" means Earth.

この、ジオパークのGEO、ジオという部分は、 ギリシャ語のガイアという言葉が語源になってい ます。これは地球、地を示しています。

And what the role of the geopark is, is to explore and celebrate the links between

The control of the co

the heritage of our Earth and everything it has given us.

このジオパークの持つ役割とは一体何なのか。地球が持っている遺産、そして我々にこの地球がもたらしてくれる恵みの様々な繋がりや接点について愛でる場所であります。

And just a little thing about what the Earth has given us, the geodiversity has biodiversity. Without the difference of rock types, without the difference of soil, without the difference of topography, you don't get the diversity in biology that we have today.

地球が私たちにもたらしてくれた恵みについて少し考えてみましょう。この地質的な豊かさ、多様性というのが、ひいては生物の多様性を生んでくれているわけです。様々な岩や石、もしくは土、地形、このような変化に富んだものが無ければ今の生物の多様性も決して可能ではありません。

The distribution of our geological resources have shaped how our society has developed over thousands of years from the Stone Age, the Iron Age, the Bronze Age, the Coal Age, the Silicon Age – all geological resources.

また、この地質的な資源の配分が、人類の何千年にもわたる社会の発展や進化にも影響をしてきています。 かつては石器時代、その後青銅や鉄器が盛んになり、さらには石炭、そして今やシリコンなどが使われる時 代になっていますが、資源の配分が我々の社会の発展にも大きく影響してきています。

And strange geological landscapes such as this have given rise to folklore, to legends, and they have inspired local people for generations as well.

また、このように非常に不思議な魅力を持っている土地の景観というものが、例えばその地域の民話や民謡、そして伝説を生んできましたし、その土地に暮らす人々に何世代にもわたって非常にインスピレーションを与えてきています。

When you start looking at how all these things are so intimately linked, then you begin to understand really the concept of a UNESCO Global Geopark.

今、申し上げた様々な点について改めて思い浮かべていきますと、いかに全ての要素が密接に関連し合っているのかということがお分かりいただけると思います。そこからこのユネスコ世界ジオパークの重要性、 意義というのを感じていただけるはずです。

I gave you a brief history because this is something also unique about the geoparks, is this is the first time that UNESCO in terms of a site designation has brought in something that has already existed before.

また、簡単に今、歴史的な経緯をお話しているわけですが、ジオパークに関して申し上げますと、今回初めてユネスコが既に外部で現行の、既存でありました認定制度を採用した初めての例ということになります。

It began in the year 2000 when four areas in Europe came together and called themselves the European Geoparks Network.

その始まりは2000年にさかのぼります。その時にはヨーロッパの中の4つの地域がヨーロッパジオパークネットワークというものを立ち上げました。

Four years later, the European Geoparks Network had 16 members, and in UNESCO Headquarters, they joined together with eight Chinese Geoparks to create the Global Geoparks Network and to create the new label of Global Geopark.

その後、2004年には、ヨーロッパジオパークネットワークというところが16カ所に増えていました。そこと、さらにはユネスコの本部で、8つの中国のジオパークとが手を組み、世界ジオパークネットワークを形成し、また、この時に世界ジオパークという認証も作りました。

Since then, the network has met every two years at these various locations, and today we have 120 Global Geoparks in 33 countries and five continents.

その後、このネットワークとしては、こちらにも記しています各地で2年に1回会議を開催しています。 現時点においては五大陸、33カ国にて120カ所の世界ジオパークが誕生しています。

The geoparks however do not exist in isolation from each other. This is not just a list of territories. This is a network, an active network, a dynamic network, a network where cooperation, where exchange, is compulsory.

このジオパークというのは、決して単独で存在をしているものではありません。単に様々な場所をリストに登録しているというのではなく、実際にネットワークとして、積極的にまた活発に共同で作業をしています。つまり、協力をすること、そして意見交換等をすることが必須となっているわけです。

And just to show you where we are – this is the distribution of the UNESCO Global Geoparks. You can see immediately a big concentration in Europe, a big concentration in Eastern Asia and Japan, but nothing really in Africa, very little in the Americas, nothing in Australia. So we have a big job to do as UNESCO Global Geoparks to help these areas get the same benefit from geoparks as you get. This is our responsibility, to put dots in these parts of the world.

現状のユネスコ世界ジオパークについてご覧ください。このように分布しているわけですが、数が多いのがヨーロッパ、それから日本を含む東アジアだということがおわかりいただけると思います。一方のアフリカ、それから南北のアメリカ、そしてオーストラリアには今、余りありません。ここをより増やしていく、そしてユネスコ世界ジオパークというメリットを他の地域も享受できるようにするというのが我々の職務、責任であります。今、あまり点が載っていない地図の箇所にも、この点をぜひ増やしていかなくてはいけないという責任を担っています。

UNESCO's Global Geoparks hold a record of past climate change. As a geologist when I look at a rock, I am looking back in time. I can look at that rock and read the history of the rock and so do I can read the history of the Earth itself.

また、ユネスコ世界ジオパークは、これまでの気候変動の記録などを保存しているところです。私自身、 地質学者として、岩を見るときにはその岩だけではなく、その岩が持っている地球の歴史、時をさかのぼっ てその地球のそれまでの歴史についても見えてくるわけです。

We heard a lot today about climate change and indeed it is a very dangerous thing. But the Earth has always experienced climate change, life has adapted to climate change, and the geoparks, by reading the past, can help society prepare for what might come in the future.

今は気候変動が非常に話題になることも多く、実際に危険な現象だと思っております。ですが、地球では、何度もこの気候変動を体験し、克服してきているわけですし、生命体も常にそれに合わせた対応をしてきています。こういったジオパークは、過去からの教訓を私たちに示してくれます。そしてそこから、未来への取り組み方が見えてくるはずです。

Many of the geoparks such as the ones in Japan are in tectonically active areas of the world, and in these places they have a very special role to help local communities mitigate geo—hazards through awareness raising and building disaster response strategies.

また、日本のジオパークの多くは、地殻変動が非常に活発なところに位置しています。その観点からも、こういった場所の持つ役割は非常に重要なわけです。地域社会として、そういった地質災害にどう対応するべきなのか、また災害対応の方策を策定する際にも非常に有効なものとなります。

This is the Katla UNESCO Global Geopark of Iceland, and along the side of the image you can see the line of small volcanic hills.

こちらは、アイスランドにありますユネスコ世界ジオパークのカトラです。で、写真の右側をご覧いただくと、ここに線をなして並んでいるのが火山であるということが分かります。

Just over 200 years ago, this was the site of the biggest volcanic eruption humanity has ever witnessed in terms of the amount of lava that came out of a single eruption.

200年前ほどのことですが、実は、ここの火山の噴火があり、それまでの人類史上の中でも1回の噴火としては最大量の溶岩が流れ出すという非常に大きな噴火がありました。

So much lava and so much poisonous gas was put into the atmosphere of northern Europe that it caused famine for two or three years, it caused tens of thousands of deaths, and almost led to the evacuation of Iceland as a country.

その噴火の結果、大量の溶岩が噴出し、また有毒ガスが大気を充満しました。その後、北ヨーロッパにおいて2、3年にわたる飢饉も発生し、何万人もの方が影響を受けました。そして、この時には、アイスランドという国自体が避難をしなくてはいけないかもしれないという非常に重要な危機にさらされました。

What would happen if this erupted again today?

現在この噴火が再び起きたらどうなるのでしょうか。

It would once again poison the atmosphere, it would once again cause very rapid climate change, but just think of the casualties it would cause today in today's modern world.

もちろん、再び大規模な大気汚染が発生することでしょう。また、急速な気候変動ももたらすはずです。 ですが、今のような社会情勢においては、前回とは比べ物にならないほどの被災者への大きな影響が出るは ずです。

It is very important that geoparks play this role in preparing for geological hazards.

従って、このような地質学的な災害に対して、準備を整えるという意味でも、このジオパークの持つ役割 は非常に重要なものになっています。

I mentioned that the core philosophy behind geoparks is that of sustainable development. It is about community empowerment. It is about making local people really aware that they live somewhere special, that they are special people, and that they can really achieve things that maybe they didn't dream of before.

また、このジオパークの持つ最も重要な役割は持続可能な開発であるということも申し上げました。これはつまり、地域社会に力をもたらし、そして地域の住民に対しても自らの地域が非常に特別な場所であると

いう意識を植え付け、そして彼らにも今までは夢にも思っていなかったことができると思わせるのがジオパークです。

For geoparks, local people aren't just the people who happen to live in the geopark, they are the geopark. It is their geopark. It is the people who are the geopark.

ジオパークというのは、その地域に住む人たちがたまたま住んでいる地域がジオパークであるというだけではありません。実はジオパークというのは、そこに住む彼ら自身、人々もまた、ジオパークです。そのジオパークは彼らのものであり、そして彼らもまたそのジオパークなのです。

And I want to give you some examples of exactly what I mean about community empowerment. 地域社会の力について、どのようなことを考えているのか、例を挙げながら説明をしたいと思います。

These are two ladies from Jeju, South Korea.

この2人の女性は、韓国の済州島の方です。

This lady, she is a Geopark Ambassador. She is a tour guide and she brings visitors around Jeju and she shares with the visitors her stories of growing up in Jeju, what it was like, sharing local tradition, local folklore, and also geology because she has done a training course in geology.

今この写真に写っている女性は、ジオパークのアンバサダー、大使をしています。彼女はツアーガイドとして済州島に来るたくさんの人たちをツアーで案内しています。彼女自身が済州島で育っているということもあって、昔はどのような暮らしであったのか、そしてその土地にまつわる伝説や物語についても話をします。そして、地質学的な講義も受けていますので、その地質についての説明や談話もします。

But when this lady was a 14-year-old girl, she was told by her teacher at school to leave school, that she was so stupid there was no point to continue any further her education.

でもこの同じ女性が14歳だった時には、学校の先生にもうあなたは学校に来るのをやめなさい、本当に成績も悪いのでこれ以上勉強を続けても意味がないですよと言われたそうです。

And so for the rest of her life, she basically sat at the harbor and sold squid to people.

その後、彼女は港で道行く人たちにイカを売って生計を立てていました。

But when the geopark arrived in Jeju, she found something that really interested her.

しかし、済州島にジオパークができてみると、彼女はそのことに大変興味を覚えました。

And she became so enthusiastic and so interested that this lady who was told when she was 14, "You're too stupid, you must leave school," is now finishing her PhD in geology.

そして、非常に熱心に関心を覚えたのがきっかけとなり、14歳だったときにあなたは成績も良くないのでもう学校に来るのはやめなさいと言われたその女性が、今地質学の博士課程をまもなく修了しようとしています。

That is what we mean by community empowerment.

これが私の言うところのコミュニティのエンパワーメント、地域社会の力です。

This is a lady from the Muroto UNESCO Global Geopark of Japan.

そして、これは日本のジオパークの室戸の方です。

And she witnessed the last time a tsunami hit this part of Japan and she has made it her life's work to make sure the memory of that event doesn't die and doesn't fade, and she brings children and visitors into her home to show them pictures and newspaper clips of what it was like the last time a tsunami hit that part of the coast.

この室戸の女性は、最後に津波があったときの記憶を風化させてはいけないということで、そのための活

動をここで行なっています。自宅に子供達を招き入れて当時の津波の写真であったり新聞記事であったりというのを見せながら、その津波に襲われたときの様子がどのようなものであったのか、それを鮮明に説明しています。

This is a Kazan Meister from Toya Usu, Hokkaido, another local person who is so concerned that the local people need to be prepared for a volcanic eruption that she has got involved in the work of the geopark.

また、こちらは洞爺湖有珠山の火山についてのエキスパート、マイスターです。彼女もまた、ジオパークの活動の中で噴火が起きた時にどのような対策を地元としてしていなければいけないのか、そのような啓蒙活動を行っています。

These are local people from Ecuador and in their culture the volcanoes are either male or female.

こちらはエクアドルの地域の住民の方たちです。彼らの文化では、火山もオス、そしてメスとに分かれています。

And they share their stories with visitors as well, and to help bring sustainable economic development to this part of Ecuador.

彼らもまた、この地域を訪問する人たちに地域の物語を語り伝えてくれます。そういった試みを通して、 この地域の持続可能な開発に寄与しています。

There is another special culture in this aspiring geopark in Ecuador.

このエクアドルで現在ジオパークの認定を目指している地域の方たちです。

And this is my own country. This is in one of the geoparks in Ireland. These are the local people. We have created a new visitor center, they did a lot of fundraising, and they managed to create a new geopark center which has become the focal point for this very small community.

これは私の母国アイルランドのジオパークの場所になります。後ろのほうにいる方が地元の方になりますが、彼らは非常に熱心に活動をして資金集めをし、新しくこのようなビジターセンターをつくりました。このジオパークのビジターセンターが、非常に小さな地域の、今や中心的な施設になっています。

The economic transformation of their community has been so spectacular that this gentleman came down to help celebrate with them. This is the Prime Minister of Ireland.

この、コミュニティの経済的な発展は非常に目覚ましく、今写真の真ん中に写っていますアイルランドの 首相が訪問し、祝福をするまでになりました。

Another example of great community empowerment.

これもまたコミュニティエンパワーメントの非常に良い例だと思います。

And here you can see the inside of the center with some musicians, some explanations – it is really now the heart of the community.

そしてこちらには、ビジターセンターの内部の写真がございますが、中にはミュージシャンなどがいて、 ここで物語を伝えたりしています。

Of course geoparks have to communicate geoscience, but we do this in many different ways. This is an example from England where young children are learning about how fossils are formed.

もちろんジオパークには地球科学について伝えるという使命がありますが、その方法は様々です。こちらでは、イングランドの例がありますが、子どもたちが学んでいるところを写真に収めてあります。



This is an example from Germany. This is a local person who is the daughter from a farm and she is a geopark ranger. She is bringing these tourists on a tour of her own geopark, and of course earning some money in the process.

こちらは、ドイツの地元の住民の女性が、 実は農家の生まれの人なんですが、今では ジオパークのレンジャーとして観光客をツ アーに連れて行って話をしています。もち

ろんそこで自分の収入も得ることができています。

Geoparks of course have a responsibility to protect our geological heritage. This is an example of a dinosaur fossil kept in place in China, and the museum built over the site where the fossil was found.

もちろん、ジオパークは地質学的な遺産を守るという使命があります。こちらの写真では、中国で見つかった恐竜の化石ですけれど、そこに博物館が建てられたというものです。

And this is an example from Greece from the Island of Lesvos. And here you can see active geological conservation. These are fossil tree trunks.

そして、こちらはギリシャのレスボス島の木の化石ですけれども、現在でも行われている化石の保全活動 を写真に納めました。

Education is at the heart of geoparks as well. These are three young children from Uruguay.

そして、教育もジオパークの使命の中心的なものです。こちらはウルグアイの3人の子供達です。

They did a project on exactly what a geopark is and then presented the findings to three government ministers; the Minister of Education, the Minister of Tourism, and the Minister of Economic Development for Uruguay. The young children had the nerve to do that, an incredible sense of empowerment again right down to the school children.

この3人の子供たちはジオパークとは一体何なのかということを研究しました。そしてその成果を政府の教育、観光、経済開発大臣3人の閣僚に対して説明をしました。3人の幼い小学生であっても、このようなことをやっていたということで、これも、まさにジオパークが行っていること、地元の人たちに力を与えるということの例です。

And here's a group of schoolchildren from China learning about their geological heritage in the Museum of one of their UNESCO Global Geoparks.

そして、こちらは中国の子供達ですけれども、地質的な遺産について学んでいて、中国の中にあるユネスコ世界ジオパークの1つで学んでいるところです。

Of course a lot of geoparks offer sustainable tourism products. This is an example from France. This is an electric bicycle. This lady has a helmet that is fitted with special technology that as she is cycling through the countryside, every so often she receives a signal telling her to stop and to look and it gives her an explanation of what she is looking at. The explanation might be geology, it might be about the farming practice, or it might be some cultural heritage.

もちろん、ジオパークは持続可能な観光も行っています。こちらの写真はフランスで撮られたものですけれども、女性は電子自転車に乗っています。そしてヘルメットには特別な装置がついており、ヘルメットを使って信号を受信すると、例えばその場所で止まるようにという指示を受けて、そこで彼女が見ているものに関して説明を受けます。内容は、地質学的なものだったり、その場の農業であったり文化遺産に関するものであったりと様々ですが、そのような説明を受けるような技術があります。

Most geoparks also bring together geologists and the art community as well. This is another example from France. This is a piece of artwork put there by an internationally famous sculptor in front of these very strange rocks.

ジオパークには地質学者とアートコミュニティのコラボレーションをしているところもあります。こちらの写真はフランスで撮られたものですが、国際的に有名な彫刻家の作品を、非常に奇妙な見た目の岩の前に置いたものです。

We tried to bring science and art together. So long apart, we want to bring them together so they can learn from each other.

私たちは科学とアートを結び付けて、それぞれがお互いから学び合えるようにしています。

Geoparks of course is about sustainable development. This is an example of a women's cooperative from one of our geoparks in Greece.

そしてジオパークとは、持続可能な発展、開発を目指すものですので、例えばこちらは、ギリシャの女性 たちの協同組合の写真です。

This is an example of some food from a geopark food trail in Ireland.

こちらはアイルランドにあるジオパークフードトレイルでつくられた食料を売っている写真です。

These are all local products, small—scale production, organic food, traditional methods, and the local people can sell this at a higher price and it brings more benefit into the local community.

そして、このような場で売られているものはみな、地元の製品であって、小規模生産でつくられた有機の もので、伝統的な技法をつくって生産されています。地元の人たちは通常よりも少し高い値段でこのような 製品を売ることができるので、より多くの利益を地元コミュニティにもたらしています。

I am just going to skip the slides to move on a little bit faster.

少し早めに進めたいので何枚かスライドを飛ばします。

Because I want to move on to an important point of what has just happened in UNESCO. What just happened in November? If the geoparks already existed, what difference does this new UNESCO label actually make?

ユネスコで実際何があったのか、前回の総会でどういうことが話し合われたのか、またジオパークが既にあった、既存のものであったということで、ユネスコの認定制度がどのようなことを可能にするのかをお話したいと思います。

In 2001, the member states of UNESCO agreed to support geoparks on an "ad-hoc" basis.

2001年にユネスコの加盟国は、ジオパークをその時の一時的なものとして認めるということを決定しました。

But nobody was ever really sure what it meant.

しかし、誰もそれが一体どういうことなのかよく理解していませんでした。

Neither the geoparks were sure, and it turned out neither the member states really understood

either.

ジオパークも、そしてユネスコの加盟国もどういうことなのかわかっていませんでした。

So over the last four years, member states and UNESCO began a major push to try and create a new label, the label of UNESCO Global Geoparks.

ですから、この4年間、ユネスコと加盟国は、ユネスコ世界ジオパークという新しい認定制度をつくるために大々的に後押しをしてきました。

This label would legally formalize the link between UNESCO and the Global Geoparks.

この認定制度によって、ユネスコと世界ジオパークの繋がりを正式な事業とするということができるよう になりました。

It is this legal formalization that happened on 17 November 2015.

これは、法的にも正式に事業にするということで、2015年11月17日にこの決定がなされました。

This is a view of the debate as it happened. What does the new label actually mean?

これが、実際に議論がされていた時に撮影された写真ですけれど、この認定というのはいったい何を意味 するのでしょうか。

It doesn't involve an international convention or an international agreement.

この認定制度には、新たな国際条約や国際的な協定は必要とされていません。

It doesn't impose any legislative restrictions on the local people.

また、地元の住民の方々に法的な規制を押し付けるものでもありません。

It is a bottom-up designation, the involvement of local people at its very heart.

地元の住民が中心となるボトムアップの認定制度です。

And now along with World Heritage and Biosphere Reserves, UNESCO Global Geoparks cover the full remit of the planet's natural heritage.

そして、世界遺産と生物圏保存地域に加えて、ユネスコ世界ジオパークが地球の自然遺産全ての領域を網 羅する、カバーするということになります。

So what has changed? Well there is a new label, plus a new logo, new statutes and guidelines, a new application process, which does involve an intergovernmental check, a new revalidation process, new governing bodies, a new financial model, and a new formal link to the IGCP.

こちらの新しいユネスコの認定制度とロゴ、そして新しい定款や規則、ガイドライン、そして新たな政府間のチェックを含む申請プロセスを持っています。そして、新しい再審査のプロセス、また、新しい運営機関も設けられましたし、そして新たな財政モデル、そして新たに IGCP との繋がりもつくられております。

For the first time ever, UNESCO agreed to bring in all these existing 120 Global Geoparks, to bring them into the new label subject to a letter from each member state, and thankfully all the letters were received before the debate was passed.

そして全ての既存の世界ジオパーク120カ所が新たな制度に移行することになりますが、これは、その加盟国の支持の表明を条件としておりまして、実際に事前にこれらの国々の支持の表明を取り付けることができました。

All of the new 120 Global Geoparks have now got their new logo along with the guidelines for how to use it and how not to use it, so make sure you follow those very carefully.

そして、全ての120の世界ジオパークは、新しいロゴ、そしてその使い方、またどのような使い方をして はならないのかというガイドラインを既に受け取っておりますので、このガイドラインには厳密に従わなけ ればなりません。

The UNESCO Global Geoparks and the IGCP are now part of a new programme called the International Geoscience and Geoparks Programme.

ユネスコ世界ジオパークと IGCP は今、新たに立ち上げられた国際地質科学ジオパーク計画の一部として含まれています。

The new guidelines for UNESCO Global Geoparks are very much based on the previous existing model, but there are some important changes that I will now go through with you.

ユネスコ世界ジオパークのガイドラインは既存のモデルに従っているものですけれども、新たに設けられたこともありますので、それを皆さんにこれからお伝えしたいと思います。

One of the main changes is this: Previously, UNESCO Global Geoparks are not protected areas, so they are not national parks, they are not national reserves, and they do not have to be protected areas. However, the main geological sites – in other words, those sites that are the reason you have become a UNESCO Global Geopark must be legally protected.

ユネスコ世界ジオパークというのは、保護区ではありません。しかし、なぜそこがジオパークとなったのかを示す、その特徴的な場所に関しては、法的に保護されるべきというふうに思います。

And so for those already existing geoparks, this will be checked the next time you are due for a revalidation.

ですから、既存のジオパークは再認定を受ける際には、このような保護がされているのかどうかということが確認されることになります。

Before an application is made, your country must submit to UNESCO a formal expression of interest.

このユネスコ世界ジオパークの認定を受けるための申請をする前に、各国はユネスコに対してその申請を する意向があるということを表明しなければいけません。

The application can only commend you are in October and November and it must be sent by the national authority in your country that has relations with UNESCO.

申請は10月~11月に行われるもので、ユネスコと関係のある国の当局によって申請されなければなりません。

And this is a very important aspect here. We do not want to be duplicating the efforts for world heritage sites, for biosphere reserves, so we don't encourage areas with an already existing designation to become a geopark.

私たちはユネスコ世界ジオパークの申請に関して、世界遺産もしくはユネスコエコパークの認定と重複することは避けたいと思っております。ですから、ユネスコ世界ジオパークが既存の認定と重なっていないかどうかということを確認しなければなりません。

However, if such an area does want to become a geopark, then they must send us clear evidence of why this is justified and also evidence of how they are going to work in synergy together with the other designation to make sure there is no duplication of effort.

しかし、重複するとしても、それでもユネスコ世界ジオパークの認定を受けたいというのであれば、それが正当化されるに足る証拠を提出しなければなりませんし、また、その重複によっても相乗効果があるということを示さなければなりません。その労力の重複は避けたいということです。

So after the applications are checked for being complete, UNESCO then puts a one page sum-

mary of each new application on their website.

申請の完了が確認されたら、ユネスコは1ページの概要をウェブサイトに掲載します。

They stay there for three months, so at the moment if you look at the UNESCO website you can see the one page summary of each of this year's new applications. If at any time I receive an objection from another member state about an application, then I will withdraw that application and it will be up to the two member states concerned to sort out the problem themselves. UNESCO will not get involved in any disputes.

この1ページの概要は3カ月間ウェブサイトに掲載されますけれども、そこで、皆さんも今年新たに申請された箇所がご覧いただけます。ただし、その申請に関して、他の加盟国から何らかの反対があった場合には、その申請を私がおろして、そして加盟国、その提出をしている国と、それに反対する2カ国の加盟国がお互いでこの問題を解決しなければなりません。ユネスコは、何らかの対立があった場合には、それには全く一切かかわることはありません。

So assuming there are no objections, a field inspection will occur between May 1 and August 15, and two evaluators will go and travel and visit your area.

反対がないということでしたら、今度は5月1日から8月15日までの間に現地審査が行われ、2人の審査 員がその申請されている場所を実際に訪れます。

After the field evaluation, a report will be made to the UNESCO Global Geoparks Council, which will meet in September.

そして、現地審査が行われましたら、ユネスコ世界ジオパーク評議会が9月に会合を行いますが、その場で評価が行われます。

This Council will then make a recommendation to the Director General of UNESCO concerning each application, whether they should be accepted, deferred, or rejected.

そして、その後、この評議会がユネスコの事務局長に対して、この申請を承認するか、もしくは延期するか、却下するか、それぞれ勧告を行います。

The Director General of UNESCO will then ask the Executive Board of UNESCO the following April to endorse the recommendations of the Council. And this will be the final decision on UNESCO Global Geoparks that will be made by the Executive Board of UNESCO.

そして、事務局長がその勧告をユネスコの執行委員会に対して翌年の4月に提出をいたします。そして、 その評議会の勧告に基づいで執行委員会が申請を承認するかどうかということを最終的に決定します。

But as before, designation as a UNESCO Global Geopark is for a limited period of time only. You get the label for just four years.

しかしこの認定を受けていられる期間というのは限られていまして、ユネスコ世界ジオパークは4年間の みとなります。

After the four years you have to go through a very thorough, very strict revalidation exercise in order to have your designation extended for another four years.

そしてその4年の認定期間が過ぎたら、再び厳格な再認定の審査を受けることになります。そして認定を されれば、さらに4年間延長ができるということになります。

And so this year there will be 22 geoparks going through this revalidation process.

今年は22のジオパークがこの再認定審査を受けることになります。

The results for this revalidation can be the so-called green card. That means you are renewed

for another four years.

その結果はいわゆるグリーンカードと呼ばれるものがありまして、その場合は、新たに4年間、認定が延 長されるということになります。

But if we find that there is a particular problem in your geopark, that it is not functioning right, that maybe the local community are not involved properly, then you get the so—called yellow card which means you only get the label for two more years.

しかし、何か具体的な問題がある、ジオパークがきちんと機能していないですとか、地元の住民が十分に関わっていないということになれば、イエローカードと呼ばれる認定を受けて、2年間だけその認定を延長することができるようになります。

And then after those two years, we go back and we pay you another visit, and if the problem hasn't resolved itself, then we will take the label off from you and you lose your status as a UN-ESCO Global Geopark.

その2年間が終わってから、もう一度現地審査が行われて、それでもやはり問題があるとされた場合には、 ユネスコ世界ジオパークの認定が取り消されます。

So this is a very strong periodic review system.

ですから、非常に強力な定期的な再検討システムということになります。

And all the costs that are associated with both the evaluation and revalidation must be paid by you, the geopark itself.

しかし、この審査ですとか、再審査に関わる全ての費用は、その申請をしているジオパーク側が払うこと になります。

So what is the UNESCO Global Geoparks Council? Who are these people?

では、そのユネスコグローバルジオパークカウンシル、評議会とは一体どのような存在でしょうか。

It doesn't exist yet because we still have to appoint people to this new body, but there will be 12 people who will be high profile experts in geoparks based on their proven experience and qualifications.

このユネスコ世界グジオパークカウンシル、評議会はまだ存在していませんので、これから12人のメンバーを任命することになりますが、ジオパークに関する経験や資格のある専門家が任命される予定です。

As with the Geoparks Council, there will be a new body called the UNESCO Global Geoparks Bureau. It will consist of the chairperson, vice chairperson, rapporteur of the Council, as well as a representative of UNESCO and the Global Geoparks Network who will be ex-officio member, without the right to vote.

そしてこの評議会に加えて、ユネスコ世界ジオパークビューローと呼ばれるものも設立されます。会長、 副会長、報告者、ユネスコの代表者、そして世界ジオパークネットワークの代表者が参加します。

I mentioned about a new financial model. This is also something unique of the UNESCO Global Geoparks. Every UNESCO Global Geopark must pay a voluntary fee of \$1,000 each year to a capacity building fund held by UNESCO.

そして、ユネスコ世界ジオパークの新しい財務モデルをお話しますが、これは、ボランタリーで各ジオパークが1年間に1,000ドルの、能力育成のための費用を払います。そして、この基金というのはユネスコが管理することになります。

So these funds will help UNESCO to have capacity building activities in those areas of the

world where there are few renowned geoparks at the moment, so especially Africa and Latin America.

この各ジオパークからいただいた1年間に1,000ドルというお金はキャパシティービルディング、能力育成のために使われますが、これは世界でジオパークがまだない、もしくは少ないという、特にアフリカや中南米の地域の能力育成のために使われます。

I also mentioned there is now this formal link to the IGCP and I hope in the coming years we are going to see the scientists of the IGCP and the people working in UNESCO Global Geoparks really starting to come together, to work together, to learn from each other.

今、この正式な事業化によってIGCPとの繋がりも正式にできましたので、私たちは科学者とユネスコ世界ジオパークの関係者の方たちが集まって一緒に作業していくことを期待しています。

I am convinced this will be a fresh start for Earth science in UNESCO but also a great opportunity for Earth science on a global level as well as to really engage with society so that society really understands the importance of respect for planet Earth.

これによって、地球科学の分野での活動が活発になること、そしてまた、社会が地球科学の重要性をより 強く認識して地球への敬意をさらに深めてくれるようになるということを期待しています。

What is next? This year we haven't stopped still, so this year we have applications from China, Czech Republic, Ecuador, France, Iceland, Indonesia, Iran, Ireland, Mexico, Norway, Korea, Spain, the United Kingdom, and two extension applications.

今年は中国、チェコ共和国、エクアドル、フランス、アイスランド、インドネシア、イラン、アイルランド、メキシコ、ノルウェー、韓国、スペイン、イギリスからの申請を受けています。そして2つの拡張の申請も受けています。

I want to come back to the concept of sustainable development which is really fundamental behind the UNESCO Global Geopark.

ここで、もう一度持続可能な開発というユネスコ世界ジオパークにとって大変重要な基盤となることをお 話したいと思います。

The four—year revalidation process is our check to make sure that sustainable development is actually happening.

4年ごとの再認定の審査というのは、持続可能な開発が実際に行われているかどうかということを確認するために行います。

And we can see from right across the 120 Global Geoparks that it is happening.

そして私たちは実際に、持続可能な開発が120のユネスコ世界ジオパークで行なわれているというふうに感じています。

Just two years ago, the United Kingdom's National Commission to UNESCO...

2年前にイギリスのユネスコ国内委員会ですけれど。

…commissioned the study on the value of UNESCO to the economy of the United Kingdom. ユネスコの価値がイギリス経済にどれほどの影響があるのかということを調査するために委託を行いました。

They looked at every activity in UNESCO that the United Kingdom has an involvement with.

そして、イギリスが関わっているユネスコの活動についてすべてを調査しました。

There were two activities that were very clearly delivering much more than anything else.

2つの活動が、その他のどれよりも多くの 価値を生み出しているということがわかりま した。

24 world heritage sites were contributing substantially to the economy of the United Kingdom.

24の世界遺産がイギリス経済に多大な貢献をしているということがわかりました。

But the big contribution were the six Global Geoparks.

しかし、特に大きな貢献をしているのが6 カ所の世界ジオパークでした。



I'm confident that under the new UNESCO program that this level of sustainable development will really increase and local communities will really see the difference.

私は、この新しいユネスコのプログラムによってこのようなレベルの持続可能な発展、持続可能な開発が 地元の人たちにも強く感じていただけると確信しています。

If you want to see some of these benefits, then I would like to invite you to the first International Conference on UNESCO Global Geoparks which will happen in the wonderfully named English Riviera, UNESCO Global Geopark in September 2016.

もしご自分でもぜひこの活動による恩恵を見てみたいと、確かめてみたいとお思いでしたら、素晴らしい 名前の付いたイングリッシュ・リビエラ・グローバルジオパークで、2016年の9月に行われる会議にぜひご 出席していただきたいと思います。

And this will be the opportunity for all 120 UNESCO Global Geoparks to have that party together to celebrate the new label.

この会議にご出席していただければ、120のユネスコ世界ジオパークの皆さんがこの新しいユネスコの認証を祝う素晴らしいパーティーをともにしていただけると思っております。

I want to finish by thanking the colleagues of the Japanese UNESCO Global Geoparks for helping us to get to this wonderful position where we find ourselves now. I also want to remind the Japanese UNESCO Global Geoparks, you have a big international responsibility to help with the creation of geoparks in other areas of the world to help other local communities get the benefit that your local communities have had. Remember that Global Geoparks are a family, and international family, and all of us have a part to play in that. Arigato.

最後になりますが、日本のジオパークの皆さま、日本のユネスコ世界ジオパークのここまでの歩みにおつき合いいただきました、ご支援いただきました皆さまにお礼を申し上げます。日本のユネスコ世界ジオパークは、国際的な責任を負っていらっしゃいます。それは世界の他の地域にユネスコ世界ジオパークをつくるということです。そして、今現在、ユネスコ世界ジオパークを持つ地元のコミュニティが享受している恩恵を、他の地域にも、他のコミュニティにもぜひ享受させてあげるということです。ジオパークは、世界の国際的な家族であるということをぜひお忘れいただかないでいてほしいと思っております。ありがとうございました。

質疑応答

【会場】 Thank you Dr. Patrick for your very nice introduction about Global Geoparks. I have a question that is related to the local problem that is now facing Japan. It is about the population and the lack of human resources. Japan is now facing a huge aging problem. And as you mentioned, geoparks are people. So if we don't have people, then we don't have geoparks. So what would be



the criteria to think about how to phrase the problem of an aging population in Japan and especially in this local Hakusan area? Do you have any ideas about that please?

マッキーバーさん、本日は世界ジオパークに関する非常に有効な、有益なプレゼンテーションをしてくださいましてどうもありがとうございます。私のほうからは実は、非常に地域に根差した問題についておうかがいしたいと思っています。日本の場合には、特に各地域の場合には過疎化、そして人手不足、人的な資源が不足しているという点があります。日本はご存知のとおり非常に高齢化が進んでいるという問題を抱えているわけです。先生の講演の中ではジオパーク=人であるということをおっしゃっていましたが、その人がいなくなってしまうとジオパークというものも成り立ちません。

我々日本では、どのようにしてどういった基準を用いてこの高齢化という問題に取り組んでいけばいいのでしょうか。特にここ白山という今、我々がいる地域のエリアについてどのようなことを考えていけばいいのか教えてください。

[McKeever] I think many countries have a similar problem. Certainly many European countries have this problem also. But we find in a lot of the geoparks, geopark is something that can give the local people an opportunity. So as we saw on Jeju, with these two ladies who have retired, they took a new opportunity and now they are making a difference to their area. They are bringing visitors into their area, they bring money into the area, and they are sharing their experience with other local people. So really it is about the community empowering itself and getting involved itself.

今ご指摘いただいた問題というのは日本に限らず、やはり多くの地域で見られる問題だと思っています。もちろんヨーロッパにも同じような問題を感じることはあるわけですが、こういったジオパークというのは、何よりも地域の人々にとって力となるものだということが重要だと思っています。先ほどは済州島の2人の女性の例をご紹介しましたけれども、彼女たちは実際に仕事をやめてからジオパークを通して新しい可能性というのを手にしたわけです。彼女たちの活躍のおかげで地域社会にそれまでになかった変革が生まれ、そして地域を訪れる人も増え、また、お金を落としてくれる人も増えていったということで、彼女たち2人も、同じ地域に暮らす人たちに自分たちの体験を共有するということもできるようになっていったわけです。こういったステップというのは、つまり地元の地域社会自らがより力を身につける、そしてより多くの力を獲得していくといった過程を非常に体現していると思います。

In areas such as this we often see not just a problem of the aging population but a problem of fewer opportunities for younger people. So there is nothing in an area like this to encourage young people to stay to get a job here. So we hope that the geopark will help change that a little bit. We certainly see that happening in a very substantial way in geoparks of China where the geoparks have created hundreds if not thousands of jobs in the countryside of China, keeping young people in villages that would otherwise become abandoned as they moved to big cities. So this is a very important role for the geoparks in areas such as this.

また、こういった高齢化の問題というのは、実際には若い人にとってチャンスが、機会が減っていくということの問題でもあります。特にこういった地域の場合には、若い人が残って仕事をそこでしようとは思えなくなるというのが問題です。我々としては、ジオパークがそういった問題を少しでも変えていく力になればということを希望しております。実際には、中国の特に地方でそういった効果が今見られています。今、中国の地方では、ジオパークのおかげでこれまでになかった雇用が何百人、もしくは何千人単位でつくられていっています。そういった雇用の機会がなければ若い人も村を捨て大都会に出ていって、村が閑散としたであろうところ、その若い人たちが集落に残って仕事を見つけていっているというのが、たくさん例として今出てきています。

【会場】 私は佐渡市から参りました。今日は本当に貴重なお話を聞けて、感謝しております。佐渡市は現在、世界農業遺産に既に登録されており、そして佐渡金山を世界遺産登録しようとしている、また既に佐渡ジオパークは日本ジオパークに認定されているんですね。これから、日本ジオパーク認定を世界ジオパーク認定に上げていこうと思っているところなんですが、この1つの島の中で、この世界的な3つの遺産



をどのようにまとめていくのかということを、私たちの小さな島の中ではまとめきれずにいるというのが実際のところで、悩みなんです。これについては先ほど、世界的な遺産の重複するものについては、とか色々言われていました。私たちはそういうことを欲張り過ぎかなと心配になったりもするんですが、こういう私たちの問題について、何かアドバイスがあったらお願いしたいと思います。

[McKeever] Thank you for the question which I'm really appreciated, because for me it is a very important issue.

ご質問をどうもありがとうございます。そのようなご質問をいただけて、大変うれしく思っております。私自身も大変重要な問題だと思っております。

I think, before you apply for any international designation, you must ask yourself very deeply what is it and what this move for.

まず、申請をする前に、提出をする前に、この国際的な認定を受けて一体何を望んでいるのかということを、よく考える必要があると思います。

What is the purpose, what is what you want to achieve?

その申請をして、認定を受けたらば、認定を受ける目的は一体何なのか、そして一体何を成し遂 げようと思っているのかということを、考える必要があります。

I think you need to look beyond the fame if you would like to have two or three international labels. I think you need to really ask yourself deeply what do I want to achieve, what is that I want to do, for humanity or I just want to have a label and then do nothing. We need to think very carefully. Last September, I had a public conference with IUCN, and we asked the same issue about geological World Heritage or Global Geopark, which label you want? And it really depends what you want to achieve. For the World Heritage label, you get incredible publicity I suppose and you get what is recognized as a long standing international label, but it has nothing to do with sustainable development. Where if you want to go with the Global Geoparks route, then it's all about sustainable development. So you have to ask yourself exactly what you want to achieve.

まず、認定を受けた場合には、例えば国際的な認定を2つか3つ受けた場合には、有名になるということがあるかもしれませんが、それでも認定を受けて一体何をしたいのか、何を目指しているのか、そしてコミュニティのために何を望んでいるのか、ということをよく考える必要があります。去年の9月にIUCNの会議に出席しましたが、その際にも、地質学的な世界遺産としての認定の方がいいのか、それとも世界ジオパークの方がいいのか、どちらがいいのか質問をされたことがあります。そこでやはり、自分たちが何をしたいと思っているのか、考える必要があります。世界遺産の認定を受ければ、長い歴史のある国際的な認定を受けるということで、確かに有名にはなり、報道はされるかもしれませんけれども、世界遺産の認定は持続可能な開発、持続可能な発展とは関係ありません。その一方で、ジオパークの認定というのは、持続可能な発展、持続可能な開発に関することそのものだと思っています。

講演2

「ユネスコの理念と地球環境保全のための活動」



松浦 晃一郎氏

前ユネスコ事務局長

Key Messages

- * 世界自然遺産やユネスコエコパーク、ジオパークは、マクロ(グローバル)にいえば地球環境を保全し、ミクロ(ローカル)にいえば地域社会を活性化させるという、2つの目標を有している
- ★ ユネスコの基本理念は、諸国民の間の相互理解を深め、不信を除いて誤解が生じないようにし、もって国際平和を実現することであり、そのためには国際交流を進めることが必要である

皆さん、こんにちは。

私からは、既にマッキーバーさんからユネスコ全体についてのお話がございましたけれども、ユネスコの 国際社会、さらには国連システムの中の位置づけと、それから地球環境活動全体、さらにはその中での具体 的な幾つかの活動についての位置づけをお話ししたいと思います。

ユネスコは、1945年11月16日に設立されました。したがいまして去年の秋、11月16日に70周年行事がありました。私は、私の後任のイリナ・ボコヴァさん、彼女は初めてのユネスコの女性事務局長でございますけれども、ブルガリア出身です。彼女に招かれて記念行事に出席いたしました。

実は、国連がほぼ1カ月前に発足しておりますので、国連も10月末にニューヨークで70周年行事を行っております。国連は、ご承知のように第二次大戦後できました国際連盟の失敗に鑑みて、よりしっかりした権限を政治分野でもって国際紛争を未然に防ぐ、あるいは発生した場合には早く収束させ、その事後処理に当たる。今の言葉で言えばハードパワーでそういうものにしっかり対応するという理念でつくられました。

ユネスコは、今の言葉でいえばソフトパワー。具体的には教育、文化、科学――科学も自然科学と社会科学がありますけれども、コミュニケーションの4分野を担当し、これらの分野の国際交流を通じて諸国民の間の相互理解を深め、誤解を生まないようにする。戦争というのは、こういう相互理解の欠如、不信、誤解が原因であるから、そういうものを除く。そのために国際協力をこれらの分野で推進するというのがユネスコの基本精神です。

今の言葉でいえば、ユネスコはユネスコ憲章に基づく専門機関です。私は、国連と言うときはニューヨークにある国連本部を指します。それから国連システムという言葉を使いますけれども、国連システムというときは国連本部と、それから専門機関。専門機関は実は戦前は国際連盟の外に幾つか、通信を担当するIT U等々ありましたけれども、戦後はそういうものを専門機関として国連システムに吸収し、さらには新しいものをつくって、今、十幾つあります。そういう専門機関が第2グループです。国連本部、専門機関。

それからさらには、専門機関は条約に基づいて設立するものですから手続が大変です。条約交渉をやり、 それを採択し、そして各国が批准して動き出す。そういう手続が大変だということで、国連の総会決議で設立するというシステムをつくりました。これは英語でいう Funds and Programs というんですが、日本語では「基金と計画」と訳していますけれども、まだ定着していません。むしろ具体的に基金と計画のグループ に属する組織、ユニセフがその中でも一番有名ですけれども、ユニセフ、UNDP などが有名になってきています。これらは国連総会の決議で、建前としては国連の事務総長の傘下にあります。ですが、専門機関は独立しています。国連事務総長の傘下ではありません。しかしユニセフ等は国連事務総長の傘下にある。これが第3グループです。

第4グループが、いわゆる世界貿易機関で、貿易、金融、援助を担当する世銀、IMF、そして当初はGATTですが今はWTO。

この4つのグループがあります。

きょうのテーマである地球環境について言えば、1945年、さらには50年代はそれが大きなテーマではありませんでした。ですから地球環境を担当するグループは当初どこにもありませんで、その後、だんだん環境問題が人類にとって大きな課題になりまして、さらに言えばそれぞれの国で話題になりました。日本でもご承知のように、1960年代に日本の環境問題が大きな話題になりました。私はもう既に外務省の一員で、よく覚えていますが、1960年代に外国に出張して東京に帰ってまいりますと、晴れているときを見ますと、今、北京とかニューデリーが話題になっていますけれども本当に東京が黒い雲で覆われていて、あんな中で生活しているのか、嫌だなと思いながら飛行機が雲の中に突入するというのを非常によく覚えています。

ただ実際に生活していると、今の北京やニューデリーは出張で時々参りますけれども、まちの中が PM2.5 で透明度を欠く空気に覆われていますけれども、東京はそういう状況ではなかったのを覚えています。ただ、外から見ると本当に黒い汚い雲で覆われていて、非常に残念に思いました。いろんな水俣病をはじめその他大きな弊害が生じましたけれども、日本も日本の環境問題というものをしっかり60年代の後半から取り組み出しました。

実は世界的にも同じような動きがあって、私は外務省の一員として、60年代の終わりから70年代の初めにかけて日本が非欧米国として初めて参加した OECD の日本代表部に勤務いたしました。当時、1960年に日本が加盟したんですが、OECD 加盟というのは日本が先進国の仲間入りをするという象徴であったわけです。そこで60年代の終わりから70年代の初めにかけて、やはり地球環境問題を議論する必要があるという意識が生まれ、環境委員会というのが70年代、OECD で誕生しました。国連システムでも同じ問題意識で議論が行われて、1972年に当時は国連人間環境会議などという言葉で言われましたけれども、後でこれが第1回地球サミットと呼ばれて、地球の環境問題全体を議論する場ができました。ただし、これはあくまでもアドホックな場で、地球環境問題を担当する機関がなかったんですが、その後、UNEP、これは今申し上げたグループで、いわば第3グループの基金と計画というグループで、残念ながら権限が非常に限られております。今、ケニアに本部があります。一応、建前としては環境問題を担当していますけれども、決して環境問題全体を担当していないし、条約交渉をやる権限を持っていません。ユネスコは、条約交渉をやって採択し、それを実施する権限を持っていますが、第3グループの基金と計画は持っておりません。ユニセフもしかりです。UNDPもしかりです。UNEPもしかりです。

したがって、去年盛んに話題になりましたパリで COP21が開かれて、地球温暖化に関して、かつての京都プロトコルにかわって炭酸ガス規制を新しくするパリ条約ができました。この温暖化条約というのは単独の条約になっていまして、UNEP の傘下にない温暖化条約という条約のシステム。

第2回の地球サミットが1992年に行われます。これは第1回から20年もたっておりました。当時、私は先ほどご披露のあった外務省の外務審議官を担当して、当時の宮澤総理のお供をしてブラジルへ行くことになっていたんですが、ちょうどそのころ PKO 法案で総理がおいでにならなくて、私、残念ながら行けなかったのを覚えておりますけれども。第2回地球サミットで、まさに温暖化対策、炭酸ガス規制をやるということと、生物の多様性を守る。これが地球の環境問題のその時点での一番重要な対策であると。

その前提として、先ほどマッキーバーさんも強調されました持続可能な開発、英語でいう Sustainable development という概念が1992年に初めて確立されたんです。それは、私もその後親しくいたしました国連の事務総長のペレス・デ・クエヤルというペルーの方が、80年代の終わりからブルントラントというノルウェーの首相を引っ張り出してブルントラント委員会を開いて、そして地球全体の今後のあり方を考える上で一番重要な概念は何かということを詰めました。それは持続可能な開発だと。

開発というと、日本ではとかく開発途上国の問題のように考えられがちです。ですから私は意図的に「持続可能な発展」という言葉を使うことにしていますので、きょうもそういたします。英語は development、同じです。というのは、途上国だけの問題ではなくて、地球全体、特に先進国にとっては非常に重要な概念です。ですから開発という言葉よりも発展という言葉を使いますが。

つまり持続可能な発展を地球全体で実現するために、炭酸ガス規制と生物の多様性を守る。前者のほうは 京都プロトコルができ、残念ながらこれは中途半端な形で終わりましたけれども、後者は生物の多様性条約 ができました。これもアメリカが批准していないし、具体的な目標がないものですから。条約としては立派 です。しかもこれは単独の条約になっているわけです。

地球環境全体という点からいえば、2000年代、私はもう既にユネスコの事務局長になっておりました。フランスのシラク大統領がやはり地球全体の環境問題を一括的に、包括的に取り扱う組織が必要であるということで、国連環境機構というのを提案いたしました。これはアメリカが反対。日本もかなり躊躇しました。私もユネスコの事務局長として、考え方は賛成だけれども、これはなかなか現実的には難しいというふうに思って、非常に中途半端な感じを持ったのを覚えています。

考え方は賛成というのは、やはり地球の環境問題全体を見る組織は国連システムの中に必要です。しかしながら非常に大きなテーマです。しかも今申し上げた第1回地球サミットの結果できた温暖化対策、京都プロトコルと生物の多様性が実は地球環境問題の全てではないわけです。先ほどもジオパークの話も出ましたし、いろんな問題がある。具体的な対応というのはいろいろあるわけなので、これを一つの国際機関が全部担当するというのは無理だというふうに私は思いました。

ただ総論がない。各論だけが実際にいろいろ動いてきているというのが残念ながら現実で、依然として全体の取りまとめはいまだに存在いたしません。

それで、具体的にユネスコが何をやるかということで、私はユネスコの事務局長として、きょうの表題に もなっています地球環境保全活動というものを私なりに強化する努力はいたしました。これは先ほどもちょ っと話が出ておりましたけれども、1972年にできました世界遺産条約、先ほど披露がありましたように文化

遺産が中心で8割が文化遺産ですけれども、2割、今現在200弱が自然遺産です。自然遺産は何を狙っているかというと、自然の保護、あるいは自然遺産の保護ということです。

具体的には、まさにジオパークでご披露があったように、グローバルに言えば地球環境保全に貢献する一つのシステムです。それからミクロ的に言えば、先ほどマッキーバーさんが非常にいい言葉を



使われました。英語でいう Community Empowerment、日本語にすれば地域社会の活性化、それから最近のはやり言葉でいえば地方創生です。ですから世界遺産条約の自然遺産というのは、グローバルには地球環境保全に貢献する。しかしミクロ的、個別的には地域社会の活性化。日本の各地で、文化遺産のほうが中心になりますけれども、日本は今、世界遺産が18あります。自然遺産は4つです。やはり自然遺産を推進しているところは地域社会の活性化。ただ、そのためには観光客を大いに入れる。

文化遺産の例で申し上げると、最近の例では富士山がご承知のように文化遺産になりました。ただ、これは非常にユネスコ側から注文がついて、環境保全のために登山客を30万に抑えろということになっています。ですから地域の活性化という点からいえば観光客は大勢来てもらうのがいいに決まっているんですけれども、それはできません。30万に抑えなければいけないということで、これはまさにグローバルな目標である地球環境保全のために、より具体的には、富士山の環境保全のためにはそういう規制をせざるを得ない。そこがグローバルな目的と、地域の、あるいはミクロの目的との両方を追求するのは難しいというところであります。

日本では、私が先ほどご披露ありましたように98年から1年間、世界遺産委員会の議長をしておりました。世界遺産のいいところも非常にわかりましたけれども、足りないところ、欠陥も十分意識するようになりました。これはきょうのテーマでは深入りしませんけれども、文化では日本でいう無形文化財、ユネスコでいう無形文化遺産、具体的には日本の例でいえば歌舞伎、能、文楽が対象になっていないということで、私が力を入れて2003年に無形文化遺産条約をつくり、一連の文化関係の条約をつくりました。

自然遺産について言えば、ユネスコの自然遺産というのが、その前に先ほどもご披露があった MAB、日本語ではエコパークと訳して、後で松田先生から詳しくお話がありますので深入りしませんけれども、これは90年代には既に発足していて、MAB というのが英語でいえば Man and the Biosphere で、人間と生物圏ということで、これも今申し上げた世界遺産の自然遺産の考え方のように、グローバルな考え方とミクロの地域社会の2つの目標を持っているわけです。

したがって、ユネスコの役割に戻れば、自然の保護とか自然遺産の保全ということでは世界遺産条約の自然遺産、これは1972年ですが、1990年代に MAB が動き出した。それから先ほど来ご説明があった地質上、地形上、非常に重要な、学問的にも地球の歴史の重要なものを対象にするジオパーク。MAB もジオパークも、条約ではなくてユネスコの総会の決議で成立しています。しかしプログラムとして成立している。ただ、ジオパークは、先ほど来ご説明があったので繰り返しませんけれども、最初はなかなかメンバー国がユネスコの正式なプログラムに賛成がないので、私などは事務局長として何とか正式のプログラムに早くしたいと思っていたのですが、残念ながら私の時代にはできなくて、ようやく今回できたのでうれしく思っていますが。いずれにしても正式にユネスコが支援するということは総会の了承を得ておりましたので。MAB は正式のプログラムでしたけれども、ジオパークはユネスコが支援すると。今回は正式なプログラムで、そのかわり、先ほどもあったように非常に厳しい条件がつけられています。

ほかに地球環境の保全という点では、私が非常に力を入れているのは水、これは淡水です。日本は余り深刻な問題ではありませんけれども、地球の将来を考え、個別にアフリカその他では水不足が生じていますけれども、地球全体では非常に深刻な問題になる。2000年までの1000年、つまり20世紀を見れば、人口は3.5倍に伸び、1人当たりの水の消費量は倍になる。したがって水の消費量は全体で7倍にふえているんですね。しかし何とかそれはしのいでいました。部分的な水不足は生じたけれども、グローバルな水不足は生じていない。けれども、このまま行けば必ずグローバルな水不足が生じるというのが私の確信なので、水というものを取り上げましたけれども、具体的なプログラム、水担当の委員会がありますので、そこで議論する。

それから災害対策。空は WMO、世界気象機関が担当しますけれども、ユネスコはそれ以外の海であれば

津波、地震。地震というのはなかなか国際協力になじまないので、国際協力になじむ津波対策を私つけるように、災害対策。これは具体的なプログラムではなくて、ユネスコの総会でユネスコの自然科学のプログラムを採択する中に入れてもらうという形で行いました。

まとめて申し上げれば、ユネスコが全体でいえば地球環境保護へ貢献するという大きなタイトルで言えると思いますけれども、さらに最近の言葉で言えば先ほど申し上げた持続可能な発展、そのために貢献するということでは、条約に基づくものでは世界遺産条約の自然遺産。強いて言うと、これは深入りしませんけれども、ラムサール条約というのがユネスコの外だけれどもユネスコがそれを事務局として務めている。これは湿地帯の保全です。これは条約になっています。そういう条約に基づくものと、総会の決議でプログラム化してやるもの。従来は MAB で、これにジオパークがある。それから、プログラム化していないけれども重点事業としてやってきたのが水とか災害対策。これが自然科学の枠の中で対応していたものです。

しかしながら、そういうものはやはり教育の場でしっかり取り上げる必要があるということで、これは日本が音頭をとって2002年に第2回の地球サミットが南ア(編注:南アフリカ)でありました。私はユネスコの事務局長として参加いたしました。残念ながらそのときは第1回に比べるといろいろ政治的な問題が絡んで、最終的な結論も中途半端に終わっていますけれども、日本がその場でESD、つまり持続可能な開発のための教育の10年というのを提案し、その後、ニューヨークの国連総会で提案して採択されました。

具体的には、2005年から10年間、つまり2005年から2014年までを、略称で申し上げますけれども ESD の10年ということに決められました。そして担当がユネスコになりました。私は、日本が提案したということで非常にうれしく思いましたけれども、同時に、中身が非常に重要なことで、先ほど来申し上げたように地球環境全体を担当する、総論を担当する国際機関が残念ながらないままに終わっている。さらに言えば持続可能な発展というものを全体として担当する国連システムの中での機関もないわけですが、教育に焦点を当てて、教育はユネスコがしっかり担当していますから、ユネスコが担当になったということで非常に私はうれしく思うんです。

それからさらには、日本ではユネスコスクールというのが当初40ぐらいで少なかったので残念に思って、これをぜひふやしてほしいという話。ちょうど ESD と結びつけてふやしていただいて、当初500を目標にしましたけれども今は1,000になりました。世界全体でユネスコスクールが、私のユネスコ時代は8,000ぐらいで日本は40だったんですが、今は9,000を超えて、そのうち1,000が日本になった。日本の1,000は小学校、中学校、高校が中心ですけれども、ESD を教育の中核に据えるということで、したがって非常にうれしく思った。

世界的な規模でいえば、もちろんユネスコスクールと ESD を必ずしも結びつけてはおりませんけれども、9,000あるユネスコスクールの中で ESD をしっかり教えていただく、あるいはそれを実践するということを やっていただいているので非常にうれしく思っています。

これは日本では余り知られていませんけれども、残念ながらそう多くないんですけれども、重要な国際的なミッションで成功した一つであると思っています。この10年は終わりましたけれども、ユネスコ総会でこれをしっかりフォローアップしていくということになっております。

それから、ご承知と思いますけれども去年の国連総会で新しく、これも略称になって申しわけない、SDGs と呼んでいますけれども、Sustainable Development Goals、持続可能な開発のための目標ということです。これは、私がちょうど事務局長に就任した翌年のサミットがニューヨークで2000年の9月に開かれました。そこで MDGs(Millennium Development Goals)、貧困を撲滅するための目標、ミレニアム開発目標と呼ばれるもの。それが2015年を目標にして、これは先ほど申し上げた ESD とほぼ一致するわけですけれども、今度は2030年をめがけて、さっきも言った SDGs(Sustainable Development Goals)、日本語にすれば持続

可能な発展のための目標。全部で17になって、前は8つだったのでちょっと増え過ぎたんですけれども。しかも細かい目標を入れると160ぐらいになるので、ちょっと多過ぎるんですが、いずれにしてもその目標の4だったと思いますが教育が入って、その中に今申し上げたESDが入っている。ちなみに目標の一つに水というのが新しく独立して入ったので、私は非常にうれしく思っていますけれども。

いずれにしても ESD はユネスコが引き続き担当しますけれども、国連でもしっかりそれを受けとめても らって、新しい SDGs の中に入れていただいているのは、私としてはうれしく思っています。

これに対して、教育の面では日本が非常に積極的に持続可能な発展というものを受けとめて、それを教育に反映させるというので、ESDという概念を打ち出して、そのための10年をつくる音頭をとったというふうに申し上げました。非常にうれしく思っています。ただ、地球環境保全、より具体的には、ユネスコの次元で言えば、ユネスコの一連の自然遺産のほうに関して言えば、世界遺産条約の体制は1972年からできましたが、どういうわけかなかなか日本では盛り上がりませんで、ようやく80年代の後半から盛り上がって、ようやく日本政府は1992年に参加いたしました。今年が2016年ですけれども、2012年の秋に京都で、11月ですから実際には1年余り前ですが40周年記念行事の締めくくりをいたしました。ユネスコとしては2012年の1月から行事を初めて、世界各地でやって、最後に11月に京都で締めくくりました。私も出席いたしました。500名ぐらい出席して非常に盛大な会議だったんですが。

いずれにしましても、私がユネスコ事務局長に就任した時点に戻らせていただくと、日本はユネスコ、即、世界遺産条約のようなところがありまして、文化について後で無形文化遺産を一生懸命やってくれたんですが、自然のほうに戻れば、一連のシステム全体を必ずしも一生懸命参加していく、推進していくという体制になっていなくて、先ほど申し上げた MAB に関しても日本は、これは総会形式ですから条約と違って批准する必要はありません。ですから MAB は4つ(編注:日本初の4つのユネスコエコパーク)、かなりハイランクで決めましたけれども、必ずしもそれをしっかり MAB の精神にのっとって推進する、さらにはそれを拡大するという雰囲気・・・後で松田先生から詳しくお話しになるので、私は深入りいたしません。

私も覚えているんですけれども、まさにこの白山、4つの一つでしたけれども、何年か前に、きょう勝山の市長さんいらっしゃっていますけれども、勝山の市長さんに招かれて文化遺産の関係で講演に行ったときに白山周辺の方々がいらしていて、白山が MAB になっているという話をしたら皆さん知らなかった。私自身、非常にびっくりしたのを覚えています。最近ようやくこれがしっかり日本でも根をおろそうとしているので、うれしく思っています。

ジオパークも同じことが言えるわけで、いろいろな文献を拝見すると、2000年代に入っていろんな学者の方がこれを推進しようとされたようです。私は私なりに、今申し上げたような観点から日本政府に対して、世界遺産の中の自然遺産をしっかり狙っていくのはいいと。しかしながら、だんだん条件が厳しくなる。普遍的な顕著な価値があると言っていますけれども、一言でいうと、世界的な規模で見て非常に重要な価値を持っているということで、世界遺産の自然遺産の形態は4つあります。

一つは生物の多様性。日本で4つ自然遺産があると申し上げた。これは全部、生物の多様性です。それからもう一つは、絶滅のおそれのある種がすんでいる。それから3番目が地質上、地形上、世界的に見て顕著な価値がある。これは日本ではゼロです。先ほど幾つか例がご紹介ありました。一番わかりやすいのは、アメリカのイエローストーン、グランドキャニオン。それからハワイの火山群。そういう世界的な規模で見て地質上、地形上、顕著な価値がある。なかなか日本は、そこのレベルに残念ながら達しないわけです。

したがって、私はジオパークにぜひ参加するべきであるということを日本政府に申し上げました。日本の 学者の方がいろいろ動かれたこともあって、そこがうまくマッチして動き出して、世界のジオパークに参加 する、あるいは日本のジオパークというものをつくるということで動き出して、非常に私はうれしく思って います。

でも先ほどのマッキーバーさんの話では、かなりこれから条件が厳しくなりますから。特に世界ジオパークに関しては厳しくなりますから、そういう厳しいクライテリアをしっかりクリアした形で参加するようにしていただきたい。

そのときぜひ忘れていただきたくないのは、これはジオパークのみならず全体のことを申し上げますが、世界遺産条約の自然遺産。今4つで、なかなか5つ目が出てこないので、今後5つ目をぜひふやしてほしいと思っていますけれども。4つ、ご承知だと思います。屋久島と白神山地、知床、小笠原諸島、この4つになっているわけです。これはいずれも先ほど申し上げた生物の多様性という見地から入っているわけですけれども。そういう世界遺産条約上の自然遺産、それから MAB、それからジオパーク、それから強いて足せばラムサール条約で指定されている湿地帯。こういうものはグローバルに言えば地球環境を保全するという大きな目的を持ってつくられた。しかしミクロ的にいえば、先ほどマッキーバーさんが使われた言葉を使わせていただければ、Community Empowerment、地域社会の活性化。最近の日本で使われている言葉では地方創生。この二本立てというか、日本の2つの目標をもってつくられているということをぜひ念頭に置いていただきたい。

それからもう一つ重要なことは、これはいずれにも適用するんですけれども、先ほど冒頭に申し上げたユネスコの基本理念というのは国際交流を進めるということなんです。ですから自然遺産についてもMABについてもジオパークについても国際交流に努める。そのときの国際交流は、もちろんまずアジア太平洋、あるいは近隣のアジアの国々ということから出発してアジア太平洋レベルで進める。それからさらにはグローバルレベルで進めるということが必要で、もちろんその前提として、今回はまさに日本の各地からジオパーク参加をしておられる地方自治体の代表がいらしているので非常にうれしく思いますけれども、日本国内での交流をしっかり進めるということはもちろん出発点になりますけれども、それとあわせて国際的な交流をしっかり進める。それがユネスコの基本理念からいうと、先ほど冒頭にも申し上げた諸国民の間の相互理解を深め、そして不信を除いて誤解が生じないようにしていく。それが国際平和に通ずるんだと。そこにつながっていく。それが、さらに言えば繰り返しになりますけれども、地球環境全体の保全にもつながっていく。この点をぜひ忘れないで、よろしくお願いいたします。

それでは私の時間が参りましたから、これで話を終わらせていただきます。 ありがとうございました。

講演3

「ユネスコMAB 計画と日本のユネスコエコパーク」



松田 裕之氏

日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会調査委員 日本MAB計画委員会委員長 横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

Key Messages

- ★ MAB 計画やユネスコエコパークは持続可能な開発目標(SDGs)と全面的に連携し、すべてのユネスコ活動のモデルとなるものであり、ジオパークもその可能性を有している
- ★ 日本のユネスコエコパーク活動はジオパークに学んできており、異なる認証間の学び合いやネットワーク間の連携によって相乗効果が生まれる可能性がある

ご丁寧なご紹介ありがとうございます。

今日の話、マッキーバーさんのお話にも松浦さんのお話にもございました、人間と生物圏、Man and the Biosphere というんですけれども、生物圏、Biosphere という言葉も結構耳なれない言葉かもしれません。

日本では、人と自然の共生ということをよく言います。この共生という言葉が Biosphere に込められている。MAB 計画にかかわっている人は大体、日本が言っている、人と自然の共生という言葉をすんなり受け入れてくださいます。そういう概念であるというふうに思ってください。

実は私、エコパークの専門家であって、ジオパークの専門家ではないんですけれども、今度、朝日新聞社がやっている WEBRONZA というインターネット上の雑誌がございます。これでジオパークのことを書かせていただきましたら、今度の月曜日に公開されるということですので、興味ある方はぜひお読みください。

先ほどから何度も説明がありましたように、1971年あるいは72年に、この2つの地球環境問題を扱う取り 組みがユネスコで行われたということです。これがどう違うのかという話が常に出てまいります。今日も幾 つかお話がありました。

要するに一つの違いは、世界遺産は条約である。MAB計画のほうは、ユネスコ世界ジオパークもそうですけれども、プログラムであるという違いです。それから先ほどもありましたように、自然遺産に関しましては、その卓越した顕著で普遍的な価値を保護するための装置が世界遺産であるのに対して、いろんな人間活動をむしろ支えていくというのがユネスコエコパークであり、ユネスコ世界ジオパークであります。

例えば絵で描きますと、世界遺産、自然遺産のほうは、むしろ人間活動がないほうがいいという側面もございます。それに対してユネスコエコパーク、ユネスコ世界ジオパークのほうは、保護だけでなく利用も入るという考え方です。

実はユネスコにもう一つ、ラムサール条約というのがあります。これはワイズユース(賢明な利用)というのが合言葉であるように、こちらも利用に力を入れているというふうに考えられます。

そして、ユネスコエコパークは3つの主要な特徴があると言われます。

一つは、ゾーニングといいまして、後で述べますように、どこのエリアがどういうことをするんだということを明確にするというところです。

もう一つは、組織や管理体制を調整するとありますが、要するに地元の人がいかにそこに参加していくか。

いかに管理運営体制ができていくかという絵を描く、ということが重要になります。そのためには、まず学会、サイエンスの分野、それから法律的な担保措置、そして地域社会の貢献。それによって自然を守り、地域を振興し、そして学術活動を行うということがこの活動になります。

これは私が最近書き加えていることですけれども、先ほど松浦先生からもお話がありました持続可能な開発目標、SDGs というのがございますが、これは国連全体の目標です。全てのユネスコ活動のモデル、模範となるような活動をするというのがユネスコエコパークの特徴です。

ゾーニングというふうに申しました。守るべきところは厳重に守る。その外側から、大事なところに影響が及ばないように。自然はつながっておりますから、その周りにバッファという緩衝地域を設ける。その外側は、自然の恵みを生かした持続可能な活動を行う。この3つのエリアに分けて考えるというのが基本です。

その一番模範的な例が、先ほどマッキーバーさんのお話にもありました韓国の済州島の例です。実は済州島は、世界で唯一、世界自然遺産であり、ユネスコエコパークであり、そしてユネスコ世界ジオパークであります。この3つの三重登録はここだけです。実はもう一つ、世界農業遺産にも登録されています。本当に登録が大好きな地域なんだろうと思います。

そのゾーニングを重ね合わせてみますと、世界遺産とユネスコエコパークの違いがよくわかります。色がついているところが世界遺産です。ここが中心です。結構火山の関係する貴重なところがある、ここも世界遺産になっていますが。要するにここです。世界遺産はここだけです。薄い線で書いてありますが、これ全体がユネスコエコパークです。ユネスコエコパークの核心地域は大体世界遺産と同じです。それに対して、その周辺も含めて登録されているというふうに考えればいいと思います。

先ほどユネスコ世界ジオパークのほうは、二重登録は明確な理由がないと、シナジーをやらないとよろしくないというようなお話がマッキーバーさんからあったと思います。これは私個人の意見ですが、MAB計画は、どちらかというと世界遺産、自然遺産と二重登録したほうがいいんじゃないか。これは実は私の意見ではなくて、吉田正人さんという日本の世界遺産の専門家の意見です。世界遺産だと、コアを守るということしかできないけれども、その周辺の活動全体をやるためには世界遺産という装置だけでは足りなくて、ユネスコエコパークと二重登録すればいいのではないかというふうに彼は言っています。

そして先ほどもありましたけれども、ユネスコエコパークに登録されるということは、世界のネットワークの一員になるということです。世界のネットワークは、満遍なく世界中に登録地がございます。実はニュージーランドにないとか、少しはそういう偏りもございますが、やはりヨーロッパには非常に多くある。

もう一つ大きな問題は、アメリカです。ご承知のように、アメリカは今ユネスコから離脱状態にあります。 先ほどジオパークのほうでもありました定期報告。後で紹介しますが、エコパークのほうでも一応あります。 全然上がってこないんです。グリーン、イエロー、レッドで言えば赤丸がついております。赤丸がついていますけれども、だからといってユネスコエコパークは脱退させるという仕組みがないというのが一つ大きな問題です。

ジオパークのほうは、先ほどもありましたように、まだ世界的な広がりにはなっていないという話がマッキーバーさんからありました。すみません、これ(編注:世界ジオパークの分布図)1年古いものを持ってきてしまいました。

そして、やはりマッキーバーさんの話でもドイツにいい例があるというお話がありましたけれども、ユネスコエコパークでも同じです。これはドイツのレーン地方というところなんですが、中国とベトナムの調査団がそこに学びにいくという話をユネスコのパリ本部に行ったときに伺いまして、日本もどうだというので急遽日本の視察団も一緒に加えていただきました。私自身は行ってないんですけれども、どうやってそこの自然をうまく活かした持続可能な取り組みとして、例えば農産物を使っているかというような例が出ており

ます。

でも、これを見て日本に帰ってきますと、日本でも似たようなことをやっているところがあるぞという話になりました。それが宮崎県の綾の例です。綾は2012年にユネスコエコパークに登録されました。そのときに私どもがアドバイスしたのは、ユネスコエコパークになるに当たって何か特別なことをする必要はない。あなた方の今までの取り組みは十分、ユネスコエコパークの取り組みとして MAB 計画は評価するはずだというふうに申しました。似たようなことをいっぱいやっているのがわかるんです。こういうのは、模範となっているところに行ってみて、共通点を見出すというところでわかるということだろうと思います。

そして、2012年に綾が登録された後、ユネスコの MAB 計画のホームページ、インターネット上のページ、 その一番表のページに1年間、綾の写真を使っていただきました。

私は、登録する前に綾に行って申したことがあります。綾はすばらしいところだ。うまくちゃんと説明すれば世界の見本として認められるだろうと。そしたら翌日の宮崎の新聞で、「綾は世界の見本」と私が言ったみたいなことが大きな見出しになっていました。この見本という言葉が地元の魅力といいますか、自尊心をくすぐるいい言葉として新聞は書いてくれたんだなというふうに思いました。でも、こうしてなってみると、その言葉が言い過ぎではなかったというふうに、私は安堵したところです。松浦先生の後の事務総長のボコヴァさんも、綾をちゃんとコメントの中で言及していただいています。

日本の MAB 計画はどのように進んでいたかということを申し上げたいと思いますが、先ほどもお話がありましたように、最初からユネスコの正式のプログラムですから、日本ユネスコ国内委員会の自然科学小委員会の中で MAB 計画を扱っています。つまり MAB 計画の日本のトップは、ユネスコのコミッションのメンバーということになります。

実は私が関わり出したのは、そんなに古くはないんです。正直申しまして、私の大学の学長(編注:鈴木邦雄氏)がMAB計画の主査(編注:日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会 MAB計画分科会主査)になりまして、彼に手伝えと、私に直接言ったんじゃないんです、別の同僚にMAB計画を手伝えと、言われた。その同僚から私にも一緒にやれと言われて、今私はMAB計画に関わるようになりました。それまでは、知床とか屋久島とか、どちらかというと世界遺産の仕事をしていたわけです。

この MAB 計画、実はほとんど知られていない。先ほど松浦先生から、勝山で登録されていることを知らなかったなんていうお話がありました。地元の福井の新聞です。「登録知らず 勝山市、周知へ」と書いてあります。もうすぐ登録が抹消されるかもしれないなんていう話が、2011年の記事になったわけです。

どうしてそういうことになってきたかといいますと、MABの理事国(編注:ユネスコ MAB 計画国際調整理事会の理事国)として、つまり日本はユネスコ活動に非常に熱心でしたから、やってきたけれども、最初のうちはどうしても学者の活動であった。1980年に、先ほど松浦先生からご紹介ありました4つの地域がエコパークに登録されたんですが、登録のときは文部省、環境庁、林野庁、当時のそういう省庁が世界遺産候補地の中からどちらかというと選んできた。上のほうでお上が決めたもので、地元が余り知らなかったということがどうもあったようです。しかも、そのころ MAB 計画に中心になって関わっている学者は、どちらかというとマングローブをやっている人とか、そういうような学者でありましたけれども、この4つの地域は全て山岳地域ということがありました。

日本の中でニュースレターをつくろうという話が学者の間であって、1980年からニュースレターをつくるという活動が始まりました。これが後で紹介する日本 MAB 計画委員会という任意団体の始まりです。東アジアのネットワーク会合をやったりしていたんですが、途中で活動が――ニュースレターが出ないとか。しかもユネスコ国内委員会の MAB 分科会というナショナルコミッティがずっと 4 年間開催されなかった。委員は3年で任期が切れるんだけれども、とっくに任期が切れて改選がないというような、ほとんど休眠、冬

眠状態にありました。

先ほども話がありましたけれども、ジオパークは4年に一遍ですが、10年に一度、頻度は低いですが、やはりエコパークも定期報告が必要です。ところがそれが出なかったんですね。で、学者集団が文部科学省の科学研究費を獲得した年に、1980年登録で10年おきのはずなのに99年と2007年に定期報告を出しました。地元の人は多分、こういうものを学者が出したということは知らないと思います。そういうような時代でありました。



1988年に、英語の資料の中で日本の MAB の組織がこう説明されています。これは日本 MAB 計画委員会 という組織がつくった図です。政府側の組織があります。その中でユネスコの国内委員会、コミッションが あります。MAB 計画分科会という MAB コミッティがあります。先ほどのジオパークの話と重ね合わせま すと少し違うのは、日本の新たな国内の審査をやるところはこの分科会です。実はここがジオパークの場合 には政府側の組織にはなっていないような気が、私は今伺っていてしました。ここは大きな違いです。

この日本 MAB 計画委員会という MAB 活動を支援する組織、実は日本独自のものです。なぜそういうのができたかというと、端的に言えば MAB 計画分科会がそういうふうに休眠していたというのが一つあります。ここはそういう支援を行っているということで、当時はいわゆる学術活動で、国際的な MAB 組織が行っている学術活動とかそういうものを数々支援したり、日本から英文で報告書を出したりとか、そういうことをどんどん進めていたわけですが、最近我々がやっていることは、現在は MAB 計画分科会がしっかり機能していますので、審査とかはそちらがやるわけです。国際対応もそういう意味ではユネスコ本部とのやりとりはそちらがやります。それに対して、各地のユネスコエコパークの支援をするということが主な活動になりつつあります。

どうして復活したかというと、学長命令で、ある人が、横浜国大の研究者が、一生懸命やり出したという のが大きなきっかけだろうと思います。

もう一つは、日本語で Biosphere Reserves のことを生物圏保存地域と漢字で7文字、わかりにくいですね。当時の主査(編注: MAB 計画分科会主査)が、ユネスコエコパークという名前にしようということを MAB コミッティのほうで日本における通称として決めました。

それからもう一つあったのは、先ほども少しお話がありましたけれども、生物多様性条約、これが日本で2010年に締約国会議が開かれました。そのときに文部科学省が、ユネスコパートナーシップ事業――これは別にMABだけではありません。日本におけるいろんなユネスコの事業に対して公募型で財政支援をする。助成金を出す。そういう仕組みがございます。当然これからはユネスコ世界ジオパークも応募することになるのではないかというふうに思っておりますが――これが大々的に支援いただきまして、COP10の会場でMABのイベントを国際的に持つことができたというようなところがあります。

それからもう一つあるのが、2013年までに、今まで登録されていた地域で余り活発でないところを全部見直す、参加型のアプローチに変えていく、トップダウンで決めてはいけない、というようなことです。そういう計画ができていて、既存の1980年に登録した4つのユネスコエコパークも改革が必要になってきた。もうすぐそこだと。でも今のところ地元が登録されていることすら知らないようなところもあるから、どうや

ってやろうかという話になったんですけれども、この3年間に必死に地元を回ったのが結構大きかったとい うのがあります。

もう一つは、このときの環境省の局長さん(編注:渡辺綱男氏。現、国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長)は今、国連大学で石川にいらっしゃると思いますが、国立公園の中でジオパークとエコパークを活用するように当時の細野大臣に答弁してもらったというようなことがありまして、エコパークもそういう意味では環境省も協力するというふうになってきた。その中で、綾が自分たちはエコパークを目指すんだといって登録してくれるというのがあります。

ジオパークの皆さんはよくご存じだと思いますが、こういう活動に参加する大きな価値の一つは、ネットワークに参加するということです。つまり同じような取り組みをしているほかの地域と交流を持つということが非常に重要である。そういうネットワークを我がエコパークのほうでも日本でつくりました。世界ネットワークはもちろんあるんですが、それ以外に日本のネットワークをつくりました。その会議を実際に面と向かってやろうと、顔を合わせてやろうという会議を只見で開催しました。これは後でまた。というような形で、ネットワークがどんどん整備されているという状況にございます。

ユネスコ世界ジオパークは日本に8カ所あるというお話がありましたけれども、日本にあるユネスコエコパークは7カ所です。そのほかに、登録を地元で検討している、あるいは申請書を出しつつあるというようなところが幾つかございます。そういうところは、研究会員というふうに名づけております。この辺は後でまた議論されると思いますが。

このネットワーク活動、最初は、これは私が思いつきでやったんですけれども、とにかくメールリストでお互いに電子メールで情報交換しましょう。会費も何もありません、なんて感じで始めていたわけですが、そういう意味では研究者主導でやりました。やはり面と向かって集まってやることが必要だということで、只見が手を挙げて、そういうものを組織していただきました。実はそのとき、只見はまだ登録されておりません。登録地でないところでそういう会合をやったというのが大きな特徴です。逆に言えば、これから登録を目指す只見だからこそ、そのネットワークの価値がわかっていた。

去年、ここから先は結構ジオパークのまねをしました。そういう研究者主導のメール上の組織ではなくて、事務局を置いて、一つ一つのエコパークを単位として会員になるという制度にして会費を募る。それまでユネスコエコパークの活動は、先ほどから申しましたように、お上が勝手に決めたもので地元は知らないようなものですから、会費も何もなかったんです。でも会費を取らないと地元は結局動かないということになって、やると。実際に登録されているところは正会員ですが、それ以外に登録を目指すようなところをどうしようかという話になりましたが、ネットワークのほうで勝手に候補地だとか認定することはできないわけです。どの地域がユネスコエコパークの推薦地域であるか、候補地であるかを決めるのは日本ユネスコ国内委員会ですから、勝手に我々が決めることはできない。名前にいろいろ苦慮しまして、研究会員がいいということで、今、研究会員ということで扱っております。今後、先ほどから存続していた日本 MAB 計画委員会は、多分日本ユネスコエコパークネットワークに助言をする、支援する組織になっていくであろうと思います。

今までの日本のユネスコエコパーク活動が冬眠状態から復活していった過程を説明しますと、ジオパーク 関係者は、ジオパークのまねをしたんだなということが薄々わかると思います。私どもは、おととし、そう いうところで勉強会をやりまして、一体どんなふうにこれから日本の国内ネットワークを発展させようかと いうことで、ジオパーク、もちろん世界自然遺産、それからほかのラムサールとかいろんな取り組みを比較 検討するということをやりまして、私どもが得た結論は、ジオパークに学べということでした。

そういう意味では、我々エコパークなんですけれども、ジオパークの行事に幾つも呼ばれている。今日も

その一つです。こんなに重要な会議の場に、エコパークの説明を皆さんにさせていただくというのは本当に ありがたいことだと主催者に大変感謝申し上げます。そういう会合が常に持たれてきたということがござい ます。

では、MAB計画、ユネスコの事業としてどんなことを目指しているのかということを申し上げます。去 年の MAB 計画国際調整理事会というパリの会議で承認されたことですが、2025年までの大方針、MAB 戦 略があります。そこでやはりネットワークを発展させるんですが、Biosphere Reserve はどういうところか と申しますと、持続可能な開発――先ほどのマッキーバーさんの話にも松浦さんの話にも出てまいりました ――これのモデル地域であるという位置づけです。つまり世界でここが一番貴重な自然の場所だとかそうい う位置づけというよりは、貴重な自然をうまく生かして、使い過ぎないで次の世代までちゃんと自然が残っ て、我々にも自然の恵みを与え続ける。そういうモデル地域として我々は存在する。ですから経験と教訓の 相互交流を図る。その持続可能な開発のためにエコパークを管理する。そして先ほどの松浦さんのお話にも ありました。持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals、これの達成のための支援を MAB 計画 で行うということです。その中に、持続可能な開発のための教育、先ほど松浦さんのお話にありました ESD、 Education for Sustainable Development、こういうものも目標の中に取り込まれておりますし、気候変動な どの環境変化に対する支援、その対策のやり方の支援をする。だから、再生可能エネルギーを推進するなど ということも、MAB計画の重要な取り組みです。ということがこの場で行われた。参加型で持続可能な開 発計画を行うというようなこと。当然ユネスコの組織ですから、先ほどのマッキーバーさんのジオパークの 取り組みにもありましたように、教育は非常に重要であるということ。繰り返しますが、SDGs との全面的 な連携ということがこの戦略に明記されているわけです。

さて、ちょっと皆さんに伺いたいと思います。先ほど松浦先生のお話にもありました、この持続可能な開発目標という言葉を既にご存知だった方、ちょっと手を挙げていただけますか――ありがとうございました。それほど多くはないかもしれません。ユネスコエコパークのほうで関係者に聞いても、それほど違いはないかもしれません。

先ほど松浦先生のお話にありました。実は、SDGs の前にはミレニアム開発目標というのがございました。 グーグルで皆さん検索してみればわかると思います。MDGs と Geopark という 2 つの単語で検索するのと、 MDGs と Biosphere Reserve で検索すれば、ヒット件数が全然違うということがおわかりになると思います。 今、ユネスコエコパークのほうがユネスコらしい事業であるというふうに言えるところというのは、その ぐらいかもしれません。あと私が今申し上げたように、少なくとも日本のユネスコエコパーク活動は、ジオ パーク活動に非常に学んできたというのが正直なところです。

これは私個人の意見です。今後ジオパークへどういうことを期待するか。ユネスコの正式プログラムになった。先ほどのマッキーバーさんの話にも、何度も持続可能な開発という言葉が出てまいりました。ユネスコの全分野の活動のモデルを目指すという意味では、エコパークと共有するような目標になっていくのではないかなと。これは私個人の期待です。

それは自然保護と地域振興、そして教育。それだけではありません。当然のことながら、先ほども出てきましたようにジェンダーの問題、平和の問題、健康の問題。そういうもの全てにわたって模範となることを、ジオパーク活動を通じて行うというふうになれば、本当にユネスコの中のすばらしいモデルとして、多分MAB計画を超えるものとして出てくるのではないかというふうに私は思っております。

もう一つのキーワードは、単に自然を守るだけではない、生物の多様性だけではない、ユネスコがもう一つ重視しているのは文化の多様性です。この2つは一体のものであるということが、たしか今日の何かの資料(編注:冊子『石川-金沢 生物文化多様性圏―豊かな自然と文化創造をつなぐ いしかわ金沢モデル』

(国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット発行)を指す) の中にも書いてありましたように、既に白山でもそういうことは行われているような気がいたします。この 生物文化多様性が一つユネスコの大きなキーワードだと私は思っています。

これはよく世界自然遺産の関係者に申し上げることですけれども、どんな形であれ、自然を守るということで私たちの活動は終わらない。そうではなくて、地域の自然を守る人を育てる。これがユネスコの活動で最も重要なところなんだと。だから、何か海外の資金を使って、海外から正義の味方がやって来てそこの自然を守る、そういうだけでは本当に自然を持続可能に守ったことにはならないというふうに私は常々申しております。多分、その考え方はユネスコ世界ジオパークにも通じるのではないかというふうに思います。

もう一つは、今、特殊な例として、日本には独自の組織、日本MAB計画委員会があるというふうに申しました。これは純粋な任意団体です。はっきり言って、法人登録もしておりません。この日本MAB計画委員会が、日本ユネスコ国内委員会とどういうふうにつき合ってきたかということです。この距離感は、今後、ジオパークの方々が安心して日本のユネスコの事業として進めていく上で、少し参考になるのではないかと私どもは思っております。

もう一つの期待は、この白山が、日本ジオパークとユネスコエコパークの二重登録地であるということからも、そこで一番大きな期待があるんですが、この2つのネットワーク同士が連携する、あるいは研究者同士が情報交換する。もちろん地域の方々同士の連携もある。そういう連携ができると、かなり共通した理念がございますので、相乗効果が生まれるのではないかというふうに私は期待しております。そういうネットワークは、世界自然遺産には、少なくとも今、日本には存在しておりません。

私は屋久島と知床の世界自然遺産の科学委員などを務めていたというふうに申しましたけれども、そういう地域を見ますと、例えば管理計画を誰がつくるか――これ環境省が主体となってつくります。お上がつくるんです。例えば知床の世界遺産管理計画には、作成主体として斜里町、羅臼町が出てまいりません。市町村は関係ないんです。そんな状況は変わりつつあります。その後で管理計画を改定した屋久島では屋久島町は入っておりますし、先ほどお話にありました5つ目の世界遺産、自然遺産登録を目指している奄美・琉球があります。あそこでは、むしろ積極的に環境省自身の方針として、地域主導で世界遺産登録を目指そう、あるいは世界遺産地域になるところの管理計画を地域主導で決めていこうということが方針として書かれています。詳しいことは、先ほど私紹介しましたWEBRONZAの月曜日に出るものに書かせていただきましたけれども。今ネットワークがないのであれば、世界自然遺産も一緒にネットワークの緩い共同体をつくって地域交流を図るといいんじゃないか。実はエコパークのほうでは前からそう思っております。

今の状況にはなっていませんが、最初、メールリストには知床の方にも入っていただいておりました。知 床自然遺産の科学委員会では、MAB計画への登録を検討するというようなことが科学委員会の合意事項と して既にあります。実際にゾーニングを組んでみると難しい面があるんですけれども、趣旨はそういうこと です。

MAB 計画は、10年に一度、大きな世界の会合を開いています。ジオパークだと、何だ10年に一度しかやらないのかというものかもしれません。その10年に一度の会合が今年、リマで開かれます。最初は日本人、一体誰が行くのかなと思っていたんです。私も行くつもりは最初なかったんですけれども、たまたま私も予算がついたので喜んで行くことにしましたら、ほかにもいろいろ予算を自分で獲得された方が結構いまして、多分11名ぐらい、もうちょっとふえるかもしれませんが、日本からリマに行くことになりました。今までほとんど MAB 計画に参加していなかった日本の関係者がこれだけ行くと、ほかの外国の人々はびっくりするというふうに私は思っておりますが、そういう組織をつくっていく、そういう会合が開かれることになります。

私どもは、言ってみれば図らずもつくってしまっていた日本 MAB 計画委員会という組織、つまり審査する側と支援する側は別の組織としてやるべきだと――これも日本ジオパークネットワークと日本ジオパーク委員会のほうでは既にやられていることかもしれません――そういうことをユネスコのほうにも言ってみたいと思います。

そういう意味では、MAB計画というのは結構いろんなところから資金が出ていて、我々のほうは、例えば日本の代表2人は、東アジアネットワーク会合にいつも旅費つきで招待されます。皆さんから見ればとんでもないことじゃないかというふうに思います。皆さんは自分で価値を見出して自分のお金で参加する。あるいは、審査員を自分のお金で招待するなどということを多分されているんだろうと思います。しかし逆に言えば、それが今の日本のジオパーク運動、あるいは世界のジオパーク運動を支えている。そういうふうに、世界からの予算に甘えていると結局は育たないというようなところがあったのではないか。私は今そう思っております。

そういう意味では、まだまだ日本のジオパークに学ぶことが、私はこのエコパークにあると思いますし、 こういうことで相互に学ばせていただくことが、ひょっとしたら我々のほうでお役に立つこともあるのでは ないかと思います。

最後に、皆さんにお祝いを申します。ようこそユネスコの事業に一緒に加わっていただきました。ユネスコ世界ジオパーク関係者の皆さん、おめでとうございます。

どうもありがとうございました。

パネルディスカッション

「ユネスコ正式事業化を受けての日本のジオパーク活動」

コーディネーター

渡辺 真人氏

アジア太平洋ジオパークネットワーク諮問委員 産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報研究部門地球変動史研究グループ長

パネリスト

Patrick James McKeever 氏

松浦 晃一郎氏

松田 裕之氏

中田 節也氏

日本ジオパーク委員会副委員長 東京大学地震研究所教授

野辺 一寛氏

日本ジオパークネットワーク事務局次長際は世界ジオパーク推進協議会事務局長

Outcomes

- * 地球は1つであり、次の世代が住めなくなるようなことなく、今のような地球環境を次の世代にも引き継いでいくことが、持続可能な開発目標の基本的な考え方である。そのためには、国連でもユネスコでもなく、私たち全員が行動を起こすべきである
- ★ McKeever 氏にとって、開始当時のジオパークのビジョンは、地球科学を使って、内戦で割れた アイルランドの住民たちをまとめることであった
- ★ ジオパークに携わる人々は、熱意に燃えて語り合う crazy な、しかし実は普通な人々である
- ★ 日本のジオパークがうまくいっているのは、日ごろからのネットワーク活動の成果であり、日本ジオパークネットワークは、世界に誇ることのできる最高の国内ネットワークである
- ★ 日本ジオパークネットワークとして、ジオパークの申請を目指している世界の地域に声をかけ、日本のジオパークに学びに来てもらうような事業を始めることはできる
- * 海外から研修に来てもらうことで、地域の子どもたちにも「なぜこんな小さな隠岐に外国人がいるのか」といったグローバルな視点を持ってもらうなど、WIN-WIN の関係を築くことができる

【渡辺】どうも皆さん、こんにちは。渡辺です。

こういうパネルディスカッションというと、 とかく時間の都合もありますので時間が足りないことが多いんですが、きょうは1時間半、たっぷり時間がございます。なので、パネリストの方々にも遠慮せずに思うことを全部語っていただいて構いませんし、あと場合によっては会場からのご意見も伺うこともできるかもしれません。そう思っています。

お3方講演いただいたんですが、ここで中田 さんと野辺さんから自己紹介をしていただくと いうことでいいんでしたっけね、予定としては。 何かジオパークへの関わりとかその辺を。例え ば日本ジオパーク委員会を立ち上げるときに、 やれと言われたきに何を考えて引き受けたのか なとか、なかなか興味深いんですけれども。

【中田】渡辺さんがまず自己紹介するのが普通だ と思ったんですが、しょうがないな。(笑)

【渡辺】そうか、私したほうがいいんですか。言 われると思わないから考えてなかったな。

先ほど松田さんが、たまたま同僚が学長から 命令されたからエコパークに関わったというお 話をされていましたけれども、私も地質調査所 長という人が「渡辺さん、これ君の仕事だから。 ジオパークというものがあるらしいから」と言 われたのが始まりなんです。ただ、その後ちゃ んと、当時もう既にジオパークネットワークの ガイドラインというのがユネスコのホームペー ジにあって、そういうものを読んでみると大変 すばらしいことが書いてある。これはおもしろ いなと思ったんですね。



もう一つは、私、地質学者をずっとやっていたんですけれども、一生懸命研究しても世の中と関係ないわけですよ。一生懸命研究した成果が世の中の人にほとんど理解されてないなというのをそのころ自分の頭の中で思っていて、こういうジオパークみたいなことをやれば、自分の研究したことが世の中に役立ててもらえるのかなと思ったのが一つの始まりです。

そんなところで。

【中田】自己紹介からいうと、私は実は金沢大学に6年間いまして学んだんですね。そういう意味では白山もよく来たことがあるんですけれども。その後、九州大学へ行って、九州大学で就職をして助手で長い間いたんですけれども、そのときに雲仙普賢岳が噴火しました。そのときに火山地質屋さんは九州大学に私しかいなかったので、観測に駆り出されて、多くの犠牲者を出した噴火の中で情報発信するということが非常に難しいなと痛切に感じました。その後、噴火予知ということに絡み始めたわけです。東京大学にも異動しましたけれども。

ジオパークとの関係は、まさに渡辺さんがやってきて、私は火山学会の役員をしていましたので、火山学会から誰か一人出せと。日本ジオパーク委員会というのは5つの学会から推薦された人が委員になっているんですけれども、火山学会もその一つだったわけです。それで私、国際火山学会の会長もやっていましたので、じゃ俺しかいないなということで参加させていただきました。それが2007年ぐらいです。

その前に、日本がジオパークを導入したいと



思っているときに、私が仕事をしていた雲仙普 賢岳で国際ボーリングプロジェクトをやってい たんですね。そのとき、渡辺さんではない産総 研 (編注:産業技術総合研究所)の方がやって きて、雲仙をジオパークにできないかという相 談があったんです。そのときは、私はボーリン グのプロジェクトと、その直後に火山の国際会 議を開くことにしていましたので、それに集中 していたので、そんなどうでもいい話はやめて くれと言ったことがあるんです。実はそれが本 当のかかわりです。だけどその後、島原半島が 日本で最初の3つの世界ジオパークになるとき に、実は私が出かけて説明をして、それをちゃ んとフォローもしました。今は島原半島ジオ パークの顧問をさせていただいています。

話せば長くなるので、この辺で。

【渡辺】またおいおい聞きます。

野辺さん、自己紹介をお願いします。

【野辺】私は、隠岐の島の中学校を出て、本土の 松江高専の土木に入って、それからゼネコンに 11年間いました。沖縄の嘉手納基地で米軍の 住宅をつくって、那覇空港で弾薬庫をつくって、 名護でゴルフ場をつくって、十何年ぶりに隠岐 に帰ったわけです。

隠岐というのは、後鳥羽上皇、後醍醐天皇が 流された島ということで観光地として有名だっ たんですが、僕が帰ったころは毎年1万人ずつ 観光客が減ってきている。そういう中で島がす ごく衰退してきたわけです。そのときに何をし たらいいかということで、いろんなことをやっ たんだけれども、結局は島の人間が島のこと、



隠岐のことを誇りを持って語れるようにしなく てはいけないということで、2004年からガイド 養成講座というのをずっとしていました。隠岐 の地域資源とか歴史文化とか地質遺産を使った まちづくりをしたいということをずっとやって きた中で、2008年にジオパークという言葉を聞 きまして、まさにジオパークというのは隠岐の ためにあるものだと思って、そこから世界に行 きたいという。それでずっと世界ジオパークを 目指して、島の人間が誇りを持つために世界ジ オパークを目指したということで、当初、ジオ パークをやる前からジオパーク的なことを隠岐 でやっていて、ジオパークをやろうと言い出し て、町長に協議会をつくってもらって、今、隠 岐4カ町村と県と一緒になってジオパークに取 り組んでいます。

【渡辺】どうもありがとうございます。こんなメンバーでこの先やっていくわけですが。

先ほどからのお3方のご講演の中でも、ジオパーク、あるいはユネスコ、あるいはエコパーク、国連、そうしたものが目指しているこれからの社会の方向として、持続可能な発展という概念が何度も何度も出てきました。この持続可能な発展という言葉、我々最近、新聞でもニュースでも耳にしますし、またジオパークの関係者の中でも持続可能な発展って何だろうという議論をするわけですが、ぼんやりとはわかるんだけれども、なかなかちゃんとわかってないところがあるんじゃないかと思います。

そういうこともありますので、まずこの考えが出てきた過程で、国連やユネスコに深く関わっていらっしゃった松浦さんに、持続可能な発展とは何だろうということをご解説いただけないかと思います。

【松浦】先ほど申し上げましたように、経緯的には1992年の地球サミットをにらんで、国連のデ・クエヤル事務総長が音頭をとって、ノルウェーの首相をしていたブルントラントさんを委員長にしたブルントラント委員会が考え出した概念です。これは80年代の後半から90年代にか



けてです。その背景には、70年代の初めにローマクラブが食料危機、つまり将来の食糧不足が大きな人類にとってのキーになるという警告をし、さらには環境保全を地球規模でしっかりやらなければいけないということをローマクラブが打ち上げ、その後、第1次石油ショック、第2次石油ショックが70年代に起きて、それはいずれも乗り切りましたけれども、これはまさにエネルギー問題ですね。

ですから食糧、エネルギー、そういうものを 踏まえた地球環境、それと同時に根本的に、日 本でも最近貧富の格差が言われておりますけれ ども、世界的な規模で見た貧富の格差ははるか にひどい。今の底辺のほうでいえば、1990年代 の終わりから2000年代にかけて、1日1ドル以 下で生活している人が世界全体で12億いると。 したがって、先ほどちょっと話が出ました MDGs、2015年をにらんだ開発目標においては、 1ドル以下で生活している人を絶対的貧困と呼 んで、その人たちの12億を半減して6億にする と。ただ、2008年に1ドルが1.25ドルになり、 今度また1.75ドルになって改正されていきます けれども。いずれにしても絶対的な貧困で、大 げさに言えば毎日食べるものもない、あるいは ぎりぎりの生活をしている人たちを最終的には ゼロにするけれども、とりあえずは半分にする という目標でMDGsをつくって、それを達成 するために、2番目に初等教育をすべての児童 に受けさせる。これはまさにユネスコが担当す るわけですけれども。3番目が男女の平等とい うことで、あと8つ入るわけですが、環境が最

後に入りました。

しかし2015年になって見直してみると、必ず しもこれらの目標がしっかり達成されていない。 絶対的貧困はかなり減りましたけれども、まだ まだ。

かつ2000年の時点で、私は SDGs と呼ばせていただいたほうが楽なので、SDGs の根幹にある持続可能な開発、さらに私が申し上げたように発展の言葉が好きなので持続可能な発展という概念は、2000年の時点で出ていたんですが、それを必ずしも取り入れてなかったんですね。したがって、それを取り入れた新しい開発目標をつくる必要があるということで、2010年代に入っていろいろ検討が進んで、先ほど申し上げたように去年の9月の国連サミットで新しいSDGs が2030年をにらんで採択された。

さっき申し上げたように17目標がありますけれども、第1目標は同じように絶対的貧困というものの絶滅。定義は1.75まで上がりましたけれども、地域的に言えばサハラ以南のアフリカが中心で、あと南西アジア。もちろん世界中に散らばっていますけれども、集中しているところはその2カ所であるということで、これが一番重要な目標で、あとはさっき私、教育がゴール4と申し上げましたけれども、そのほかに水がゴール6に入っていますが、健康、気候、その他いろんなのが入って全部で17。私の記憶では、サブターゲットは160を越えていたと思います。ちょっと目標が多過ぎるので困るんですけれども。

ただ、これを達成することによって、私ども 人類が地球の環境を破壊し、地球の資源をどん どん乱用して使い減らしていく。そうすると私 どもの次の世代、あるいはずっと先の世代が住 めなくなるような地球環境になってくる。使う 資源がなくなる。そういうことはやめましょう と。まさに今のような地球の状態を次の世代、 あるいは何十年後、何百年後にも同じような地 球環境を次の世代にも引き継ぎましょうと。こ れが SDGs の全体を通しての基本的な考えです。 それが先ほど来話題になっていますように、世 界遺産にも該当するし、MABにも該当するし、 ジオパークにも該当するということです。

【渡辺】ありがとうございます。今、非常に印象的な言葉として、この地球を先の世代が住めなくなるようにすることはやめようと。それは、一つは資源であり、資源というのは地下資源もあれば水もあれば空気もあればさまざまな、生物の多様性も資源でしょうし、そういう資源や環境を守って、しかもきちんと生活できる。それから、地球の中での貧困の差をなくしていこうというようなことが目標なんだというお話でした。

さて、ここでマッキーバーさんにお聞きします。そうした持続可能なこの地球、社会をつくっていくために、地球科学者の役割、あるいはジオパークの役割というのはどんなふうなものだとお考えでしょう。

Like Mr. Matsuura, when I think of sustainable development, I think of the definition put together by Gro Harlem Brundtland, the Norwegian Prime Minister, in a famous report from 1987 of the Brundtland Commission.

今、松浦先生がおっしゃったことですけれども、持続可能な開発、持続可能な発展というこの定義は、ハーレム・ブルントラントさんというノルウェーの首相が率いた87年のブルントラント委員会が出した報告書で明らかになっていると思います。

And I think the definition that was put forward by the Brundtland Commision is still the simplest and best definition. It is "the ability of a present generation to meet its needs without compromising the needs of future generations to meet their own needs."

このブルントラント委員会が出した持続可能 な発展の定義というのが最もわかりやすく最適



なものだと思います。この定義というのが、未 来の世代のニーズを満たせないような状況にす ることなく、現在の世代のニーズを満たしてい くというふうに書かれていました。

Does this concern geology? Does this concern geologists? You bet it does. Because what is it 95% of geologists do? They take minerals from the ground. They take oil from the ground. They look for coal. We are the people that find all these resources.

これはもちろん地質学、そして地質学者にも 関わってきます。地質学者がやっている仕事の 95%は、地中から鉱物や石油、石炭を掘り出し てくることですので、もちろん関わりがござい ます。

So perhaps, more than any other branch of science, we have a great responsibility to make sure that we engage with communities, with both the public and with governments about sustainable development and about what it really means.

ですから地質学の分野というのは、ほかの科学のどの分野と比べても、持続可能な開発、発展に関しては、コミュニティや一般の市民、そして政府に、どういうことなのかということを知らせて、関わっていかなければならないと思っています。

I just got back from a meeting in Yunnan Province in China with my colleagues in the International Union of Geological Sciences.

実は私は、中国で行われた国際地質科学連合 の会合から戻ったばかりでございます。

And one of the things we had great discussion about, was a project that we called Resourcing Future Generations.

そして、私たちがその会議の中で最も活発に 議論したのが、未来の世代のための資源という プロジェクトでした。

Within just over thirty years, this planet is going to start running out of some of the very core commodities that are needed for our everyday life.

これから30年の間に、私たちは、私たちの生活に欠かせない非常に重要な資源が枯渇する状況に陥ってしまうと思われます。

It is quite probable we have discovered all of the big copper deposits on the planet.

これは、私たちの世界にある銅の資源の中でも顕著に見られます。

The big iron deposits...the coal deposits...we have discovered them all.

それから、これまで私たちは、鉄も石炭の埋 蔵も既に発見してきてしまっています。

The minerals that you need go into this (Editer's note: cellar phone), rare earth elements.

そして、このような、レアアースのような非常に貴重な鉱物も私たちの携帯電話に使われています。

Where are we going to find them? We only have one planet.

一つしか地球がないにもかかわらず、このような貴重な資源を一体どこで見つけられるでしょうか。

So these are the issues that the earth science community is now starting to really think about. How do we extract mate-

rial in a much more sustainable way and a much more effective way, with much less waste?

ですから地球科学としては、このように貴重 な物質を、どうすればより持続可能で効果的な 方法で、また無駄なく抽出することができるか ということを考える必要があります。

For a lot of earth science material, we certainly need commodity material. We certainly need better recycling technologies.

そして、地球科学分野に関する鉱物、資源では、より効果的なリサイクルの、再利用の方法を見つけなければなりません。

But we also have to educate society itself—and it is has to change— and that the mass consumption that human society has become used to is not sustainable in itself.

そして、社会にもどうやって変わればいいかという方法を学んでもらうようにしなければいけませんし、これまで私たちが慣れてきた大量消費のやり方というのがもう続けていけなくなっている、持続することができなくなっているということを伝えなければならないんです。

These are really fundamental questions, problems, and issues facing humanity. I don't have the answer to them. Geopark doesn't have the answers to them. But one thing we are trying to do, is just to raise awareness and get the conversation started. Because unless we do that, then we are running toward the edge of a cliff where in 30–40 years' time, suddenly we are going to be confronted with a very unwelcome reality.

これが、私たちが今直面している、人類が直面している根本的な問題だと思います。もちろん私自身も残念ながら答えは見つかっていませんし、ジオパークにも答えはありませんけれど

も。ただ、人々の意識を高め会話を始める努力 はしていますし、そうしていかなければ、30年 後、40年後にはぎりぎりの段階にまで追い詰め られてしまうということになると思います。そ して、私たちには受け入れがたい、大変受け入 れるのが難しい現実に直面せざるを得なくなっ てくると思っています。

So just to finish though, the Sustainable Development Goals, Agenda 2030, and the 17 Development Goals are a great start. But these are not the responsibility of the United Nations. They are not the responsibility of UNESCO. They are the responsibility of every single one of us. All of us together have to implement these goals. That is what sustainable development really means.

先ほどから挙がっている持続可能な開発目標、アジェンダ2030というのは、17の目標が含まれており、大変すばらしい始まりの一歩だとは思います。ただし、これを実現するのは国連やユネスコの責任ではありません。私たち全員が実際に目標を達成するために行動を起こさなければいけないと思います。それこそがまさに持続可能な開発ということだと思っております。

【渡辺】どうもありがとうございます。

そうなんですね。多くの資源、私も地質図なんかをつくって資源を掘ることを助けてきたわけですけれども、ただ、私の子供たちなんかもそうなんですけれども、例えば使っているこういうもの(編注:携帯電話)が地面の中から出てきた限られた資源でつくられているということを、余り意識してないんですね。私は一応地質学者だから、理屈の上ではわかっているけれども、じゃ日ごろの生活にそれをどれだけ意識しているかというと、そんなに意識しているわけではない。そういうことをジオパークの中でどう意識できるようになるかというあたりは、ジオパークの役割として大事なのかなというふうに思います。

もう一つ、私たちが生活の上で使っている資源として、そういう地質的な資源だけじゃなくて、もちろん生物学的な資源というようなものがあるわけですね。そのあたりの関係について、松田さんからコメントをいただければと思います。

【松田】私、最初の紹介のときに水産庁とか海洋研究所という所属があったというふうに紹介をいただきました。生態学会員であると同時に、私は水産学会員なんですね。水産、漁業というのは野生の魚をとるものです。1950年代から漁業の世界ではSustainable Fisheries、持続可能な漁業というのが一番大きなキーワードになりました。ですから水産学者はみんな思っています。今世界中で、環境問題で言われている持続可能性の元祖は水産学であるというふうに思っているわけです。

水産の世界は、一番そういう意味ではわかり やすいのは、獲り過ぎるというのが現実にいっ ぱい生じているということです。獲り過ぎを避 けるということで持続可能なものになる。

鉱物資源と明確に違うところは、石油が一番わかりやすいですね。化石燃料もそうなんですが、とった分だけ減っていくんです。ところが生物資源というのは、親が残っていれば子供が生まれる。だからほどほどに獲っていけばいい。農業の世界だと、種もみを残しなさいなんていう言い方をすると思いますが、少し次の世代にまく種を残しておけば持続可能にいつまでも収穫ができる。そういうものです。

この2つは性格がちょっと違いますが、どち



らにしても持続可能に利用するということが大事になります。当然、レアメタルのような金属の場合には再利用する。何かの形で再利用する。捨ててもいいんですが、捨てた場所が後で鉱山よりも安い価格で掘り返せるようにしないと成り立たないということになるんだろうと思います。

【渡辺】ありがとうございます。再生可能という 話が出たんですが、我々地質学者はすごく長い タイムスパンで物を考えるので、石油もあと何 百万年かすると少し増えるよなんて言ったりす るんですけれども、それは我々が生きている間 には何の意味もないわけで、その辺は生物学的 資源と地質学的資源、大きく性格が違うなとい うのがよくわかりました。

さて、こうして持続可能なということを解説していただいて、少しずつわかってきたような気はするんですが、それと私たちの日ごろのジオパークの活動とどう結びつけるかというと、これなかなか難しいですよね。まずその辺のあたり、野辺さんに日ごろジオパークをしている立場として、今の持続可能な地球社会ということで、それに対してジオパークって何ができるんだろうというようなことについて感想を述べてください。

【野辺】今は持続可能な発展とか開発ということを言いますけれども、最初はそんなもの考えている暇なかったんですよ。だって隠岐は毎年1万人ずつ観光客が減っている。その中で島が沈みそうな状況で、島を何とか元気にしたいと。要するに、ずっと右肩下がりに下がっていくのを何とかとめたいという。だから発展とかということを考える余裕なんてなかったんですね。

ただ、地域資源を使った観光振興、地域振興をやっていこうといったときに、使いっ放しではだめだと。やっぱり保護しないと使っていけない。どこかで資源の消費だから資源もなくなってしまうという考えはあったので、10年前に、我々はまちづくりグループをつくって、まちを元気にしようとやったときに、ガイドブックと

ルールブックというのをつくったんですね。開発もするんだけれどもちゃんと保全もしていこうという、そういう考えでやってきたということ。

あともう一つは、最近になってやっと、私たちはマグロのようにずっと走り続けないといけないなと。要するに、よりよいもの、よりよい地域づくりというか、より元気にするためにずっとずっと続けていかないと持続可能というところにもなっていかないし、地域の資源を使った、地元の企業がお菓子づくりであるとかお土産をつくっていくとか、いろんな新しいアイデアをどんどん出してもらうようにしていかないと持続可能にはなっていかないなということで、やっと少し現場のほうでも考えるようにはなってきています。

【渡辺】松浦さんのご講演であったように、グローバルな問題と、それから地域にあるミクロな問題、それが合うか合わないかというところが成功の鍵のような気がするんですね。今、野辺さんのお話を伺っていると、自然資源で観光ができているんだから、それは守らなきゃいけないという考え方が生まれてきたということをおっしゃいました。そこでグローバルとマクロが合ってきているのかなというふうに思います。

今すごく大きな問題から入っちゃったので、 なかなか話がしづらいところがあるので、だん だん話を話しやすいところに持っていこうと思 うんです。

自己紹介に少し戻るんですけれども、私が初めてジオパークをやったときに考えていたことは、これで地質学を世の中の人に知ってもらえるかなということを思っていたんです。初めて2006年にパトリック・マッキーバーさんが中心になって開催された世界ジオパークネットワークの第2回の大会が北アイルランドであって、そこに参加しました。そこで私もジオパークが持続可能な発展のためにあるんだというような話を初めて聞いて、ああそうかといったような

次第だったんですね。

ここでマッキーバーさんにお聞きしたいのは、ジオパークというのがどういういきさつで生まれて、持続可能な発展を目指すジオパークという考え方がどのあたりで生まれたのか。最初からあったのか、途中でそういう考えが加わったのか。その辺の経緯をお聞きしたいと思います。

【マッキーバー】It was a concept that took some time to develop. It all started like a long story, but it started in the late 1980's. There was an idea in China to make what are called geological parks. So these were areas of special geology. But they were more intended to be places for the geologists. There was no thought given to local communities or to sustainable development. In the mid-1990's -1996 — two of my colleagues met at the International Geological Congress in Beijing. And they were both working on projects that were trying to engage local people with earth science -trying to explain earth science to the public.

これは実は途中から生まれて、つながりを持つようになった考え方なんです。話せば長くなるというよくある類のお話なんですが、まず1980年代の後半に中国において地質学的なパークという考えがありました。これは特殊な地質を持った地域に公園のような括りを設けるというものでしたが、これは決して地元の地域のためのもの、あるいは持続可能な開発のためというものではなく、あくまでも地質学者のためのものでした。そして1996年ごろに、私の知人2人が北京で行われていた国際地質学会議に出席をしていました。そのときの彼らの試みというのは、地球科学をできるだけ地元の人にどういったものなのかを説明しようということで、そのような話をしていました。

So these two friends -one is from

France and one is from Greece—decided that when they went back to Europe they would keep in touch and try to work together. They found somebody doing similar work in Germany and somebody doing similar work in Spain. These four people came together and got funding from the European Union's funding program to create what they would call the European Geoparks Network.

この2人の友人同士が、1人はフランス人、1人はギリシャ人でしたけれども、ヨーロッパに会議が終わって戻ってからも一緒にこの試みを続けようということになりました。そのうちに同じようなことをやっているドイツ人にめぐり会い、また同じような志を持っているスペイン人にも出会いました。そこでこの4人が力を合わせてEUのほうから予算を取りつけ、それがきっかけとなって彼らがヨーロッパジオパークネットワークというのをつくりました。

So in the year 2000, four years after they met, they put together a conference and they invited about 30 of us to Spain. And I got an invitation because I was working in Ireland at the geological survey specifically on geo—tourism. It was engaging with local people, putting together walking roads, cycling roads, etc.

彼らは出会ってから4年後、2000年にスペインで会議を開催しました。そこに私たちのような人を30人ぐらい呼んでくれました。私がなぜ声をかけられたかといいますと、当時はアイルランドの地質調査所で仕事をしておりまして、ちょうどジオツーリズムと当時呼ばれ始めていた仕事をしていました。まさに地域社会と連携した上で、例えばお散歩道を整備していく、もしくはサイクリングロードをつくっていくといったような仕事をしておりました。

But it was only at this point that the magic started to happen. Because fol-



lowing that conference, we agreed that we would come together as a network three times every year. So for the next four years, we came together. We would host the meeting in our own territories. We would all take a turn paying for everybody to come. And for the next four years, we met three times every year and built up the level of friendship and trust to such a degree that other people wanted to come in and join this network also. This then brought us to UNESCO in 2004 when UNESCO had seen what was happening and decided to put us in contact with these geological parks in China. and together we launched the Global Geoparks Network.

そのあたりから、いわば奇跡が始まりました。この会議が本当にきっかけだったと言えるわけなんですが、そこからネットワークとしては1年に3回は会合を持とうということが決まりまして、その後の4年間、年間3回の会議を続けました。主催者は各地域で当番制にしまして、毎回、その開催地でほかの人が集まるだけの費用を出し合うということで会議を重ねていく中で、我々の友情、そして信頼がどんどんと増していきました。余りにもその成果はすばらしく、見ていたほかの人もぜひそのネットワークに参

加させてほしいというまでになったんです。それがきっかけで、2004年にユネスコのほうにも紹介がありました。ユネスコは私たちのネットワークの様子を見て、ならばということで中国のジオパークと引き合わせてくれ、それが一つの始まりとして世界ジオパークネットワークになりました。

And to this day, the Geoparks in Europe
—they don't meet together three times a
year, but they do come together twice
every year. And this network is still very
much the heart of the Global Geoparks
Network. There is still that level of cooperation and level of exchange. And that is
really what we want to see develop in the
other regional networks around the world.

今でもヨーロッパの関係者は、年間3回の会合は今は持っていませんけれども、1年に2回は集まっています。彼らが今も世界ジオパークネットワークの中心的な役割を担っています。以前と変わらない協力体制、そして交流を持っていますし、これと同じような雰囲気、体制を、ぜひ今ある各地域のネットワークにも目指していただきたいなと思っています。

I should just finish that —if you had told me back in 2000, at that meeting in Spain that in 16 years, I would be sitting with the former Director General of UN-

ESCO at somewhere called Hakusan in Japan, I would have said, "That is a joke. That is never going to happen."

このお話の終わりに一言つけ加えさせていただきますと、スペインで会議をやったのは16年前、2000年のことです。そのときに、パトリック、あなたは16年後に日本の白山というところに行って、そこでユネスコの元事務局長とこういったパネルディスカッションに参加しているんだよというふうに言われたとしても、そんなのはあり得ない、絶対うそだ、信じない、と言ったと思います。

【渡辺】始めたときには、ユネスコとかそういう のは全く視野に入っていなかったんですかね。

【マッキーバー】To great apologies…no…not so much about UNESCO. It didn't even enter in to our minds. What our vision was back then, and especially from my own perspective, because I grew up in Northern Ireland and at the time of the geoparks development, we were just coming out of 30 years of civil strife...30 years of civil war, which I grew up in. And the idea to make a difference to our communities to try to bring the people back together again after this conflict was really what I was concerned about, and that is why I was trying to use earth science in a way to bring communities together —to empower them. To make them realize that they are not that different and that they may have many things that they don't have in common, but one thing we all have common is the planet we live on. So that was the rationale behind it. We had no great vision beyond that in advance. Though that was a vision itself I think.

おわびを申し上げなければいけないんですけれども、そのころは全くユネスコのことは考え

ていませんでした。私自身は北アイルランドで 育ちましたので、当時のビジョンというのは、 ジオパークをつくって地元の住民をもう一度ま とめたい、協力させたいと考えていました。と いいますのも、30年間、北アイルランドでは内 戦状態というか対立が続いておりましたので、 地元の住民を、地球科学を使ってもう一度まと めたいというふうに考えていました。当時はお 互いに対立している人々が自分たちの間には共 通点はないというふうに考えていましたけれど も、実はお互いそう変わらないんだということ をわかってほしくて、しかも私たちの共通点と いうのは地球であるということを伝えたいと思 っていました。私は何とかして地元住民をもう 一度まとめたいと思っていた。それだけがビジ ョンでした。

【渡辺】ありがとうございます。地球科学を使って地元住民をまとめたいなんて途方もない思いつきだと私は思います。ちょっと感動しました。さて、松浦さんにお聞きしたいんですけれども、今マッキーバーさんからお聞きしたようなジオパークの経緯というのは、ユネスコのプロジェクトとしてはかなり変わっていると思うんです。その辺も含めて、ほかの世界遺産やエコパークやそういうものと比べたときのジオパークの特色とかその辺について、お考えがあればお聞きしたいんですけれども。

【松浦】私が事務局長をしていて、まさにこの提案を受けて、私は、ユネスコはぜひ乗るべきであると思いました。

先ほど来、話題になっています、松田さんが 詳しく説明された MAB、それから私が述べま した世界遺産条約、いずれも70年代から動き出 して、MAB はもちろんジオパークと直接結び つきはありませんけれども、さっき申し上げた ように世界遺産条約では自然遺産というのがあ って、自然遺産はまさに現在の自然遺産をその ままの状態で次の世代に伝えるというのが基本 目的。ただ、自然遺産は、先ほど申し上げたよ うに顕著な普遍的な価値。普遍的というのは、 先ほどは申し上げませんでしたけれども、英語で universal というんですけれども、これはむしろ日本語では世界的な価値と申し上げるべきなんです。顕著な世界的な価値があるというかなり厳しい条件がついている。

それに比べてジオパークのほうはもっと広い 意味ですから、これであればもっといろんなと ころでジオパークができて、まさに現状をその ままの形で次の世代に伝えるという、本来は世 界遺産条約の目的でありながら、世界遺産条約 に登録するのは非常に条件が厳しいので、ジオ パークであればまさにそれは。それから先ほど 松田さんも解説されたように、まさに学者の先 生、地元の住民の方が一緒になっていろいろ研 究もする。いろいろそういうことも合わせてで きるので、乗るべきであるというのを当時の自 然科学担当の一私ども ADG と呼んでいますけ れども、事務局長補と日本語で言っています。 英語でいうと Assistant DG です―に言いまし た。ドイツ人でした。ただ残念ながらメンバー 国がなかなかすぐ乗ってくれないものですから、 その後、先ほどマッキーバーさんが解説されて おりましたように、10年以上かかってようやく 今回正式なプログラムになったので、私は非常 にうれしく思っています。

私自身は、繰り返しますけれども、これはユネスコの役割に非常に合っている。だからユネ

スコはしっかりプログラムに取り入れるべきであるというのが私の最初の反応で、残念ながらメンバー国がすぐついてこなかったので、ユネスコがそれを支援するという形で発足して、マッキーバーさんや皆さんのおかげでしっかり動き出して、日本でもしっかり動き出したので、私はうれしく思っております。

繰り返しますけれども、世界遺産条約の自然 遺産の4つの形態のうちの1つがまさに地形上、 地質上、非常に顕著な普遍的な価値があるとい うもので、形態的に言えばジオパークが要件と していることと相通ずるものがあるわけです。

【渡辺】ありがとうございます。

元事務局長にジオパークが高く評価されていたというのは大変私たちとしてはうれしいことなんですけれども、一方で、何かちょっと違うなと思うところもあるんです。というのは、私が初めて2006年に世界ジオパークネットワークの会議に参加したときの感想を正直に言いますと、何てクレイジーなやつらだとそのときは思ったんです。会議に行くと、みんなすごい勢いで語り合っているんです。もう皆さん、ここにいる人のかなり多くの人はジオパークのネットワークに入った人だから、来るとそうやって熱く語り合っているわけですけれども、私初めてその会議に出たときは、ユネスコが支援しているプログラムの国際会議だというからもっと形



式張ったものだと思ったんです。そうしたらす ごい勢いで語り合っていて、そのときにマッ キーバーさんとも初めて会い、その後、多くの 人と出会ったんですけれども、これはクレイ ジーなやつらだなと思いました。そして、何と おもしろいんだと思いました。初めて、あ、こ れならやってもいいかなとそのとき思ったんで す。

そこで中田さんにお聞きしたいんですが、中田さんは初めてそういう世界ジオパークの人たちと会ったとき、どんな印象でしたか。

【中田】やっぱり研究者からすると、非常に異常な集団だなという印象を受けましたね。例えば普通、国際会議というと、我々は何カ月も前にabstractを書いて出すわけです。ところがこの会議というのは縛られないんですよ。それだけ融通がきくというのがあって、普通の国際会議の雰囲気と結構違うなという印象は非常に強かったですね。

だけど、その場で議論できなくても続きがずっとあるんですね。だから発表だけで物事が終わるということではなくて、次から次にフォローが来る。十分議論したいだけできる。そういう不思議なグループだなという印象を受けましたね。

【渡辺】そうなんですよね。ここにおられるかなりの人たちも、もうそういう世界の人になっちゃっているので、多分今晩もパーティが終わっても夜遅くまでずっとジオパークの話をしているんじゃないかという人が集まっている。 多分、松田さんは、そういうネットワークに魅力を感じられたんじゃないかなと思うんですけれども、その辺いかがでしょう。

【松田】そうですね。日本地球惑星科学連合の会合に呼ばれて行ったときに、非常に大きな、いわばショックを受けました。まず研究者の語りもそうなんですけれども、その場でジオパークのプレゼンテーションが行われて、それの審査のコメント、その場で、かなりオープンな場でやり合っている。あの雰囲気を見たときに、こ

れは今の日本ユネスコ国内委員会、MAB計画 分科会で審査されているユネスコエコパークの 審査過程と全然違うなというふうに思いました。 それが、ひょっとしたらこれだけ皆さんが熱心 にジオパーク活動に関わっているというか、関 わる気になる大きな要因かなというふうに思い ました。

実はそれをまねて、私、日本生態学会をやっているわけですが、エコパークなら生態学会だということで、生態学会の自然保護委員会の中にMAB担当をつくろうというふうにやっているわけです。ただ当然のことながら、エコパークも生態学だけで収め切れるものではないということも確かです。

実は生態学会は、日本地球惑星科学連合のメンバー学会なんです。ぜひジオパークにももうちょっと主体的に生態学会が参画させていただけないかなという気もします。皆さんやっていることを見ると、決して地学だけじゃないということは明白ではないだろうかというふうに思いました。

【松浦】私は逆に質問があるんです。どうも皆さん方のお話を伺うと、きょうはジオパークの学者先生を初めジオパーク関係者が多いので当たり前かもしれませんが、ジオパークの皆さんは非常に熱意に燃えておられる。ですから、日本でも関心を持たれるまで時間はかかったけれども、関心を持たれたら世界ジオパークに8つ、日本ジオパークが31、さらに16。非常に学者先生も熱心だけれども、地方自治体が熱心なんですね。

逆に、これは松田さんにお尋ねするのかな。 どうしてエコパーク、MABは同じように盛り 上がらないのかなと。松田さんが努力されて、 ずっと4つで、ようやく7つになったんだけれ ども、なかなか MABは盛り上がらないんです。 MABも概念としては非常に重要な概念で、か つ日本ではよく言われるように、先ほど松田さ んのお話にもあったけれども、自然との共生と いうのは日本が非常に大事にしているテーマで、 2005年に愛知万博がありました。その基本テーマは、自然との共生です。それから、2年ちょっと前に、先ほど申し上げた2003年の無形文化遺産条約に和食が登録されました。和食は自然の素材を大事にしてつくる。ですから日本というのは自然との共生、自然を大事にするというのが基本的なテーマ。そのときの自然は、ジオパークの対象である地質や地形ももちろんありますが、やはり生物の多様性。そのときの生物の多様性というのは、広く植物であり動物であり非常に広い範囲ですけれども、我々の生活と密接に関係あるんですね。そういうものを大事にしようというのにどうして盛り上がらないのか。その差をちょっとお尋ねしたいんです。

【渡辺】じゃ、ここは野辺さんに話を振りましょうか。もしジオパークより先にきょうの松田先生のような話を聞いていたら、隠岐は十分、MABのエリアにする資格もあると思うんです。MABをやっていましたかね。

【野辺】いや、多分やってない。

【渡辺】だとしたら、それはどうして。

【野辺】隠岐の歴史文化。隠岐というと後鳥羽上皇、後醍醐天皇が流された島ということなんですが、じゃなぜ隠岐に2人も天皇が流されたかというと、地理的な状況であったりとか、方角とか。隠岐の場合は北海道の植物と沖縄の植物が同じ場所で共存している。それは何かというと、2万年前に隠岐は島根半島と陸続きになってたりとか、アルカリ流紋岩という非常に大陸的な地質を持っている。全部地質のほうに行くわけです。そうすると、大地の成り立ちが語れるジオパークのほうがおもしろいというところですね。

ただ私、土木技師ですけれども、地学は大嫌いでしたので。今こうやって言っていますけれども、全く最初はそんなのは興味なかった。ただ、やると、はまってくる。今ジオパークをやっている事務局の人も、もちろん専門員もいますけれども、事務屋さんが結構熱く語っている。私も昨日9時に着きましたけれども、12時過

ぎまでここの山口さんと熱く語り合いましたで すね。

【渡辺】誰か会場に聞きましょうか。JGN の齊藤 事務局長に聞きましょう。ジオパークより先に MAB を知っていたら、糸魚川はエコパークに なったか。糸魚川も岩石の見どころが多過ぎる からな。

あと会場で、あそこは MAB のほうがいいん じゃないかというご提案があったら誰か叫んで みてください。今、日本ジオパーク、世界ジオ パークをやっているところで、あそこは MAB にトレードしたほうがいいんじゃないかとか、 そういうご意見ありますか。

白山は MAB ですかね、ジオパークなんです か。両方なんですかね。

私たちも実は不思議なんです。私も2006年に北 アイルランドで世界ジオパーク大会に出た後で も、こんなもの日本で、はやらないんじゃない かなと正直思っていました。でも糸魚川市長が ジオパークをやろうと言ってくださって、その 後どんどん広がっていく、本当に驚くべきこと でした。その辺で初期に……。米田さん、ジオ パークをやろうと思った理由は何でしょう。

【米田徹(日本ジオパークネットワーク理事長/糸魚川市長】 私は野 辺さんと同じで、我々のところは断層があって、 それを見て楽しんでもらおうという、それだけ で広がって、皆さんに声かけたらあっという間 に13地域が集まって、それからあれよあれよと いううちに広がっていった。もうかなり熟度が 高まっていて、そこに扉をあけたというところ ではないでしょうか。



【渡辺】最初に米田市長がいろんな地域に声かけられた後は、本当に広がるのが速かった。それともう一つは、皆さんがあっという間に、結構ジオパークの考え方って難しいと思うんですよ。それをどんどん多くの人が次々理解していってくださったんですね。そこが日本でジオパークがここまで広がった理由だと思うんです。

日本はいいんです。これはユネスコのプログラムですから、いろんな国の人にこうやって日本で起こったようなことを起こしてもらわないといけないんです。ここから後は、それをどうしたらいいかということを議論したいと思うんです。

私、昨年、マッキーバーさんとインドネシアに審査に行きました。ちょっと残念だったのは、地元の村長さんとかそういう方が、せっかく世界ジオパークに申請を出しているのにジオパークの基本となる考え方を余り理解してくれてない。どっちかというと、ほとんど理解してくれてないと思ったことなんですね。じゃどうしたらいいか。このために日本に何ができるかみたいな辺りを話していきたいと思うんですが。

その前に、松田さんにお聞きしたいんですけれども、MABのほうではインドネシアに JICA のプロジェクトですか、何か協力しているプロジェクトとがあるということをお聞きしたんですが、その辺のちょっと様子をお伺いしたいんですが。

【松田】ボルネオ島なんですけれども、マレーシア側です。コタキナバルですね。そこが Biosphere Reserves に去年でしたかね、登録されたんです。そのときにいわゆる JICA の方々が非常に精力的に協力してやられた。 JICA だけじゃなくて、ほかにも日本人の研究者が現地を見て、どういうふうにユネスコエコパークとしての申請書を書いたらいいか、あるいはゾーニングをしたらいいかというところをやられたというふうに聞いています。

【渡辺】もう日本から専門家が長期で滞在していると。

【松田】はい。今でもかなり滞在しております。

【渡辺】中田さんは、JICAの専門家としてどこかへ行ったことがあるんでしたっけ。そういうわけでない。でもインドネシアに随分いろんな形で研究の協力はされていますよね。

【中田】はい。何が質問されているかというと、 外国に対して何ができるか。

【渡辺】中田さんが研究しているような国で、ジ オパークの協力関係をうまくつくることはでき ないのかな、どうしたらいいのかな、というあ たりなんですけれども。

【中田】僕はリタイアしたら、インドネシアに行って頑張ろうかなと内心思っているんですけれども、やはり私も昨年インドネシアに審査に行って、世界的な価値のあるものは十分あるんです。人もたくさん住んでいて、共生はしているんですけれども、ジオパークとしてやっていくにはまだ準備が全然足りないんですね。それに気づかせてあげるということが非常に重要だと思うんですけれども。

そういう意味で、国内ネットワークはインド ネシアでもあるんですね。それは国がつくって、 5カ所ぐらいあったと思うんですけれども。た だ、そこは情報交換をやっている程度で、特に 会議をやって何を議論しているとかはないんで す。これだけ日本のジオパークがうまくいって いるというのは、やはり日ごろからのネット ワークだと思うんです。ネットワークを維持し てくれる事務局がいる。産総研が一生懸命頑張 って、理事長を中心にいろいろ働きかけられて ここまで来ている。そういう意味では、日本の 国内ネットワークというのは世界に誇れる。私 が知る限りでは世界で一番いいネットワーク。 もちろん国際的ネットワークはありますけれど も、国内ネットワークとしては最高のものだと 思うんです。

そこで我々が今やっているノウハウ、体験を 外国の今からジオパークを立ち上げよう、ある いは数を増やそうとしているところに移転する。 実際携わった人が行って、我々はこうやったん だよと。JICAのように長期滞在できればいいんですけれども、そういう仕組みが多分必要だと思います。それがアフリカでも数を増やすことにも貢献できるだろうし、もっと近場ではアジアで私たちが一番すぐにできる国際貢献だと思います。

【渡辺】ここでマッキーバーさんに伺いたいんです。例えば、ほかの国ではどういうような形で、まだジオパークがない国への協力をしているか。 幾つか例をお話しいただければと思います。

【マッキーバー】Well, there are various activities that happen, but I think it is very important just to go back to one point that was made about geopark people being crazy people.

さまざまな活動がこれまでなされてきましたけれども、一つ大切なことは、先ほどおっしゃっていたジオパークに参加している人たちがクレイジーだという発言について、少し私も付け加えさせてください。

We are not crazy people, we are ordinary people. That is the difference of geoparks. In this audience, we have people who are geological researchers, who are geopark managers, but you have people from the community that are here, because they are proud of where they are from, and that is what makes the difference in geoparks. It is a bottom-up initiative. It is not government officials coming from the capital to say. "You must do this. you must do that." It is not at all. It is the people in the community asking for the help and the assistance. That is what makes geoparks so beautiful and so different.

実は私たちはクレイジーなのではなくて、私 たちこそが普通なのだと思います。今日参加し ている人たちは、地質の研究者であったりジオ パークを管理している人たちだったりしますけ れども、地元のコミュニティからやってきた人 たち、地元を誇りに思う人たちです。それがジ オパークを特別な存在にしていると思います。 まさにボトムアップの取り組みであって、中央 から来た役人があれをしなさい、これをしなさ いと指図をするのを聞くのではなくて、地元の コミュニティが協力を求めたり支援を求めたり という取り組みをしている。それがジオパーク をすばらしい存在にしているのだと思います。

And yes we are passionate. And we are passionate because we understand the biggest story that has ever been told — the story of planet Earth.

私たちが情熱的であるというのは、私たちはより大きな全体像、地球という全体像をよく理解しているからだと思います。

And when geologists take the time to forget about talking in their own scientific language, and they talk to the ordinary people in the ordinary language and tell them the great story of the Earth, everybody just goes, " Wow!" That really happened.

私たち地質学者というのは、これまでに私たちが学んできた科学的な表現とか科学的な話ばかりではなくて、ごく普通の人たちに普通に使われる言葉を使って、これまでに何があったのか、地球で何があったか、どういうことがあったかというすばらしいストーリーを伝えているんだと思います。そして、それを聞いた人たちは誰もがそれはすごいと驚くということだと思います。

And that is why people want to be a part of the geopark family, because they understand that story also. So in terms of what we have done within geoparks to better geoparks in other areas, I'll just use one example. And it happened last May. You know that UNESCO has no money at the moment, and the UNESCO



program was created with one condition from UNESCO —it must not cost UN-ESCO one cent more.

そのすばらしい話を伝えているからこそ、誰もがジオパークのファミリー、家族に参加したいと思っているのだと思います。これまでに私たちがやってきた活動ですけれども、去年5月の例をお話しします。ユネスコのプログラムとして立ち上げようということになったとき、一つ条件がありました。ユネスコは財政難にあるということで、このプログラムを立ち上げることによって、ユネスコに1セントも追加の出費がかかってはならないということが条件でした。

So the group at geoparks pay for everything themselves.

ですから、世界ジオパーク自身が自分たちであらゆる支出を賄うということがあります。

And last May, with the funding that Global Geoparks gave UNESCO, we hosted a capacity building workshop in Mexico City.

そして去年5月、世界ジオパークネットワークから資金を出して、メキシコシティで能力育成のためのワークショップを開催しました。

We flew about seven or eight Global Geoparks experts to Mexico and at the same time, we flew people from aspiring Geopark projects from across Latin America. We brought them to Mexico City

also.

私たちは、世界ジオパークの専門家7 人から8人をメキシコシティに行かせて、 そのほかにもジオパークをつくることを 目指している人たち、そのプロジェクト を立ち上げたいと考えている人たちを中 南米からメキシコシティに呼び寄せまし た。

And for two or three days in Mexico City, we learned about each other, we listened to their projects,

and we gave some advice. They listened to us talking about what a geopark really is.

そして、その後2日間ほどかけてお互いについてよく知り合ったりとか、プロジェクトについて話を聞いて、忠告をしたりアドバイスをしたり、またジオパークとは一体どういうものなのかということを伝えました。

But that was just the start. Because immediately after that, each geopark expert went and visited one of these geoparks in Latin America and spent a week with the local people in their areas.

ただ、このワークショップは始まりにすぎませんでした。その後、ジオパークの専門家が中南米各地のジオパークの設立を目指しているところへ行って、1週間ほど地元の人たちと過ごしていました。

The result was fairly spectacular. This year we had three applications to become Global Geoparks from Mexico.

その結果、成果はすばらしいものでした。今年、メキシコから世界ジオパークになるための申請が3件も提出されています。

We had an application from Ecuador and have two very concrete projects happening in Nicaragua and Peru.

そして、エクアドルからも申請がありました し、ニカラグアとペルーからも2つ、非常に具 体的なプロジェクトが寄せられています。

Probably more fundamentally is that these people are now meeting together themselves regularly. They are forming what we call the embryonic Latin American Geoparks Network.

それよりも本質的により重要だと思うのは、 このワークショップに参加した人たちが今では お互いに会って、まだ初期段階にありますけれ ども、中南米ジオパークネットワークをつくり つつあるということです。

Again, under the auspices of the Global Geoparks Network, we hope to bring these people together again in Uruguay toward the end of this year.

そして、今年の年末までには、ウルグアイに、世界ジオパークネットワークの支援の下、このような人たちをまた招待したいと思っております。

So that is just an example of what can be done. I know that this year, KIGAM, the Korean Institute of Geoscience and Mineral Resources is going to host an international workshop in Korea specifically for Southeast Asia: The Philippines, Cambodia, Thailand, Myanmar, etc.

これは私たちの活動の一例にすぎません。今年キガン(編注:韓国地質資源研究院)という組織が、国際的なワークショップを韓国で主催することになっており、特に東南アジア、フィリピン、カンボジアなどの国のためにワークショップを開催することになっています。

Last year, China hosted a group of 30 individuals from the African continent, to bring them to China to have an international workshop on geoparks as well. So these are the sources of international activities that Japan has an absolute responsibility to get involved in.

また中国も30人アフリカ大陸から人を招待し

て、ジオパークに関する国際的なワークショップを開催しました。日本もこのような活動をする責任があると思っております。

Why did we want to become UNESCO Global Geoparks? It wasn't just because we wanted the label "UNESCO." We wanted the international platform for cooperation that is provided by UNESCO. That is one.

私たちはなぜユネスコ世界ジオパークを目指したかといいますと、ユネスコというラベルが欲しいというだけではなくて、ユネスコを皆さんの活動の場として使って、皆さんが国際的に交流ができる、協力ができる活動の場を設けたいと考えたからです。

With UNESCO's international reputation, we can be sure that the platform UNESCO provides is an even stage for all countries in which all countries can be equal partners through the Global Geoparks Network. Thank you.

そして、ユネスコの国際的な評価、評判を考えれば、この活動の場があらゆる国が参加する、 そしてあらゆる国にとって平等な活動の場になるということは明らかだと思います。

【渡辺】日本に責任があるというお話をいただき ました。

松浦さんがそろそろ。

【松浦】今のマッキーバーさんが言われたことは、 全く私は賛成です。

1つ2つ追加させていただきたいのは、マッキーバーさんが言われた中で、ジオパークがユネスコの総会で採択されて、正式なプログラムになって一連のメカニズムができたのは非常にいいことなんですが、ユネスコの金を一銭も使うなという条件がついたというのは本当に残念です。

その背景は、ご承知かと思いますけれども、 2011年にパレスチナがユネスコに加盟しました。 これは長い目で見れば、ユネスコの歴史あるい

は世界の歴史に残る記念的な出来事だと思いま すけれども、短期的にいうと国際社会を割りま した。特にアメリカが法律上の要件もあって、 分担金、これは通常予算の22%を止めました。 余り報道されていませんでしたけれども、実は 私はアメリカを2003年に呼び戻して、アメリカ は分担金をきちんと払うようにしたのに加えて、 任意拠出金をどんどん出してくれるようになっ たんです。それを全部やめています。それから さらに言えば、アメリカに倣って他の先進国も 任意拠出金を減らしています。非常に残念です けれども。私のときは通常の分担金から成る予 算と任意拠出金から成る予算が大体同じ額ぐら い、そのぐらい任意拠出金が多かった。それか ら日本は、これは別な理由ですけれども、財政 難の関係で1997年から ODA 予算を半額にして、 ここで初めてちょっと増えますけれども、ユネ スコに対する拠出金は ODA 予算なものですか ら大幅に減らしています。いろんな理由で分担 金も減り、拠出金も減りという。

他方、今皆さんが言っておられるように、日本はジオパークの専門家がしっかり育っておられるし、これだけ皆さんの関心、もちろん日本でジオパークを増やすことに熱意を向けてほしいんですけれども、それをアジアのみならず途上国の支援にも活用していただく。そのためにはどうしてもお金が要ります。そのお金をどこから出すか。それはとてもジオパークを出している地方自治体に頼るわけにはいかないと思いますし、それから先ほど来話題になっている科研費でやることもできない。不可能ではないんでしょうけれども、限界がある。

私は、日本がそういうことをやるには、現状では JICA に協力を求めるしかないのではないかと。これは私、外務省時代にずっと ODA を担当していたので感じるんですけれども、うまく JICA と協力してやるしかないのではないか。日本にこれだけの蓄積があり人材があり、経験も積んできたわけですから、ぜひそれを、繰り返しになりますけれども、日本の国内で新しい

ジオパークをつくるだけではなくて、ぜひ途上 国、アジアのみならずほかの地域の途上国がジ オパークを増やすように。まだジオパーク120 というのは非常に少ないので。先ほどのMAB は500を超えている。もちろん歴史が長いから 当然ですけれども。日本では少ないんですが、 国際的に言えばジオパークの5倍はMABがも う既にあるわけなので、ぜひ日本の蓄積された 経験と知識を海外のほうに活用するシステムを つくっていただきたいと思います。

【渡辺】ありがとうございます。お2人からぜひ 日本の経験を生かしてほしいというお話があり ました。

私の目から見ても、この会場にも、例えば世界のジオパークの審査にぜひ行ってほしいような人、それから世界のジオパークに行けば十分いいアドバイスができる人がたくさんいます。ただ、今はお金の問題とか、それからもう一つは言葉の問題があって、なかなか実現していないんですけれども、中身があるなしが一番大事な話で、我々もだんだん中身はそろってきたので、ぜひそういう貢献できる道を探りたいと思ってはいるのですが。

この辺で野辺さんに話を振ってみましょう。 さっき地域が沈んできて、そのために一生懸命 ジオパークをやっているんだという状況の中で、 世界に貢献と言われたときにどんなことが頭に 浮かびますか。

【野辺】そこなんですよ。だから我々がどうやって世界に貢献できるかというところが多分みんな悩んでいるところではないかというふうに思っていますが、一つは来てもらって、招待して見てもらって、まちづくりというか地域を元気にするためのやり方を見てもらうということで、去年たまたまJICAの事業の研修で、アフリカから十何人来ていただいて隠岐の取り組みとか隠岐を元気にするためにこんなことをやっているんだよというような話をさせてもらって興味を持ってもらいましたし、もう一つは、どちらもウィン・ウィンというかメリットがないとい

けないということで、海外から来てもらって、 それによって島の子供たちで、なぜこんな小さ な隠岐に外国人がいるのかみたいなところから 子供たちにグローバルな視点を持ってもらう。

隠岐はグローカルという言い方をしているんです。グローカルな人づくりというところで、 我々としてはもう一回教育というところに重点を置いた地域づくりをしていこうかなということで、中学生、高校生を対象とした、英語でジオパークスピーチコンテストというのをジオパーク協議会でやろうということで、今取り組みをしています。

そういう面では、呼んで国際力を高めて、さらに海外に我々が出ていくみたいな。そういうふうな、ちょっと長いスパンですけれども、考えています。

【司会】大変申し訳ありません。大変議論が盛り上がっているところ恐れ入りますが、そろそろ松浦さんのご退席のお時間となりました。(松浦氏退場)

【渡辺】今、野辺さんから非常におもしろい話を 伺いました。野辺さんの話はジオパークを目指 しているところの人を呼んだ、というわけでは ないんですけれども、例えばほかのジオパーク でも、今申請を考えているような地域の人を3 人でも4人でも呼んで来てもらって、学んでも らうということはできますし、それだったらそ んなにすごいお金がかかる話でもないし、向こ うが自分のお金で来たいと言ってくれれば……

【野辺】よりいいですし、ただ、そういうことは、 今後やっていきたいなとは思っています。

【渡辺】例えば、日本ジオパークネットワークで、 そういうジオパークの申請を目指している地域 に声をかけて来てもらうというような事業を始 める可能性は十分ありますよね。

【野辺】それは事務局長──うんと言っています。
【渡辺】事務局長ができると言っているからできるでしょう。

そういうところから始めて、もう一つは JICA、国際協力機構という話がありましたが、 MAB の場合はどういうきっかけで始まったんですか。地元からやっぱり要請があったんですか。

【松田】その辺、詳しいことは実は私も存じ上げないんですが、マレーシアのサバだけではなくて、JICA は結構各地で、イランとかいろんなところで MAB 計画のサポートをしています。私の日本 MAB 計画委員会のウエブサイトを見れば、その一覧が載っております。

でも、多分、JICA 自身でそれは位置づけられ たんだと思います。

【中田】JICAに世界、特にアジア、アフリカの リーダーを育成するというプログラムがあるん ですね。それは我々が提案するだけじゃなくて、 相手国が申請してくれないといけないんです。 そういうのが幾つか集まると、満たすと、プロ グラムとして走る可能性はあります。そういう 仕組みを使うというのは、今後は十分あり得る と思います。

【渡辺】じゃ例えば、APGNなり、もうちょっと別のネットワークを通じて、いろんな国からJICAに希望を出すと、日本にはジオパークの専門家がいるから、そのお金を使って派遣できるよということを知らせるというのも、していく必要があるということですね。少しずつアイディアが出てきたような気はします。

さて、まだちょっと時間があるので、いろんな話が出たんですけれども、そろそろまとめに入らなきゃいけないんですが……一つご意見が。 【山岸正裕(勝山市長)】福井県の勝山市長でございます。



先ほど MAB が認定されていたにも拘らずわからなかった、知らなかったという、そういう紹介がありましたけれども、まさにそのとおりなんですけれども、ジオパークにつきましても2009年に認定をされまして、その後、4年後に再認定という形で審査されたときに、これはジオパークの行き方とはちょっと違うんじゃないかという疑念を抱かれまして、今回ようやく再認定されたといったような経緯があります。

そういった過去の経緯も含めて、ちょっと私 の考え方を述べたいと思うんですけれども。

まず、日本のジオパークが非常に盛り上がりを見せております。それは私たち自治体の首長の立場から考えますと、自分たちの地域の誇りというものを、もっともっと人に知ってもらって、それをまちづくりに活かそうと。そういった形が地域振興、つまり、まち・ひと・しごとといったような形で政府が盛んにハッパをかけておりますけれども、そういったものにもつながってきていると思うんです。

そういうふうな考え方のもとにやろうとする ときに一番自信が持てるのは、日本ジオパーク 委員会がそのまちの地質、また地球の歴史から 見た現状というものが、完全にお墨つきをいた だける。そういった中で、今まで生まれたとき からずっと同じ風景であり同じ景観であったも のが、地域の人たちは何も気がついていないこ とですけれども、そういった学術的な見地から、 さらにはそういったことで来ていただいた人に 評価されるということが非常に自信になって、 まちづくりにしっかりとつながっていく。そう いうことを材料に、まちが盛り上がるような仕 組みというのを首長はつくることができるとい ったような、メリットというと非常に語弊があ りますが、そういう利点がある。それが私は、 全国の自治体がジオパークを目指す一つのきっ かけになっているのではないかと思うんです。

勝山市が再認定でチェックがかかったという ことも、振り返ってみますと、実はまちづくり につきましては、もう15年前からエコミュージ アムという活動の中でずっとまちづくりをやっ てきまして、まちの中は相当盛り上がってきて おったところに、今度はジオパークという形で ジオパークに登録されたわけですね。これは非 常にありがたかったんですが、最初からまちづ くりはエコミュージアムでやっていた。ジオ パークは、本当に学術的に勝山地域の地質、特 に化石の発掘量が日本でも有数でございますの で、そういったことが地質学的な地球の歴史的 なことを学んでいくことに特化するといったよ うな考え方。ですからエコミュージアムとジオ パークというのは別物であるというふうに考え ておって、まちづくりはエコミュージアムで、 学術的な勝山市のアピールはジオパークでとい うふうに分離して考えていたところが、日本ジ オパーク委員会のほうからそれはおかしいんじ ゃないかというふうに指摘をされたということ なんです。

しかし、これを機会にジオパークとエコミュージアム、全く考え方は同じであるということで、ジオパークの中にエコミュージアムのエッセンスを組み込んで再挑戦しまして、再構築をしました。そういったことが尾池先生をはじめとする日本ジオパーク委員会にしっかりと認められまして、今回こういう形でまた再認定されたということでございますけれども。

私が今、何を言いたいかといいますと、全国の地域振興を図っている、地方創生を図っている首長さんにとっては、ジオパークという考え方と進め方というのが非常に地域振興、地方創生にそぐっているし、これが一番だというふうに皆さん考えているんじゃないかなというふうに思っております。これは私の私見でございますけれども、こういった考えを地域の首長さんが持っていただいて、逆にそれでもって振興を図っていくというのもいいんじゃないかなというふうに思っております。

以上です。ありがとうございました。

【渡辺】日本ジオパーク委員会が2年前にイエローカードを出しまして、その後、体制を立て

直して昨年認められた勝山市の市長さんから、 ジオパークの魅力を語っていただいたわけです が。

そういう魅力があるジオパークなんですけれども、ここまで我々いろんな経験を積んできて、それを今後どう世界の人にも使ってもらうかということを、今後は考えなければいけないという話があったわけですね。幾つかアイデアが出てきて、これからやってみるネタもできたんじゃないかと思うんですが。

ユネスコ正式事業化を受けての日本のジオパーク活動ということで、最初にユネスコが重要だと考えており、これから我々の生存に重要である持続可能性の話をしました。その後、ユネスコの重要なテーマである科学、教育、文化を通じた国際交流ということを話してきました。そういう目的を達するために幾つかアイデアが出てきたわけなんですが、ここでもう一回、マッキーバーさんに、最後に日本のジオパークの関係者に一つメッセージがあればお願いしたいと思います。

【マッキーバー】My message to the Japanese Geoparks Network and especially those Japanese UNESCO Global Geoparks that have been geoparks since 2009, is that we absolutely insist that you need to be much more active on the international scene. Geoparks are a not a list. They are network of international cooperation. And that international cooperation is obligatory. It is not an added extra. It is part of the process. And this will be taken into account during revalidation in the future — the level of international cooperation and the level of international assistance. I think it is a ridiculous situation frankly that I have only four or five evaluators from Japan. Do you really think it is fair that 95% of evaluators for geoparks should be European? That is not how UNESCO works. It is the responsibility of all of us to help. You have had great benefits from being in Global Geoparks, but you also have to help others get that benefit also. So that would be the one message that I would give.

日本のジオパークネットワークの皆さんへ、 特に2009年以来の日本のユネスコ世界ジオパー クへのメッセージとしましては、より国際的に、 積極的にさらに活躍をしてほしいというふうに 思っております。ジオパークというのは、単な るリストではございません。国際協力のネット ワークです。そして国際協力をすることは義務 であって、付け加えでやるというものではあり ません。ですから国際協力ができているか、国 際的な支援ができているかどうかということは、 今後、ジオパークの審査をする際にも審査の対 象となるというふうに思います。日本人の審査 員が4、5人しかいないということは、率直に 申し上げてばかげた状況だと思います。ジオ パークの審査員の95%がヨーロッパ出身者で構 わないと皆さんお考えなのでしょうか。私たち 全員がお互いを助けて支援し合わなければなり ません。世界ジオパークであるということその ものにも恩恵はあるとは思いますけれども、そ の恩恵をほかの人も共有できるようお互いを支 援するということが必要だと思います。

【渡辺】大事なコメントありがとうございました。 ユネスコ正式事業化を受けての日本ジオパー ク活動というテーマでこれまでディスカッショ ンしてきたということなんですが、やはり世界 ジオパークというのはユネスコの事業の一端を 担う重要な責任があるんだというマッキーバー さんのコメントで、今回のパネルディスカッションは締めくくりたいと思います。

なかなか大きなテーマで、司会も苦労してい ろいろ難しかったんですけれども、この話の中 で何か皆さんのヒントになることがもしあった とすれば非常に幸いです。

どうもありがとうございました。

閉会あいさつ

尾池 和夫 日本ジオパーク委員会 委員長



皆さん、中身の濃いフォーラムでした。一生懸命聞かせていただきました。一生 懸命聞くというのは、最後に挨拶しろと最初に言われたので、聞いてないわけにい かないのでありますが。

70年のユネスコの歴史の中でいろんなプログラムが生まれてきたという、そういういきさつも今日はわかりましたし、その中で昨年の末に Global Geoparks、これがユネスコの正式プログラムに取り込まれた。この背景というのがよくわかっていただいたんだろうと思います。本当にいい企画をしてくださいました。

その中で私が印象に残ったキーワードが3つありまして、一つはガイア。大地、 地球を司る女神であります。そしてもう一つは、人。持続可能性とかいろんなこと

がありますけれども、人のネットワーク、人というのが非常に大事なキーワードである。もう一つ、松浦さん帰られましたけれども、水を考えろと言っていかれた。まさにこの松任の地は水の旅(編注:開催地である白山手取川ジオパークのテーマ)というテーマを設定しておられるわけで、水というのも大変大事なキーワードであろうと。

松任のまちは千代女(編注:江戸時代の女流俳人)の出身地で、俳句が至るところに書いてあるので、私 もこの3つのキーワードをテーマにして、俳句を3句プレゼントするということにいたしました。

一つはガイア。ガイアというのは大地の神様でありまして、とにかく大地に学ぶというのはジオパークの基本でありますけれども、それをテーマにしながら、今年、新年を迎えて早々にこのテーマでジオパークのフォーラムが行われたということで、これを一句詠ませていただきました。「この大地 ガイアが続べる(すべる) 去年今年(こぞことし)」。去年から今年にかけてガイアの神様が統治しているわけですが、これが一つです。

それから、さっき勝山市長が言われたように、私、再審査で勝山の地を訪れたときに、エコツーリズムの活動を実に見事にやっておられたんですよ。例えば一つ例を挙げますと、エコミュージアムを中心にした活動の中で、地元の元の教師、先生がこの地域でアシを復活させてアシ原をつくって、そのアシを使ったプロジェクトをつくろうとか。一生懸命育てているし、地域の人たちがみんな教え子なんです。どこにどういう人がいて、どういうことをやっているというのを全部わかっていて指導している。その先生に案内していただいたんですけれども、非常に感銘を受けました。

渋柿がなっているところへ行ったときに、熊が出てくる。熊が渋柿をかじると、一口かじったら山へ帰っていくんだそうです。その柿が熟したころにまた出てくるというので、一つだけ木守を残して、かじった跡があったら早くとってしまわなきゃいけないよと指導するわけです。そういう話を聞きました。それも一句になりました。「この山の 熊も教へ子 木守柿」。この先生を詠ませていただきました。それが2つ目であります。

そして、この水の旅。白山手取川ジオパークのテーマでありますけれども、日本海からどんどん蒸発しているんですね、暖流が入ってきて。こういう海は世界で日本だけなんです。中緯度にあって雲辺海があって蒸発している。そして大陸の季節風が吹き寄せてきて豪雪地帯をつくるという、非常に珍しいこの地域を、ジオパークはテーマにしておられるわけで、日本海の水が来て、雲が来て、白山に雪を降らせて、その雪がまた解けて流れてきて日本海に出て、またそれが蒸発して、と循環しているわけですね、水の旅というのは。これも大事なテーマだろうと思います。「白山へ 雪雲還る 水の旅」。こういうふうに詠ませていただきました。これがジオパークのテーマだろうと。

この3句をフォーラムの結びに当たってプレゼントさせていただきたいというふうに思います。

最後にも出てきましたけれども、一番大事なことは、このフォーラムに参加してくださった方たちが世界のジオパークの活動に学ぶ。これも大事でありますが、みずから出かけていく、人を呼ぶ、あるいはいろんなことを仕掛けて、世界の各地にジオパークの活動を広めていく。これも義務である。そういう仕事があるんだということは、よくわかってくださったと思います。

そういうつもりで、そこを今日参加された方たちが意識していただいて、そして世界のジオパークの活動を盛り立てていくようになっていただくとうれしいなと。それを期待させていただいて、きょうのフォーラムの結びの言葉にさせていただきたいと思います。本当に今日は熱心にありがとうございました。

記念祝賀会



真屋敏春 日本ジオパークネットワーク 副理事長による開会あいさつ



シンポジウムの登壇者による鏡開き



山田憲昭 白山手取川ジオパーク 推進協議会会長による乾杯



交流を深めるネットワーキング



山岸正裕 恐竜渓谷ふくい勝山 ジオパーク推進協議会 会長による中締め



全員による万歳三唱で締める



参加者全員による記念写真



オプショナルワークショップ 「日本のジオパークの国際貢献」

コーディネーター

中村 真介氏	白山手取川ジオパーク
Abhik Chakraborty 氏	伊豆半島ジオパーク
岩井 香奈 氏	
Teresa Sadkowsky 氏	

コメンテーター

Patrick James McKeever 氏 ユネスコ

∠> ⊥□ **+**⁄

参加者	Í	
児玉	正敏 氏	アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク
金山	恭子氏	山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク
三上	孝氏	山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク
和田	庫治 氏	室戸ユネスコ世界ジオパーク
大野	希一氏	島原半島ユネスコ世界ジオパーク
山内入	7里子氏	阿蘇ユネスコ世界ジオパーク
市川	雅一氏	茨城県北ジオパーク
宇治	美徳 氏	佐渡ジオパーク
田畑	朝惠氏	伊豆半島ジオパーク
吉川	馨氏	伊豆半島ジオパーク
高橋	司氏	四国西予ジオパーク
下向	武文氏	三陸ジオパーク
橋爪	正樹 氏	南紀熊野ジオパーク
王生	透氏	立山黒部ジオパーク
小原	北士氏	Mine 秋吉台ジオパーク
渡辺	真人氏	アジア太平洋ジオパークネットワーク
中田	節也氏	日本ジオパーク委員会
米田	徹氏	日本ジオパークネットワーク(糸魚川ユネスコ世界ジオパーク)
神谷	方子氏	日本ジオパークネットワーク
柚洞	一央氏	北海道地図株式会社
飯田	義彦 氏	国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわ オペレーティング・ユニット(白山手取川ジオパーク)
木村は	かり氏	通訳(白山手取川ジオパーク)

Key points

- ★ ネットワーキングの根本は、人と人とのつながりである
- * 日本は既に誇ることのできる活動を展開しており、日本ジオパークネットワークの活動は、それ自 体が海外のジオパーク立ち上げを目指している国に対するモデルとなりうる
- ** 災害との付き合い方を知らない国が多い中、災害とどのように暮らし、それを人々にどのように伝 え、災害にどう備えるかといったノウハウを日本は持っており、他の国と共有することができる

Some ideas for the future action of Japanese geoparks

- ★ 2016年7月のユネスコ世界ジオパーク国際会議でイギリスに行く際に、他のヨーロッパのジオパー クを訪れてその取り組みに学ぶこと
- * ヨーロッパジオパークネットワークの会合にオブザーバーとして参加し、ネットワーキングを学ぶ
- ★ ワークショップなどを開き、顔の見える交流を進めること
- ★ 交流だけでなく、文字にも残すこと
- ★ 例えば、まずは韓国のジオパークネットワークと交流して相互の大会に行き合い、次はそれを中国 に広げるなどして、ステップを踏んで徐々に交流の輪を広げていくこと
- ★ アジア太平洋ジオパークネットワークをリードし、その活性化を図ること
- * 海外のジオパークから経験の提供を求められたとき、ジオパークの現場スタッフを積極的に派遣す ること
- ★ 審査員を出すこと
- ★ ルールを読むだけでなく、作る側に回ること
- ★ ガイドラインを鵜呑みにするのではなく、よく整理して実践すること
- ★ ユネスコ本部に人を派遣すること
- ★ 知らない人であろうと物おじせず、とにかく連絡を取ってみること
- ★ 2016年7月のユネスコ世界ジオパーク国際会議で防災のワークショップを開き、日本が持っている 経験とノウハウを共有すること
- * 個々のジオパークの実績づくりのために名前だけの国際会議を開くのではなく、みんなで一緒に日 本の存在価値をつくりだしていくこと
- ★ 海外から来る留学生に地域の取り組みを伝え、共有すること
- ★ ジオパークネットワーク以外の場でも、世界に向けて発信を進めていくこと
- ★ 様々な機関にアプローチをとり、資金提供を含めた協力を取り付けること
- ★ 活動の財源を考え、JGNの会費についても見直しを図ること

本ワークショップは、主に中村コーディネーターの進行の下、日本のジオパークの国際 協力・国際貢献をテーマに議論を展開した。可能な人はなるべく英語で話すこととし、 適宜逐次通訳を挿入して議論を進めた。

【中村】First of all, we would like to briefly review the panel yesterday, so, maybe we can ask Mr. Watanabe??

【岩井】突然・・・

【渡辺】な、な、な、何を

【Chakraborty】昨日のまとめ。

【中村】Yesterday we discussed about international contribution on the panel. So, would you just briefly summarize the discussion?

【渡辺】え~、日本語でいいかな?

【中村】 Yes, OK.

【渡辺】そうですね。1つは、日本には、日本の世界ジオパークには非常に重い責任がある。それは、まだジオパークのない大陸、ジオパークのない国を支援していくことがとても大事であるということ。それともう1つ。世界ジオパークネットワークの中で、世界ジオパークネットワークをもっと強くしていくために、例えば審査員を出すとか、世界ジオパークネットワークの様々な課題に対して貢献していくことが重要である、ということです。

[中村] We have the responsibility for Japanese geoparks, and another point is contribution to the network. I guess everyone was there in the symposium yesterday, and everyone was hearing the discussion. Everyone should thought what we can do for the network, and what we can do as Japanese geoparks to other countries, so I'd like to ask some of the persons here for their impressions on the discussion, and what you thought that you can do as your geopark.



昨日の議論を受けて、今、日本のジオパークとしての責任、そしてネットワークへの貢献、という話が出ましたけど、おそらくみなさんその場にいたはずですので、自分たちが何をできるかということも少し、何となく、想像されたりしたこともあると思います。せっかくなので、ちょっとここで、何人かの方に、自分たちのジオパークでどんなことができると思うか、聞いてみたいと思います。

If anyone wants to take the floor, please raise your hands. If there is no one, I will ask someone to do this.

もしどなたか発言されたい方がいたら、手を 挙げて発言してください。もし誰もいなければ、 どなたかご指名させていただきます。

【岩井】OK. I go first.

【中村】OK.

【岩井】 As I talked with Dr. McKeever yesterday, we have some active volcanos and some sort of islands, so maybe we could make cooperation with islands geoparks, not only within Japan but also from Jeju Island in Korea or Batur Island, Indonesia. Maybe start with the Asian part including Aso とか。 Thank you.

【木村】もしよかったら日本語でもしていただけると…

【岩井】あ~そうですね。わかりました。もう1 回言った方がいいですか?

【木村】どちらがいいですか…ご自身の言葉の方がいいかなと。私言ってもいいですけど

【岩井】…あ~、じゃぁ言います。昨日、McKeever さんともお話ししたんですけど、私は桜島・錦江湾という火山の島から来ておりますので、そういったジオパーク、ヨーロッパにも、最近スペインでも認定されましたけれども、そういう場所と連携をとれればなということで。ちょっと距離が出てくると大変なので、できれば、韓国の済州島ですとか、インドネシアのバツール島などアジアのところから始められたらいいのかなと思っております。以上です。

【中村】But Sakurajima is not an island.

【岩井】Yeah, it is connected to the continental part, but still, identity is an island.

【中村】OK.

【岩井】また英語で言ってしまった。

【中村】今、桜島は島じゃないよねって言ったら…

【中田】質問!

In this case, what kind of connection or interaction do you mean?

【岩井】Well, in terms of active volcano, it is kind of tough to make the tourism.

けっこう、危険と思われることが多い活火山にとって、観光をどうやって進行していくかというのはかなり問題に、うちのジオパークでもなっています。阿蘇さんとかもそういった話は出てくると思うんですけど。けっこうバツールではツーリズムは盛んだということをお聞きすることが多いので、実際どのようにそういうシステムをつくっているのかとか、ノウハウをシェアできるようなワークショップ、もしくはスカイプとか使ってでもいいですけども、そういうことができればいいのかなと。あまりアイディアがないので。

【中田】だから…1つの島だからっていう、島の 火山だからっていうことではなく、目的に特化 した交流をしないと。そういう意味ではいいと 思います。

【岩井】島というのは1つの切り口と言いますか、 どちらかというと火山系のジオパークでやって みたいですね。

【中村】Could you speak it in English too?

【岩井】Oh, OK.

どうしたらいいですか。ここは日本語?

[McKeever] It is better that the discussion just flows. Don't translate it. If anything important is there, ask me. It is better just to talk.

【中村】OK. Thank you. So, the networking by the active volcanos. The major concern is active volcanos and how to make tourism near active volcanos?



【岩井】Yeah.

【中村】OK, that will be one point. Maybe I would like to ask another geopark. Anyone would like to take the floor? … No?

他のジオパークにちょっと聞いて……はい。

【山内】岩井さんの話の関連で、やっぱり阿蘇がこの間噴火したときも地元の方が不安になる方が多くて。地元の人たちにせっかくの情報を与えるというワークショップを開いたんですけど、やり方がいろいろあって。桜島のほうはすごい火山を楽しむようなアクティビティがたくさんあるので、やり方が違うので、その辺をシェアできたらいいなと思います。

【中村】So maybe that is sharing among the Japanese geoparks or the other countries?

【山内】Also collaboration with Japanese geoparksI think it is very important. And then we can express it with the Asian geoparks.

【木村】日本国内じゃなくて、海外も、特にアジアのほうですよね。アジアに向けてそういった関係を築いていきたいと。

【中村】 Any other geoparks from…Yes, please.

【田畑】私たちはガイドという立場の中で、伊豆 半島が、正確に言うと相模湾トラフ、それから 駿河トラフということで、津波に対する脅威と か。それから東部単成火山群というのを抱えて いて、火山に対するそういった防災についてガイド自身が学んでいって、過去のいろいろな周期的なものとか、実際に起きた津波の到達地点 とか、そういったことを勉強して。で、みえた お客様にそのことをご案内。で、そのご案内の

中で今いらっしゃるところがどれくらいの危険があるかとか、そういったこともお伝えしながらの勉強をしてます。ですから、そういった形のシステム化っていうのかな、そういったことが、海外の方にも、そういうものを持っているところの方が興味を持って来て下さるとか、そういうふうになっていくと、勉強していることが自分のところだけではなくて、他の国の方にもお伝えできるのかなということで、今もっと、自分達の勉強を深めようというふうにやっています。

[中村] So we have three examples from Sakurajima, Aso, and the Izu Peninsula. The common point is that there is an active volcano and there is a risk of hazards. So how can we tell the dangerous and the correct knowledge about these volcanos to the people? That was the point of the three people mentioned.

ちょっとここで1回、言いますけど、今、桜 島と阿蘇と伊豆半島さん、3つの事例をお話し いただきました。それぞれ共通しているのが、 活火山であるということ。活火山でその危険さ とか、危険さだけじゃない、正しい知識をどう やって人々に伝えていくかというところがポイ ントだというのは共通しているかと思います。

And what I want to discuss is, how can we make an international relationship or contribution to the global network? So, maybe we can hold a workshop with other volcanic geoparks and discuss how we can raise public awareness and how we can tell the correct knowledge.

これを受けて、今ちょっと議論したいと思うのは、それを国際協力あるいは国際貢献というものにどうやって繋げていくことができるかというところが1つのポイントだと思います。例えば、世界の他のジオパークを招きながらワークショップを開いて、火山の危険を人々にどう伝えるか、あるいはそれを、どういう正しい知識を人々にどう伝えるか、そういったことを話し合うワークショップを設けるというのも1つ



の手段かなと思います。

[Chakraborty] Just a comment. Just two or three opinions that have already come out. I have this question that if you focus too much on one aspect, which is like volcanos or hazards, you are effectively not appealing to many people who are not interested in those aspects. You are only concentrating on one aspect. So yesterday when Patrick was giving his keynote lecture, he mentioned that we have the greatest story of all to tell. That is - the story of the planet itself. So of course, active volcanos and geo-hazards are one part of that story. But how to connect with other parts and how to tell the story in a more holistic manner is probably something that geoparks should need to address. Without this - just by telling that we have this volcano, it is very dangerous, but we are doing this to mitigate this - is not entirely convincing for a person who comes from a place where there is no volcano. So how to connect that is important. How to tell the story or how to tell it in a geological term. May be the land from where this person comes from has no volcano right now, but everything - including everything in planet Earth - has had a violent history in the past. So how to connect that is very important.

【中村】Would you say that in Japanese too? 【Chakraborty】ああ、そうですね。今の発言を聞きながらちょっと考えていたのはですね、活

火山やハザードの話をするのがとても良いこと なんですが、ただし、そこだけに集中して絞っ てしまうと、そこに興味を感じない多くの方々 もいらっしゃるので、じゃあその人たちのため に、我々のジオパークはあなたたちのためでは ないという目線になってしまうんですよ。これ を、やはりジオパークである以上、ただそこだ け集中して話しても、上手くコネクトができな い。上手く、例えば全く火山のない大陸から来 た人に、ただちにそれは、自分の中で整理でき ないんですよ、その人が。なので、ただその目 の前にあるものの説明や、その危険性を説明す るのではなくて、地球全体の立場から、地球全 体をステージと考えて、その中で全体のストー リーの中で自分たちの持っているものが何なの か、どういうふうに他のものと繋がっているの か、そういう連続性を、関係性を見せるのがジ オパークの使命ではないかと思っております。

【大野】まあ、私の考えでは、ジオパークの魅力 を伝える上でストーリーはすごく大事だと思っ ています。

The story is very important in terms for the highlight of geoparks.

そのストーリーは、地球と人間の歴史、文化を繋げたものです。いいストーリーができれば、ジオパークの魅力は一般の人にも広がっていく。ただ、多くの場合は、ジオロジーだけっていう説明が多いような気がするので、それをもっといろんな、人々との関わりを繋げたストーリーをつくる。それをシェアしていけば、いろんなジオパークの魅力が非常に分かりやすく普及さ



れるのではないか。そのストーリーづくりをど うやっていくかっていうことが、多分、肝にな る。

中村】We had very good comments from Abhik and Mr. Ono. Regarding any kind of contribution, I think yes, I agree with that, one aspect only is maybe not so effective. Another point, the story connecting not only geology, but ecology, and culture — that is one kind of characteristic of the Japanese geoparks. I don't know the other countries' geoparks so well, but I guess Japanese geoparks are very concerned about this connection between the three.

今、大変、貴重な発言を Abhik さんと大野 さんから頂きましたが、Abhik さんのほうか ら、1つの特徴だけに注目するというのも、国 際貢献というのを考えたときにちょっと違うか なというお話もありました。もう1つ大野さん から大事なお話があったのは、ジオロジカルな 部分と、生態学的な部分と、歴史や文化の部分 を繋いでいく、そのストーリーが大事ではない のか。確かに日本のジオパークというのは、ジ オ、エコ、ヒト、とよく我々言っていますけど、 この3つのコネクションをひょっとしたら結構 かなり強く言っているんではないかと。他の国 の事例を私はあまり詳しく知らないので、ちょ っとそれが正しいかどうかわからないんですが、 そこは1つの、ジオパークの特徴なのかもしれ ないと思います。

【大野】実例を言ったほうがいい。

I want to show some examples of the stories. I will show at the next Geopark Conference at English Riviera. I would like to show the geotour using folk tales. So it is a very impressive geotour. I would like to show actual examples.

民話とジオ、地質を繋げたジオツアーという のをやった実例を、今度国際会議で紹介したい と思って。そういったアプローチもすごく大事 だと思います。

【中村】ありがとうございます。



Thank you. May I ask to Dr. McKeever? In my personal opinion, Japanese geoparks are very concerned on the connection between these geological, ecological, and cultural issues, like the example Mr. Ono has showed us. What about the other countries' Global Geoparks? Are they very concerned on these links? Or, not so much as Japanese geoparks?

[McKeever] More than Japanese geoparks.

【中村】More than?

[Chakraborty] Absolutely, I was just going to point out, that as a geographer, I find the ecological aspects…

(渡辺) In many countries. In some European countries, I agree.

【木村】ヨーロッパの国々ではやっぱり、その3 つを重視してるほうが多いんですけども、他の 国、そうでもない国もやっぱりあります。

[McKeever] For example, in Latin America, it is impossible to have a geopark without these topics. It is so much part of the culture.

【木村】ラテンアメリカの場合はやっぱり、民話がとても豊富なので、それなしでは本当にジオパークは存在しないくらいです。

【中村】So, maybe this part is not something special for Japanese geoparks.

[McKeever] No.

[Chakraborty] One addition that I would like to make is that I find ecological connections are not very well represented at all in the geo-stories that geoparks should make.

【中村】 Yes, I agree.

日本語でも。

【Chakraborty】自然生態学のストーリーはすご くよくレプレゼントできているとは思えない。 今の状態でですね、正直言いますと。そういっ たコネクションをもっと掘り探ったほうがいい だろうと思います。

【渡辺】この話は面白いんだけれど、テーマは国際貢献。

【中村】Yes, you are right, and we are now going back to this topic. I was asking what we can do as a Japanese geopark for the network. And someone want to make another remark, or … then I will ask...Mr. Wada?

【和田】国際貢献について、少し基本的なことを。ジオパークとして、他のジオパークと協力して、私たちのジオパークの特徴を示して、世界に言っていくのは有用だと思いますが、ジオパークのない地域に私たちの取り組みを紹介することによって、その地域の振興にお手伝いができるんじゃないかというふうには考えているんです。で、室戸においては、JICAの活動を通じてアフリカの方が来られたり、先日はインドの気象学に興味を持った方来られたり。私たちのジオパークの取り組みというのをお伝えして、向こうでもぜひそういう関心を持って取り組んでもらえるような、私たちはそういうことを伝えたいということを考えています。

ただ、その際に、少し教えてもらいたいのは、世界中のどこの地域でも、ジオパークにおいてはやはり重要な地質遺産という前提があると思いますが、その辺りはどのように私たちは考えたらいいでしょうか。例えばインドから、海外から来られたところの土地の、地質地形の重要性は私たちには分からない。それで、ジオパークの活動をお勧めするときには、その大前提である地質の重要性というのをどこまで求められるのか。

【中村】 Do you have some comments?

【McKeever】(配付資料の"Operational Guide-

lines for UNESCO Global Geoparks"を取り出す)

【中村】We have the guideline here, the new guideline. The Japanese translation is still tentative.

ガイドラインがこちらにございますのでご覧 ください。

[McKeever] Criteria number one.

【中村】クライテリア、ジオパークの基準1を。 後ろのガイドラインの3番、クライテリアの (1)です。

[McKeever] I don't have to answer. It's already written.

【Sadkowsky】ここに書いてありますので、読む必要はないと思います。

[McKeever] It's fundamental,

【中村】基本的なポイントです。

【渡辺】何番?

【Teresa】3番の1。

【中村】前のほうはガイドラインじゃなくて定款 なので、先に進んで。何条って書いてあるとこ ろは全部飛ばしてください。そのあと、3の(1)。

【木村】7枚目だと思うんですけど。

【中村】そうか、何枚目っていう数え方があるのか…

We don't have the page numbers in these documents.

7枚目です。

【Chakraborty】 Can I make follow comments? 【中村】 Yes.

【Chakraborty】 If the question is not on one particular geopark, then I want to say something about international contribution. Last year, in autumn, we created an international working group inside JGN. This is not about one particular geopark, but inside JGN. Among the five founding members, only I and Mariko(編注:山内万里子氏) are here today. The other founding members are Kuniyasu(編注:目代邦康氏), Atsuko(編注:新名阿津子氏), and Hi-

roko (編注:鳥越寛子氏). Unfortunately, they are not here today. But what we are thinking at the moment is that one of the possible contributions to other aspiring areas is the example of the JGN itself. It is an example of a network that allows geoparks to come together and share information, and learn from each other. which in Japan is a particularly good example. Nakada-sensei yesterday was pointing this out that JGN is probably one of the best nationallevel network in Japan. So how we could set this as an example to other territories to create a network of their own? Because network is fundamental in geopark activities. It is not only about one geopark connecting to another geopark, but it is about how to create this kind of a network. That is my comment.

[Sadkowsky] I have a comment. I think that Japan can benefit in many ways from connecting to other geoparks. The Japanese network, we are talking about the contribution that Japan can give to geoparks around the world, but I think the reverse, that Japanese geoparks have limited knowledge of geoparks around the world.

[McKeever] Absolutely.

[Chakraborty] Yes, that's true.

[Sadkowsky] So it is very important for us to connect with geoparks around the world.

【木村】最後におっしゃったのが、日本のジオパークっていうのは、中だけではなく外からも学ぶ機会というのがもっとあると思うんですね。割と閉じられた環境にあるので、どんどん外に出て、外のジオパークからも多くを学んでいったらいいと思います。

【中村】その前に Abhik さんがおっしゃったのが、 JGN で国際化ワーキンググループというのを 昨年の秋に立ち上げて議論してきたんですけど、 1つのジオパークが貢献するものというよりも 日本のジオパークネットワーク、JGN そのも のが貢献できるモデルなのではないかと。昨日、パネルディスカッションの中で、中田節也さんがおっしゃったように、ナショナルネットワーク、国内ネットワークとしては、JGNというのは非常にいい事例になるんじゃないかということを Abhik さんがおっしゃって、それを受けての Teresa さんの発言ということでした。

Regarding this point, may I ask Mr. Yoneda about the JGN? What benefits we get from this Japanese Geoparks Network and what we are able to do by this network.

ちょっとこの流れを受けて米田理事長にお伺いしたいんですけども、日本ジオパークネットワークの活動をやっていくことで、どういった、よい…利益といったらあれなんですけど、よいことがあった、あるいはどういうことが、これまでできなかったことが可能になったのか。その辺りを少しお聞かせいただけますでしょうか。

【米田】このジオパーク活動をして、私は非常に効果があったのは、多くの人たちが自分たちの住んでいる自然に対して、非常にもう一度、再確認なり、愛着を持つための学ぶ場ができたのではないかなと。そして、それをすることによって、さらによそのところを見てみたいという気持ちも起き、非常に地質なり、そういった防災にいたしましても、一部の人たちだけだったんですが、市民の方々にそれが広まっていった。そしてまた、同じ境遇を持った日本全体であったり、また、その人たちで、ジオパーク活動の中において、海外に出ていって海外のやつも勉強し始めたというところが非常に大きいことで



あります。私は、皆様方の話を聞いていて、どうも専門家に陥りがちになっていってるんじゃないかと。そうではなくて、我々ジオパークが目指すのは、やはり多くの住民の皆様方に、そういった我々の持ち得る知識を広めていくことが大事じゃないかと。もっともっと、やはり面白く、楽しく。まず自分たちが楽しみながら広めていくことが大事じゃないか、そういうことを今感じております。こういう話を聞かさせていただいて、非常にありがたく思います。

【中村】Is there many citizens going overseas from Itoigawa to other geoparks?

今のお話を伺って、他の市民の方で、糸魚川 から海外のジオパークにご覧に行かれた方とか もいらっしゃるんですか。

【米田】例えば、建設業協会の皆様とか商工会の 皆様とか、若い経営者の皆様方は、海外のジオ パークへ視察に行っています。で、最近は、今 度住民で、各ジオサイトの集落の皆様方がよそ のジオパーク、海外のジオパークに行きたいと いうツアーを今組んでいます。

【中村】ありがとうございます。

That is a very interesting example. Not only the local managers but the citizens are going abroad to other geoparks in other countries. Are there any kind of examples of this in…

[McKeever] I think in Japan, you have no idea what real international cooperation in geopark means

【米田】それともう1つ、行きたいという1つの… 【McKeever】 Translate that please.

【木村】日本の中、ジオパークの関係者の皆さん を拝見してて思うんですけど、日本のジオパー クではまだ国際貢献という考えがちょっと、い ま一つはっきり伝わっていないなと思います。

[McKeever] You are all sitting here talking about the wonderful cooperation of the Japanese Geoparks Network.

【木村】ここで皆さん座りながら日本のジオパー クがどんな貢献をできるかって、いかに素晴ら しいことができるかっていうことを今お話してますね。

[McKeever] Do any of you know the people from Jeju?

【木村】済州からの方と、知り合いはいらっしゃいますか。済州島のジオパークでどなたか知り合いいる方いますか。

[McKeever] One?

【木村】お一人。

[McKeever] This is your closest neighbor.

【木村】これが、済州が一番日本と近いお隣のジ オパークですね。

[McKeever] What cooperation do you have with them? What joint projects? What exchange of ideas? Have any of you been to the Chinese geoparks? Have you been to Langkawi? Vietnam? So I am seeing one or two people.

【木村】どんな協力をしていらっしゃいますか。 共同研究をされていらっしゃいますか。中国の ジオパークに行ったことがある方は。ランカウ イは。ベトナムは。1人、2人の方しかいらっ しゃらないですよね。

[McKeever] I need to remind you of the criteria for UNESCO Global Geoparks, Section 3.

【木村】ここの3番目のユネスコグローバルジオパークの基準です。これをもう一度よく思い出してほしいんです。

[McKeever] Point number 6.

【木村】6番目です。

[McKeever] UNESCO Global Geoparks are encouraged to share their experience and advice and to undertake joint projects within the Global Geoparks Network. It doesn't mention anything about the Japanese network, it is Global Geoparks Network. Membership of the GGN is compulsory.

【木村】ユネスコグローバルジオパークは GGN において、と書いてあります。JGN とは書いてないですね。経験と助言を共有し、共同プロジェクトに取り組むことが推奨されると書いて



あります。

[McKeever] So in Europe, geoparks – we have something like 70 UNESCO Global Geoparks in Europe – they come together twice every year.

【木村】ヨーロッパのジオパークでは、年に2回、 こうやって集まります。

[McKeever] How many times do the Asian geoparks come together every year?

【木村】アジアでは何回集まりますか。

[McKeever] That is where Japan can make the difference. Facilitate that network. Facilitate a very active Asian–Pacific network.

【木村】そこで日本ができることとしては、この アジア・パシフィックの地域で、日本が率先し てそういった会議を行っていくことだと思いま す。

[McKeever] You need to stop talking just to yourselves.

【木村】仲間内だけで話すのはもうそろそろやめて、次へ進むべきだと思います。

[McKeever] And don't talk to me about having excuses like, "Oh we don't speak English." You know how many different languages we have in Europe? You think it is easy in Europe to communicate? Of course not.

【木村】言葉を理由にはしてほしくないと思うんですね。英語が話せないからっていうのはやっぱり理由にならないと思うんです。なぜかというと、ヨーロッパではほんとにたくさんの言語があって、皆さんそれ簡単だと思うかもしれないですけど、やっぱり難しいんですね、自分の

母国語でないっていうことは。

[McKeever] But you find a way to do it.

【木村】何か方法があるはずだと思います。

[McKeever] So that is what you need to do.

【木村】ぜひ、そうしていただきたいと思います。 【米田】それに繋がるんですが、私、貢献という 形になってくるとなかなか、構えてしまうと思 うんですよ。そうでなくて、私は今、一番気楽

ルになって、るとなかなか、情えてしまりと思うんですよ。そうでなくて、私は今、一番気楽にやれるなと思うのはやはり、現地の人たちとの交流が大事だと思うんです。大地を出してくると難しくなってくるので、やはりジオパークに入っていくには、そこの地域の人たちと交流をすることが大事じゃないかなと。で、今、我々はやはり、人を介しながら、台湾だとか、香港だとかいろんなところと交流をする、そういうことをしながら入っていき、学んだり、また来ていただいたりという。そういう形で広めていけば、我々が今やっているネットワークと同じのをそのまま外に広げていけば、私はお互いにやっぱり貢献になっていくんじゃないかなと思

先般、山陰海岸ジオパークの大会のときに、 台湾から60人が来て、糸魚川のジオサイトの集 落の住民と、4サイトの人たちと交流をして、 地元料理で交流をしたら非常に喜んでいただい た。最後は日本の歌を歌ってみんなで肩を組ん でさよならもできたという。それを見たときに、 やっぱり人と人だな。人と人が繋がることによ って、相手もわかって、相手の大地もわかって くるのかなということを考えました。

[McKeever] Absolutely.

っております。

【中村】Thank you for your remark and thank you for your comment. I fully agree with Dr. McKeever. I agree with Mr. Yoneda too that between people and people, this is the fundamental point and we do this in the Japanese network, so why not in the international network?

【McKeever】It's not Why not?" It is compulsory. 【中村】Yes, we must.

[McKeever] And it is compulsory so this will be checked during revalidation.

【木村】再審査での確認の項目になるので、これ はもう義務です。

【中村】で今、私が言ってたのは、お二人の発言 に非常に賛同いたしますと。人と人とを繋ぐと いうのが一番根本的な部分だと思うんですが、 それを日本のジオパークのネットワークの中で はできている。ところがなぜそれを国際ネット ワークに広げていかないのかという部分だと思 います。

Regarding this point, Mr. Yoneda, you are organizing the Niigata International Forum in July. What is your aim at this forum? Is it to create such a kind of Asian network?

そこでちょっと米田市長にお伺いしたいんですが、7月に糸魚川で、新潟国際ジオフォーラムというのを企画されていると思いますが、それはどのような狙いのものですか。このようなアジアのネットワークを形成するという狙いのものなのでしょうか。

【米田】一番の目的は、自分達の足元を見たとき に、まだジオパークを知らない人たちがたくさ んいる。それをやる必要があるという中におい て、どんな機会でも、その目的だけじゃなくて、 それをやるのに全国のネットワークの皆さんか らもお力をいただいたり、またさらにそれだけ ではなくて、周辺のアジアのジオパーク活動を している人たちもおいでいただいたり、またさ らに、ジオパークをやってないロシアにもお声 かけいただいたりというような。そういういろ んな機会にいつも、こういう1つのワークショ ップのようなやり方。フォーラムをやるときに、 最大限のネットワークを使わせてもらって広げ ていくというやり方。ですから根本の目的は、 足元の人との普及啓発を含めてやるのに、それ に合わせて今、さらに輪を広げたというのが根 本的な流れです。

[McKeever] I just want to comment because Itoigawa is probably the most active of the Japanese UNESCO Global Geoparks internationally. Thanks largely dear your efforts. And we are very grateful that Itoigawa has been an active member of the UNESCO evaluation team for a few years now, Hiroko and various other people.

I want to go back though to something that Mrs Tabata from Izu has mentioned earlier. It is about the issue of disaster risk prevention. Because from the outside, when I look at the Japanese geoparks that is something that I can see is pretty much unique to the Japanese geoparks. This work that you do training geoguides, but also you have the Kazan Meister Program in Toya-Usu, raising awareness of the need to be prepared for earthquakes, volcanos and tsunamis. Now several months ago in UNESCO, one of my interns did a survey of all the Global Geoparks with all the mangers. You would have had this questionnaire. And it was specifically about the issue of disaster risk prevention or how important did the other geoparks think it was. Almost all of the geoparks across the world think that this is a very very important issue. But most of the geoparks outside Japan don't know how to deal with it. So this is absolutely an area of expertise you have in Japan in the Japanese geoparks. You are talking to local people about these issues. This is knowledge you need to share through the GGN. And that is absolutely something that Japan could offer to the Global Geoparks Network. How do you do it in Muruto? How do you do it in San'in Kaigan? Even in Oki Island or Sanriku? How is it in Aso? How do you work with the local people to prepare them for these events? The rest of the world wants to know that.

【木村】糸魚川の事例をお聞きしてたんですけど、 ほんとに糸魚川さんはとても活動的で、積極的 に審査にもここ数年参加してくださってますし、 (鳥越)寛子さんもしてくださっています。ほん とに国際貢献という点ではモデルになるような 存在だと思います。先ほど伊豆の田畑さんがお っしゃっていたんですが、防災についてガイド さんの中で勉強してるということですが、まさ に防災っていう災害の多い日本ですね、日本ジ オパークとしては、独特な特徴だと思います。 で、ジオガイド研修でそういったものを取り入 れているとか、洞爺湖有珠山さんのほうで火山 マイスタープログラムというのがあるとか、日 本の地震、津波、火山に対するいろいろな災害 に対する備えをどのように地域の人たちに知ら せているかということをぜひ世界の皆さんとシ ェアしてほしいと思います。ユネスコのイン ターンが今、ジオパークの皆さんを対象として アンケートをしているので、皆さんのところに も届いてるかなと思うんですけれども、このア ンケートは防災の重要性についてお聞きしてい ます。もちろんこれは世界でジオパークの方が



みんなとても興味のあることでして、ジオパークがぜひ知りたいと思っている内容です。これこそが、日本がGGNに最も貢献できることだと思います。室戸の方、三陸、隠岐、阿蘇の方、皆さんそれぞれの環境で別の違った防災のやり方があると思うんですけれども、それを地域の方にどんなふうに備えるべきかということを伝えているかということをぜひ皆さんとシェアしてほしいと思います。

[McKeever] Just to remind you, does UNESCO think this is important? Absolutely. This is in the criteria. Criteria number 2, there it is – geo –hazards. It is right there.

【中村】基準の2つ目です。ジオハザードとあります。

Regarding geo-hazards, I fully agree. We have a lot of examples in Japan and especially maybe we can ask for some comments from Sanriku.

非常に賛同いたします。日本の中でこのような、お伝えできる災害というのはたくさんあるかと思うんですが、ちょっとここで三陸ジオパークの下向さんにお伺いしてみたいと思うんですが、恐らく三陸という地域、東日本大震災を経験した地域として、日本の中で今伝えていらっしゃるストーリーというのがあると思うんです。それを世界の人に向けても伝えることができると思うんですが、どのようなストーリーを世界に向けて発信することができると思われますか。

【下向】三陸の場合ですと、これまで、近代に入って、明治以降で、明治と昭和と今回の3.11で3回くらい経験していまして、それぞれ過去の津波のやつで、繋ぎ石として、自ら津波の力で動いた石が残っているものとか、石碑とかで残っていたりするものもあります。さらに3.11の場合ですと、ホテルとかを震災遺構として残したり、防潮堤とかそういうものを残したりしている。そういう津波という災害、災害じゃないときには綺麗な海で養殖に適したり、水産業



とかでいいものはあるんですけれども、ひとた び災害が起きると人々の命を奪ってしまったり するので、そういうことを他の近隣の方々、国 内、国外の方を含めて、津波というものはこう いうものであると気をつけていかないといけな いし、高いところに逃げれば命は助かるのだよ ということを含めて、防災学習とかいう部分で も発信していかなければならないと考えていま す。

【中村】Which points do you think you can tell to the geoparks or the people from other countries?

海外の人に向けてどのような、その中でもど のようなポイントを発信できると思われますか。

【下向】海外の方とかにですとやはり、過去の教訓と、あとは、減災、防災というところの部分を発信できるのかなと考えています。

【岩井】I want to just mention, we recently had in Aso Global Geopark, a geo-hazard symposium. We had an amazing discussion with the members in Kyushu geoparks, because in Kyushu there are many many volcanos. And we did have some sort of disaster prevention materials. So maybe we could do it not only in Kyushu, but also with somebody else from the world and do it.

[McKeever] This year, we have an application from an erupting volcano in Ecuador, Tungurahua. Now we have two applications from Mexico. Mexico is very much prone to volcanic eruptions and to earthquakes. And right across,

we have geoparks developing in places like Nicaragua, Colombia, and Peru. All these places should be able to benefit from the knowledge you have on how Japanese society has lived for generations with these risks and how the geoparks are working with the local people to raise awareness of the risks also.

【木村】最初に阿蘇ジオパークのことについて。 先日ジオハザードについてのシンポジウムをしたんですけれども、参加者が特に九州のいろいろな、やっぱり九州は火山がとても多いのでその中からいろんな参加者があったんですが、やっぱりいろいろな場所によって違った防災の措置というのを採ってまして、お互いに九州という範囲の中でもすごく学ぶことがあったので、ぜひこういった学びの機会を海外にも広げたいなと思います。

とおっしゃった後に、McKeever さんが、ぜ ひ、例えばエクアドルですね、最近ジオパーク の申請を出したエクアドルなんですが、エクア ドルも活火山があります、トンゴーユーローと いう…

[McKeever] Yeah, Nakada-san knows better than me.

【中田】ツンムラウワ

[McKeever] He is the volcano man.

【木村】ですとか、あと、メキシコにも火山の噴 火や地震が多いところがありますし、そちらや、 ニカラグア、コロンビア、ペルーなど、いろん なところからもジオパークを目指して活動を始 めてるところがあるんですね。で、日本の知識



とか知恵ですね、何世代も受け継がれてきた、 日本が災害と隣り合わせに暮らしてきた、リス クと隣り合わせに暮らしてきたという、そうい った知識、知恵をぜひ他の地域の方とも共有し てほしいと思います。

【山内】 Also the workshop we organized in Aso
there are so many different types of geo-hazards. What I learned is how to deliver the story for inspiring other geoparks.

[McKeever] That is exactly right. That is what you need to think about. For example, the symposium in Aso, was it international or was it Japanese?

【山内】Just Kyushu.

[McKeever] Just Kyushu?

【木村】最初に、阿蘇のジオハザード…

【中田】But, the name is international. If you were invited.

【木村】ご招待されててたまたま欠席した阿蘇でのジオハザードの会議なんですけども、そこでは、防災の方法だけがそれぞれの地域で独特というだけじゃなくて、それぞれの地域には防災にまつわるいろんなお話ですとか、ジオのストーリーがあった、そのジオのストーリーも、それぞれとても興味深いものでしたということをお伝えしてたんですが、そしたら、阿蘇では海外からの参加者があったんですかって言ったら、いやいやなかったんですと。あなたが参加してくれたら国際的になったのに、ということです。

[Chakraborty] I just want to ask for comments from three people. We have JGC represented here also. Nakada—san, Yuhora—san and then Watanabe—sensei. Especially, Watanabe—sensei and Nakada—sensei have been going around the world for many evaluations. So from the evaluators' point of view, from their experience, what they think? Then I will come back to Yuhora—san, because you are also a JGC evaluator and probably an international evaluator in

the near future. What do you expect?

せっかくジオパーク委員会の方々がここにいらっしゃるので、中田先生、柚洞さん、JGCの中で、渡辺先生、中田先生は、当初から日本のジオパーク、引っ張ってきたということも言えると思うんですけれども。それぞれの立場からちょっと、今までのご経験から指摘をいただきたいと思います。

【渡辺】So I am also responsible for the Asian-Pacific Networks. So I have to say something of course. I think it is important to go step by step. So for example, Korean people have a Korean Geoparks Network and I was invited to the meeting of that network, and they were quite active. So it is getting more and more real network. So as the first step, for example, we hold kind of a cooperative progress between the two networks. When we hold the annual conference of the JGN, we invite many people from Korea, or we go to Korean Geoparks Network's conference. So first we start with two countries. Next, we invite Chinese people – so three countries. Then after, we can enlarge the international network. I think we can go by such a step by step way.

まずは、韓国のネットワークがけっこう活発になってきてるので、この間韓国に行ったときも合同大会やったらっていう話があったんですね。だからまず、日本の大会に韓国の人たちをたくさん呼んで、そうするとちょっと英語でセッションをしないといけなくなるけど、そういうことをやって、ステップ・バイ・ステップで。次は中国の人も一緒に大会をやるとか、順番にいくのもいいかなということを言いたかったんですけど、英語がそうなっていたかどうか知りません。

【中村】大丈夫です。

Thank you very much for very nice advice.

And …

【中田】ちょっと調子が悪くてあまり上手く話せ

ないんですけど、きのう酒を飲みすぎたせいで すね。調子よくないんですよ。

いろんな機会に日本の国際貢献ということを 説明するんですけど、日本の人は勘違いしてた ことがものすごく多いんですね。情報発信をす ればいいんだとか、会議に出ればいいんだとか、 そういう勘違いが今までは非常に多かった。だ けどここでこれだけ議論できるということは、 それだけ真剣に何が日本でできるかということ を考え始めているという、非常にいい兆候だと 思うんです。で、たしかに JGC の役割という のは実は非常に重要であって、海外に見えてる のは JGC の顔なんですね。で、それぞれのジ オパークがあまり見えてないという、そこが実 は問題なんですけど、いろんな相談が IGC に たまに来ることがあります。僕らが会議に出る と、例えばチリの火山のところが来て、どうい う具合にジオパークを進めるか教えてくれない かとか、そういうことたまにあるんですけど。 そういう機会を捉えて上手く紹介できればいい んですけど、だけど、紹介しても英語がしゃべ れないとか、そこでまた躓くんですね。だけど、 言葉の問題ってどこでも一緒なので、そういう 機会をもっと皆さんに下ろすという役割が実は 必要だったんじゃないかなという、ちょっとそ ういう反省はあります。

【渡辺】この間、北京に行ったときに、中国のジ オパークの研修会でですね、そのときに五大連 池、完全に活火山ではないんですかね、

【中田】いや、活火山

【渡辺】のジオパークがあって、火山学者と火山を伝える仕組み、手伝ってほしいと。中田先生に相談したいんだけどって言われたんだけど、中田先生じゃなくて、それを火山のジオパークの人が手伝ってあげれば、十分中国との協力が成り立つんですね。なので、今ここで、五大連池に行って、火山のインタープリテーションを手伝ってくれる人をここで募集したいと思います!

【中村】Is there anyone? Any candidates?



【渡辺】大野さん行きますか?

【大野】まぁ、なかなか忙しくて…でも、そうい うことを言ってられないので。

【中田】だから国際会議の中でやはり、日本人は参加してるんだけど、その中でも余り顔が見えてないんですよね。参加人数は多いけれど顔が見えてない。日本の国民性があるから仕方がないんですけど。そういう、とにかく会議に出席するということでもやっぱり重要なことで、その中でいかに発言して交流していくか、それが最低限ですよね。そこがスタートであって、それで上手く顔を覚えられて、呼ばれて、あるいは、こっちへ呼んで、それが次のステップぐらいで、その後ほんとに向こうでボトムアップのことを仕掛けられれば一番いいと思いますけどね。

[McKeever] You were saying about the Japanese going to international conferences. You are absolutely right. They are invisible.

【中村】Yes.

[McKeever] So how many people are planning to go to England?

【中村】イングリッシュ・リビエラに行こうと思っている方は…計画されてる方。

【木村】参加する予定の方は何人いらっしゃいますか。

[McKeever] What are you going to do there?

【木村】そこで何をする予定ですか。

[??] Make friends!

[McKeever] Make friends? Well, yes you can do that of course. What are much more constructive? But what are you going to offer to the conference?

【木村】もうちょっと建設的なお話をすると、その会議に何が貢献できますか。

[McKeever] Did any of you think about the possibility of offering to do a workshop?

【木村】ワークショップをしてみようと思った方 いらっしゃいますか。

【中村】Yes, we should, maybe.

[McKeever] Maybe you should think about it.

(中村) Actually, Mr. Matsuda has showed us an example of MAB yesterday. He is organizing a side event in the Lima Congress which the participants are expected to be around 1,000 people. In that kind of big event, there are only around 10 or so Japanese people, but Japanese people has proposed the side event and it is now going on.

[Chakraborty] Just one question...

【中村】Translation…

【木村】すみません。さっきおっしゃってた後にちょっと言われてたのに。ほんとに日本人の方、 国際会議で見えない存在っておっしゃってました。

【中村】それで、イングリッシュ・リビエラの国際会議に何人出ますか。出るんならそこで何かワークショップするとか、そういうのも考えた

らいいんじゃないのというお話があって、私から申し上げたのは、昨日松田先生のご講演の中でもありましたけど、MABの場合は今年のリマの国際会議の中で、1つサイドイベントを松田先生の提案で持っています。1,000人規模の参加が期待されている中で、わずか日本人10人程度しかいないんですけれども、その中でも日本からの提案で、そういったサイドイベントを仕掛けているという事例があります。

[Chakraborty] Just a question, there are a number of geoparks represented here. Do you have fixed budgets for doing this – sending people abroad for workshops? What is the situation in your geopark council?

【中村】Japanese please.

【Chakraborty】いくつかのジオパークの方がここに見えられてますので、ご質問ですが、こういった海外におけるワークショップを開催する、あるいは参加するための毎年の予算がちゃんと確保されてますか。どういった状況であるか教えて下さい。

【大野】島原、雲仙から。大体2人~3人分くらいの予算を確保、旅費を確保して…

【Chakraborty】これからも継続してそれをやっていくんですね。わかりました。

【和田】室戸はだいたい4人~5人の対応です。

【中村】What about Aso?

【山内】阿蘇は、大会によっても変わってくるんですけど、最低2人です。

[McKeever] And Izu?

【吉川】 2~3人です。

【中村】 What about Itoigawa?

米田理事長、糸魚川は何人くらいでしょうか。

【米田】数が多いので、場所によって変わってくるので、ちょっと読めないけど、4、5人ですね。海外は4、5人という。

【渡辺】あと香港との交流も?

【米田】えっと300万…

【高橋】四国西予は、海外の旅費は計上しておりません。

【中村】美祢はいかがですか。

【小原】そんなのある訳ない…

【中村】They were designated just several months ago as Japanese geopark.

【下向】そもそも計上してないです。

【三上】山陰は、そうですね、会議の規模とかに もよりますけれども、大体100万くらいで。ま た、あと別途のお金もあるので、急遽この間の リビエラみたいに、すぐに申し込んで、みたい なことがあっても対応はする、と。ちなみにリ ビエラには3人申込みをしております。

【王生】立山黒部は、まだないんですけれども、 来年リビエラには行かなきゃいけないなという 感じで、進めているという感じです。

【市川】茨城県北は、国内のみで、ありません。

【橋爪】南紀熊野は、イギリスので初めて予算が ついて、一応2人行きます。

【宇治】佐渡ジオパークは2名、計上しました。

【児玉】アポイは、イギリスに行くのは5、6人以上で。あと、継続して参加しているんですが、年の途中で急に決まるのはちょっと難しいんですけど、1年間の参加で。

【中村】 What about Sakurajima?

【岩井】More than two. 2名以上です。

【中村】Same as us. We are expecting around that.

[McKeever] And Oki?

[Sadkowsky] Two or three.

[McKeever] What I would suggest is that while you are in Europe, why not take the opportunity to visit one or two other UNESCO Global



Geoparks?

【中村】Yes.

[McKeever] Because it is quite cheap to travel inside Europe. So while you are in England, why not go to Scotland or France or Ireland or Germany…Iceland, of course. It is cheap.

【岩井】Greece.

【木村】ヨーロッパで今度、イギリスに行かれる 方は特に、そちらに行かれたついでに1カ所か 2カ所、世界ジオパーク、ご覧になったらいい と思います。ヨーロッパ内は移動の費用がそん なにかかりませんので、例えばスコットランド、 フランス、もちろんアイルランド、それとドイ ツ、アイスランドなど、ぜひ訪れてほしいと思 います。

【中村】OK, now we have finished half the session. 【Chakraborty】Yuhora—san's comment is remaining.

【中村】Well, but I guess we should take a coffee break. After the coffee break, we will get a marvelous comment from Mr. Yuhora.

OK. Then we would like to take 10 or 15 minutes coffee break here. Drinks are there, and take it freely.

それでは10~15分ほどコーヒーブレークをとりたいと思います。コーヒーブレークの後には素晴らしい柚洞さんの発言をお待ちしたいと思います。あちらにお飲み物ございますのでご自由にお取りください。

* * * *

【中村】OK, please take your seats. We are going to start the session.

お席におつきください、始めますよ。

OK, so we would like to restart the session. We were talking about the English Riviera and taking the chance of going to England, we should go to other European geoparks. And then after the rest, we have made reservations

to Mr. Yuhora for a marvelous comment. So, I would like you to take the floor.

ヨーロッパ内のジオパーク、イングリッシュ・リビエラに行くときにほかのヨーロッパのジオパークにも行けたらいいなという話をしていたところでした。で、休憩後、柚洞さんに素晴らしい発言をお願いしていたところですので、柚洞さんお願いいたします。

【柚洞】あの、これは私の感想なんですけど、 McKeever さんが考えていらっしゃる、要求し てるっていうのかな、国際貢献って、すごく今 の日本の実態と比べて考えると、相当なこう、 ヒュージ・ギャップ、巨大なギャップがやっぱ りあるんだなというのが率直な感想です。どう やったら埋まるのかなというのを、どう考える かだと思うんですが、例えば、現状だと日本が 今やってる国際貢献って、国際会議に何人行っ てますとか、国際会議やってますっていうとこ ろで終わってるわけじゃないですか。で、それ はそれでいいんですけども、もっとその主体性、 主体性というのがそもそもキーワードで、何を 考えて、世界に何を言いたいのという。で、そ れをどういう形でやっていくかと考えたときに、 例えば現状、各個別のジオパーク単位で国際会 議とかやってらっしゃいますけども、それをも うちょっと合同でやることが必要だし、個別の 各ジオパークが考えなさいって次元じゃないで しょう、と。もうちょっと、例えば、日本の世 界ジオパークが今8個、で、何か1つのことを 企画していくとか、そういう次元で考えないと、 多分新しい日本の存在価値をつくり出せないの かなというのが1つの感想です。もうちょっと 嫌みったらしいことを言うと、名前だけの国際 シンポジウムはもう卒業したほうがいいような 気がする。それをやるためにはやっぱり首長さ んの理解がすごく重要で、今回の新しいガイド ラインというのを、いかに JGN 理事会とか、 各首長さんの方々の理解というところは絶対的 に必要な要素だと思います。

【中村】I fully agree with that. No more "Only

name" international symposiums.

[McKeever] Just inviting me or Nickolas Zouros, or Ibrahim Komoo does not make an international symposium!

【木村】私とかコモー先生を呼ぶだけでは国際貢献にならないです。

【柚洞】Yes.もっと言ってください。

[McKeever] But you know, I don't know, maybe the idea of a workshop run by the Japanese in the English Riviera, I have no idea if the English Riviera can facilitate that. But ask them. Ask them," Could you run a half day workshop on disaster risk prevention or how you work with local people?" Ask if possible.

【木村】イギリスのリビエラでの会議で、ほんとにワークショップやったらどうってさっき言ったんですけれども、それが実現するかどうか主催者側の都合もあると思うんですけれども、ぜひ私からも声をかけたいと思います。例えば半日、防災について、日本のジオパーク、日本ではこんなふうに地域の人と協力しているということをぜひお話したいと思います。

【Chakraborty】いえいえ違います。尋ねてみてください、それがほんとにできるかどうかを聞いてみてください、我々が聞くということです。

[McKeever] No, they must ask themselves.

[Chakraborty] Yes, yes.

[McKeever] The other thing, has anybody ever wondered what it is like to be part of the European Geoparks Network? Have you ever wondered what it is like to sit in those meetings?



Why don't you ask, can you go as an observer and see how they do it.

【木村】ヨーロッパでこうやってジオパークの会 議が行われているんですけれども、主催者側の 現状というのは多分皆さんご存知ないと思うの で、オブザーバーとして参加するというのもい いと思います。主催者側の実情が分かる。

[McKeever] Last year, the European Geoparks Network had observers from Uruguay, Canada, and Brazil. And now they make up the American Network.

【木村】去年、ウルグアイ、カナダ、ブラジルからそういったオブザーバーが参加してたんですけれども、今、こういった地域では、また会議を計画中です。

オブザーバーという立場がちょっと分からな いんですけど…参加の特別な形…

【Chakraborty】直接ジオパークの、EGNのメンバーではないので。そういったアジェンダセッティングはできないんですけれども、オブザーバーとして同席することですね。

【中村】 Yes, Mr. Watanabe, please.

【渡辺】日本語でいきます。柚洞さんが大きなギャップって言いましたよね。僕、半分は賛成だけれども、半分は違うと思う。どこが賛成かというと、世界ジオパークの中の一員という意識は確かに、日本のジオパークには低いので、その意味ではギャップがある。でも、日本のジオパークもちろん完璧じゃないけれど、素晴らしいこと幾つもしていて、それを世界のジオパークでシェアすれば本当に役に立つようなこともたくさんやっている。そういう意味ではギャップはない。見せるものはある。だからあとは、自信をもって、それから、自分達がきちんと世の中に見せるものがあるんだ、貢献できるんじゃないかと思います。

【中村】I think that is a critical point. What Dr. McKeever said to us two or three days ago was that we should get onto the international stage.

I believe that we have some stories to tell or experiences. We have something to tell to other countries, but it is just that we are not doing that right now.

[McKeever] That is what I am saying to you. You have knowledge that the other geoparks need. You need to share it with them.

【木村】他のジオパークの方たちが求めている知識とかや経験をもうすでにお持ちです。

【中村】それをシェアしてないだけなんです。

【柚洞】シェアしてないし、多分現場の行政マンとしてジオパークに携わっているような方からしたときに、何が自分たちにとっての主張できる要素なのか、見極め方ができない。そうなると、(渡辺) 真人さんとか中田先生が海外でいろいろ情報収集してきたことを、日本はここで勝負できるじゃないという情報が下に、この辺で共有されると、じゃあうちそれで何かできるねっていう、次のステップに行けると思う。そういう意味では、そういう情報共有はしたいなと思います。

【Chakraborty】やっぱり私の経験からも同じ。

【中田】ガイドラインに書いてあった。ナショナルジオパークコミッティーの役割にあるんですよ、それがちゃんと。それを今度これから、我々義務感じゃないけど、そういう使命を。今まさにおっしゃったことを伝達するとか、国内の仕掛けをつくるとか、そういうことをいろいろやらなきゃといけないという、そういうことはきちんと明記してありますので。

【中村】Role from the JGC…

【Chakraborty】ちょっとそれで、追加なんですけど、非常にこれ、私は悩ましいところだと思っていて、国際交流や、国際、国内、どっちでもいいんだろうけど、その交流のファンダメンタルなテーマはどこにあるかというと、渡辺先生、中田先生あたりの存在だとそれはきちんと理解されていて、いろいろ活躍されているんですけれども、その個別個別のジオパークで見ていくと、地域を売り込むっていうのが圧倒的に



強くて、つまりジオパークが商品化されちゃってるんですね、そこで。それはそれでいいんですけれども、でも、交流の基本的なところが十分考えられてないというような印象です。少し難しいかもしれない。

【柚洞】そこは首長さんの理解と覚悟でしかない と思う、結局のところ。だって、末端の職員が そこまで暴走できるかというときに、現実でき ないだろうから。

【渡辺】クレイジーにならなきゃいけない。

【柚洞】そのクレイジーに、要求されているということの各ジオパーク内での共有、意識の…難しいね。

【高橋】私、四国西予ジオパークは、今のところ、 世界ジオパークを目指していません。うちのよ うな日本ジオパークで何ができるのかと、私た ちも国際貢献的なことがどうやったらできるの かと思ったときに、うちのジオパークがまだ認 定されてないときに、実は愛媛大学というのが 愛媛県の中にありまして、そこが非常にインド ネシアに、いろんな行かれてて、交流がある。 そしてインドネシアのほうから留学生がたくさ ん愛媛大学に来てます。のでね、そういう関係 で、インドネシアのゴロンタロ州というところ が、ジオパークを目指すというような形があり ましたので、うちも目指してるもの同士で、交 流しましょうということで、ゴロンタロ州の州 の知事さんとか、大学の方とかが来ていただい て、交流しました。で、先ほど言いましたよう に、うちも、我々が海外に行くような予算はあ りませんけれども、愛媛大学に、特にアジアか

らかなり留学生の方がいらっしゃるので、その 人達にぜひ、四国西予に来てもらって、うちが ジオパークになってこういうふうに変わってき たよとか、こういう集落でこんなに元気が出て きたとか、そういうところをぜひ留学生の方に 見ていただいたらどうかなと思います。で、そ の中で、四国西予だけを紹介するんじゃなくて、 日本各地にはこんなジオパークがありますとか、 そういうものを伝えて、そしたら恐らく留学生 で日本に来てるということは、帰られたら非常 にリーダーシップをとられて、いろんなところ で活躍されるんじゃないかと思いますので、と りあえずそういうことがうちのジオパークでで きる貢献の1つじゃないかなというふうに、私 は今思っています。以上です。

【中村】Yes I think that it is a wonderful contribution.

素晴らしい貢献だと思います。

Maybe we can say that kind of example is one of the capacity building.

【宇治】JGN に加盟している地域は、ジオパーク 以外にも世界のパイプをいろいろ、市民、民間、 行政と持ってると思います。そういったときに ジオパークの理念、活動というものをどんどん 外にも提供していくような。佐渡ですと、昨年、 国際農業会議っていう学会があったときにも、 ジオパークという活動、エクスカーションをさ せていただきましたし、ミラノ博においてもパ ンフレットを送付したりしてるというところで、 そういったところのパイプにどんどんのせてい く。そして、日本のネットワークの有効性とい ったのをまとめたようなペーパーとかが、IGN とかその他で作成したものがあるんであれば、 そういったパイプにどんどんのせていくような ことをしていって。ジオパークがない地域にど う貢献していくかということも大事なんですけ ど、私たちが見えないところからもそういうふ うに情報を出していくことによって、あちら側 からもアクションが起きてくるかもしれないと いうことなので。そこが1つ、ちょっと身近に

すぐできる一歩かなと考えているのと、あと先 ほどあった、日本の有効的なことをやってるこ とと、世界の求めていることは私たち現場にい るとわからないので、そこをマッチングしてく れるようなもの、機関というか人というか、そ ういうものがあるとまた道が開けてくるのかな と、日々考えています。

中村】Thank you for the wonderful comment. I think we can ask some examples to…Yes we need some kind of organization or some people to connect the local and the global level. I believe that the United Nations University has this role especially. And we have a representative from there, Mr. Iida and maybe I would like to ask him for some comments about this. And let me say this in Japanese first.

今、宇治さんの素晴らしいコメント、ありが とうございます。やはり地域と世界のレベルの 活動を繋いでいく機関ないしは人というのが必 要なんだと思います。で、それを実際にやって る機関の1つとして国連大学というものがある と思うんですが、本日、国連大学の飯田さんが お越しですので少しコメントをお願いしたいと 思います。

【飯田】発言の機会をいただきありがとうございます。日本語でさせていただきます。

幾つかすごい、具体的な提案が出てきたと思うんですけれども、国際貢献という、特にユネスコ化がなったときに、実際の見える化というか、ビジビリティをいかに上げるかというのが課題であると思います。それをじゃあ、どうい



う方法論でやるかというのが、やっぱりそこを 議論しっかりすべきで、僕がちょっと今いろい ろ発言を聞いてて、あと自分独自の観点から、 ちょっとまとめたポイントが7つあります。1 個1個ちょっと…

まず、1点目なんですけど、ワークショップ やるとかこういう場をつくるとか、ネットワー キングっていうのは、それは交流とか含めて、 市民レベル、ガイドさん同士という、そういう、 交流というのは非常に一番大事ではあるんです けど。それが1点目です。

2つ目は、先ほど佐渡のお話がありましたけ れども、やっぱり出版というか、文字として見 せていくというのは1つ大事で、例えばほかの 海外の事例を知らないのであれば、そういうの を集めて日本語で出版するとか。僕、ちょっと IGN の具体策はわからないんですけれども、 日本の事例を英語に翻訳して出版するとか、そ ういったことはあるのかなと思います。もう1 点重要なのは、先ほど McKeever さん、言語 の壁っていうのを言っていただきましたけれど も、じゃあ何をするかといったら、例えばアジ ア地域のジオパークの用語集をつくるとか、そ ういうのはありかと。日本語、韓国語、中国語 とか、ベトナムとかの6か国語版みたいなもの を一緒に作っていくとか。一緒に作るっていう のが大事ですね。こっちで勝手に作るのではな く。そうすれば結果論として、ネットワークも できるし、実際のもの、アプリケーションがで きるので。それは1つ、アイデアとして提案し ます。そういう用語集を作るときにやっぱり専 門家の関わりとかも重要なので、そこはすごい …専門家とか、ガイドさんが一緒になって、そ ういうものを実際、具体物を作るっていうのは 1つあるかなと思います。

で、3つ目なんですけども、先ほどいろいろ各地域、国際ワークショップを行ったりっていうのがあるんですけれども、個々バラバラになって、見える化、まとまって見えないというのがあるので、今回 JGN が、そういう情報だ

けを取りまとめてホームページにするとか、そういう動きがあるといいと思います。

4点目なんですけど、昨日も McKeever さんの発表で、申請の審査員を出してほしいとか、そういう話がありました。新しい地域にジオパークの考え方を入れていくという意味で、そういう審査とか申請に関しての貢献というのが、1つ国際貢献の具体策かなと。

5点目なんですけど、今回ガイドライン、お 手元にあって、ま、読むのもいいんですけど、 むしろこういうのを作っていくプロセスに貢献 していくというのが、それはほんとにユネスコ 化になったときの日本の役割でもあると思うん です。けっこう、その、交流というのも大事な んですけれども、条約とか作るときも、やはり 日本のなんか、プレゼンスが見えないというの は、条約作りとかに関わっていかないというの が1つあって、ルールをいかに自分たちでも作 るし、海外の人とも一緒に作るかということが 大事かなと思います。

6点目なんですけど、先ほど McKeever さんとコーヒーブレークのときに話してたんですけど、ユネスコに人を送るという話をしてて、1年間くらいそこでインターンやるみたいな、McKeever さんおっしゃってて、JGN からそういう地域のリーダーを派遣するとかしていくというのが1つ。で、もちろん海外からも JGN、働いてもらうとか、インターンみたいなのとか。そういうのがありかなと。

最後7点目で、おっしゃってましたけど、やっぱり予算とか組織づくり、そういうのをやるためのものをいかに、今回ユネスコ化になったということは文科省にも責任が出てくるという、地学的なところからいうと国立公園とかも関わってきますし、環境省とか、あとJICAとか外務省とか、そういうところからいかにお金を引っ張ってくるかとか、そこへのアプローチをどう採るかっていうのが、大事かなと思います。そこら辺をトータルでやると、かなりジオパークとしてのビジビリティは上がっていくし、海

外の人がわかる効果になると思います。

あと、私どもの組織、石川県をベースにしてるんですけども、世界農業遺産とか、ジオパーク、エコパーク、あと金沢の創造都市とか、そういった国際プログラムとちょっと連携してやっているので、世界遺産もありますし、そういう、国際ネットワークを活かした人たちと交流してくというのは、お互いに学び合える場だと思います。

それから、追加で…

【中村】One more? Yes, it's OK.

【飯田】喋り過ぎなんですけど…

あと、誰にコンタクトするかというのが大事 で、そういう。今多分、ジオパーク関係者、 McKeever さんにしか行かない。行けるアドレ スを知ってるのが McKeever さんだけだから。 ヨーロッパのジオパークの担当者のEメール アドレスをまず手に入れて、どういう状況なの かっていうのを聞くとか。僕も今度ペルーで MABの国際会議に行くんですけれども、白山 と連携してるので自山のことを発表したいなと 思って、どうするかといったら、ワークショッ プをオーガナイズしてる人のメールアドレスを 手に入れて、こういう発表したいんだってただ メールするだけです。もう2行ぐらいです。で、 あっちがまた検討してくれて、オッケーだよっ て言われたので、発表しに行くと。もちろん、 予算とかいろいろあると思うんですけれども。 単純に、メールで大体、物は、物事は運ぶと思 います。だから McKeever さんにメールして、 じゃあ、こういう事例を知りたいから情報くれ ないかとか、そこから国際貢献が始まってるっ ていうことです。あんまり大きな話ではない、 と。はい、以上です。

(中村) Thank you for your excellent comment and I guess this is kind of like a, maybe a conclusion of what we should do for the next 1-2 years. Do you have some comments about this?

[McKeever] I think these are really excellent

points. And, all of these things are very easy to

do. Dr. Matsuura yesterday mentioned the very bad situation in UNESCO, because of the situation in Palestine and that the United States has withdrawn its money. So at the moment we have two people running UNESCO Global Geoparks. Two people. That's it. So any help that Japan can give, by way of sending somebody to live in Paris for 1–2 years to be part of the secretariat of UNESCO Global Geoparks, is probably the most valuable contribution you could give to the network at the moment, because that is a real problem. But all these other things – workshops, face to face contact, e–mailing people, just do it. Just do it.

【木村】ほんとに素晴らしい内容、まとめてくだ さったんですけれども。昨日の講演の中で、ユ ネスコの実情について松浦先生がお話しされて たんですが、ほんとに今、財政的に厳しい状況 でして、パレスチナ問題のためにアメリカから の支援がほんとに減らされている状態というこ とで。実際に今、ユネスコのジオパークのオフ ィスは2人で活動、一生懸命業務をまかなって いる状態なんですね。なので日本からもし、パ リに1年でも2年でもいいので滞在して、一緒 に事務局を運営していくっていう人が出てきて くれたら、これほど大きな国際貢献というのは ないと思います。ほんとにスタッフ不足という のは、実は私たちにとってほんとに深刻な問題 なので、ぜひ検討していただけたらなと思いま す。あと、ほかにおっしゃってたワークショッ プのこととか、メールをまず送ってみる、とに かくコンタクトをとろうとすること、そういっ たことももちろんとてもいいと思います。

【中村】Regarding these comments, I would like to ask some of the UNESCO Global Geopark sites, can you do it? From now?

[McKeever] One, two…?

【中村】One by one?

【木村】世界ジオパークに登録されてる皆さん、 いかがですか。 [McKeever] Four?

【中村】Five?

Well, we have five minutes only left so we would like to ask someone for the closing comments? Well…

【柚洞】ちょっと1ついいですか。

【中村】Yes please.

【柚洞】ちょっと聞きたいんですけど、米田さん、しつこいんですけど、聞きたいんですけど。いっも、日本のジオパークが、いろいろしなくちゃいけないことあるよねって、すごく課題山積みで、やらなきゃいけないことがたくさんあるっていう話にいつもなるけど、それ、誰がどこのお金を使ってやるかという話にいつもなっちゃう。それがいつもハードルになっていると思っているんですけど。で、現状、日本ジオパークネットワークって、各ジオパークから毎年10万円っていうお金のよせ集めで運営されてるんですが、その辺、これを増額して、動かせるお金を増やすっていうのは、可能性としてどうですか。

【米田】その辺の話はよく理事会でもされます。 私としても、皆さんの話を聞いてて、JGNの 活動には金をもっと欲しいなと思います。で、 それを各ジオパークに求めたときに、大きな組 織はそんなに苦労しないのかもしれませんが、 日本のジオパークの中にはほんとに地方の小さ

いジオパークがあって、やはり一番その小さいところを考えていかないと、ついてこれないんじゃなれたときに、会費を上げるというのはちょっと難しいなと。そういう中で、JGNのマネジメントの中で、収益を上げる方法はないのかなということを考えております。で、今、非常に環境的にはいい感覚になってきて、国

の支援もあらゆる方法も可能性にあるわけであ りますので、その辺を考えていきたい。ただ、 あまりにもそれをやりすぎて、また国の1つの 考え方でもって押し切られる部分もあってもい やだな、と。我々今まで、この JGN は各地域 のいろんな人たちが集まって協議の中、JGN に入ってない人たちも加わったりもして、非常 にアットホーム的なところ、そして広く意見が 入りやすい状態の中でやってきた、そのよさは 変えていっちゃいけないなと。そういう中で、 確かに今言われるような、財源が本当に欲しい ということがありまして、企業にも求めていか なくちゃいけないのかな。で、それもあまり企 業に求めすぎて偏ってもいけない部分があるも んですから。なるべく、金を集めていきたいと いうことで、こういうこともぜひ協力いただき たいなと思っています。

【中村】Thank you for your comment, Mr. Yoneda. Yes, we always collide with the budgetary resources.

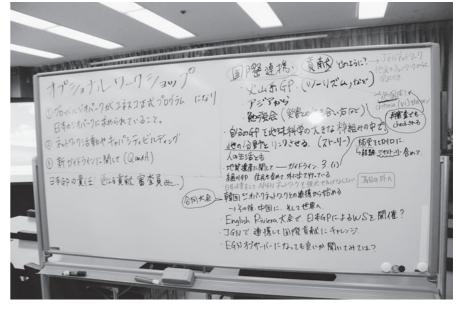
[McKeever] Same as all the geoparks.

【中村】Yes, but we need to get over that.

I guess, for closing, Abhik has informed us that we have an Internationalization Working Group in the Japanese Geoparks Network.

[McKeever] I didn't know that.

【中村】It was founded just last autumn. I think



this working group should be the platform for discussing these kinds of issues and we should make some actions in the English Riviera. I guess we should discuss how we can make a contribution. We have only eight months. In these eight months, we would like to, well, we need to ask the leader Abhik, but why don't we make some workshop or try for it at English Riviera.

[Chakraborty] I mean, yeah. You should not ask. It is very much obvious that someone should take the initiative. It could be a geopark, it could be network working group, it could be anybody. But someone takes the initiative, and that is how it starts. Yes, it is pretty obvious that we ought to do such things.

【中村】And I believe all of you here…Sorry, I need to say this in Japanese.

どこまで言ったっけな…

【Chakraborty】今後は、イングリッシュ・リビエラのところでそういったワークショップ…

【中村】あ、そう。非常にいいコメントありがとうございました。今日の話を考えていくと、やはりイングリッシュ・リビエラでの、GGNの、世界ジオパークの会議のときに、やはり我々は何らかのアクションを示していく必要があるのではないかと。そのときの1つのプラットフォームとして、JGNにはAbhikさんをリーダーとする国際化ワーキンググループというのがあります。国際化ワーキンググループこそ、こういう役割を担っていくべきだと思うんです。で、Abhik さんと今、やるよねやろうよねって話をしていたところなんですが、やらない理由はないよねということで、あと8カ月ぐらいしかないわけですけど、そこに向けて進んでいければと思います。

This is not the issue only for the Internationalization Working Group but you all should be involved in this process and the most important thing is not only to attend but be involved in the process. So Mr. Iida has said that maybe it is good not only for looking at the guideline, but making it together is very good. We should do that and somehow we will coordinate this structure with Abhik and other members.

[Chakraborty] We will see about that. It is not about one person.

【中村】今申し上げたのが、これはただ国際化ワー キングだけの問題ではなくて、ここにいる皆さ んが一緒になってやっていくべきことだと思い ます。そのための仕組みはなにかしら Abhik さんと相談しながらつくっていきたいと思いま すが、やっぱり先ほど飯田さんの発言にもあっ たように、ガイドラインもただ読むだけじゃな くて、作るプロセスに参加することによって新 しい発見に繋がったり、これからの活動に繋が っていくと思いますので、ぜひとも皆さん、こ こにいる皆さんは少なくともこの議論を共有し ているメンバーですので、一緒になって、イン グリッシュ・リビエラで日本がどういう貢献を していくことができるか、どういうワークショ ップを開くことができるかというのを皆さんと 一緒に話し合いながら、8カ月後にはぜひ実現 させたいと思います。

【Chakraborty】 ちょっとだけ。1つだけ。ガ イドラインを理解など、そういったのが極めて 大事なんですけど、一番大事なのがその実践で すね。それをやってみないといけないというこ とがありますので。ジオパークの素晴らしいと ころが、そういった実践を常にして、それでま た改善する、ということが基本だと思いますの で。そういったガイドラインに書かれたことを 実践して、そこでどういった矛盾が生まれる、 あるいはどういったチャレンジがあるとか、そ ういうことが初めてわかる。なので、ガイドラ インに書いてあることをそのまま鵜呑みにする のではなくて、実践して、整理しながら、個々 のジオパークだったり、ネットワークだったり、 していくのが大事だし、そういった経験を世界 の中で積極的にシェアすることも大事だと思い

ます。

【米田】1点、付け加えさせてください。柚洞さんの質問の中で付け加えさせていただきたいんですが。今の会費制にいたしましても、ユネスコの正式事業化になったということでもう1回見直しをさせてもらいます。理事会、またそういった中に上げていきたいと思っていますので、それによって今の金額が上がる可能性もありますし、下がる可能性はないと思うんですが。そのような、今、理事会の議題に上げていきたいと思います。

【中村】ありがとうございます。

Thank you very much. I would like to ask Dr. McKeever for the final comment of this workshop.

[McKeever] Final comment?

【中村】 Yes.

[McKeever] Thank you very much for asking me to be here. It has been a great pleasure to have the opportunity to share some thoughts with you and to share the experience I have had for 16 years now working in geoparks. It's a long time. It has been a pleasure to be part of the great celebration for UNESCO Global Geoparks. This is the first time since 1972 that UNESCO has done anything like this. So that means UNESCO has great faith in you. And UNESCO very much believes that you have the capacity to change the planet, because that is what this is all about - changing peoples' lives better, and making an improvement for local people. That is what we are all doing this for. Always remember that, that is the reason 16 years ago we created geoparks in the first place. It wasn't because we are all mad scientists! Although we all are. It was to improve people's lives, to build mutual respect between people, between countries, so that we all respect each other and learn from each other. And together, we can make the planet a better

place. Thank you very very much for inviting me. I look forward to seeing many of you again, maybe in May, and again in July in Niigata. Thank you very very much. I wish you all a safe trip home.

【木村】まず最初に、今回こんなふうに皆さんと ご一緒できるように、お招きいただいて、自分 の思っていることをこうやって皆さんと一緒に お話しできたこと、とても嬉しく思っておりま す。私、ジオパークについての仕事、こうやっ て16年間しておりますけれども、この中で得た 経験をこうやって皆さんと一緒にシェアできた ということは、とても嬉しかったです。で、今 回、ユネスコの正式プログラムになったという こと、お祝いの場でもあったんですが、こうい ったことはユネスコにとっては1972年以来の 大きな出来事でした。で、ユネスコがこれの決 断に踏み切ったというのは、それだけこのジオ パークというシステムが地球環境の今の現状を 何とか改善していくという、そういった可能性 をユネスコが見出しているということだと思う んですね。ですから地域の人々の暮らしをもっ とよくしていく、地球環境の改善をしていくと いうことを、期待されているんだと思います。 そもそも私が16年前にジオパークを始めようと したのは、ほんとにそれがまさに理由でして、 決して科学者たち、そういったクレイジーな科 学者たちが集まって、ただやろうやろうと言っ たわけではなくて、ほんとに人と国、そしてお 互いがもっと理解し合い、もっと学び合い、人々 の暮らしをもっとよくしていきたい、そういっ た気持ちから始めました。ぜひ、それを通して、 よりよい世界を実現していきたいと思います。 皆さんとは、もしかしたらまた5月に…you will be in…

[McKeever] May, in Tokyo.

【渡辺】千葉。

【木村】千葉ですとか、7月には新潟、または9 月にイングリッシュ・リビエラでまたお会いで きるかと思いますけども、またお目にかかるの を楽しみにしております。ありがとうございました。

【中村】 Thank you everyone. This is the end of the session. Let's close the session and let's close the UNESCO Global Geoparks Celebration Fo-

rum.

では、皆様どうもありがとうございました。 これをもって、このワークショップ及びユネス コジオパーク誕生記念フォーラムを閉会させて いただきたいと思います。

[注] 本ワークショップにおける出席者の発言は、必ずしもそれぞれの所属組織の立場を代表するものではありません。 日本のジオパーク、世界のジオパークの向上を目指した、構想段階の、しかし建設的な議論です。





					シンポジウム	記念祝賀会	オプショナル ワークショップ
事	前	申	込	者	103	94	18
当	日	申	込	者	46		
開	催者	· 登	壇 者	5	24	22	9
合				計	173	116	27

シンポジウムの事前申込者の内訳

	アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク	1
	白滝ジオパーク	1
北	洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク	2
海	とかち鹿追ジオパーク	0
道	十勝岳山麓	4
	三笠ジオパーク	2
	男鹿半島・大潟ジオパーク	2
	月山	0
	栗駒山麓ジオパーク	2
	蔵王	0
東	三陸ジオパーク	3
	下北	1
北	鳥海山·飛島	2
	八峰白神ジオパーク	1
	磐梯山ジオパーク	0
	ゆざわジオパーク	2
	秋川流域	0
	浅間山北麓	0
	伊豆大島ジオパーク	0
	茨城県北ジオパーク	1
関	古関東深海盆	0
	下仁田ジオパーク	4
東	秩父ジオパーク	1
	銚子ジオパーク	2
	筑波山地域	2
	箱根ジオパーク	1
	三宅島	0

	伊豆半島ジオパーク	6
	** 一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	7
	 佐渡ジオパーク	5
中	高山市	0
	立山黒部ジオパーク	8
部	苗場山麓ジオパーク	2
	白山手取川ジオパーク	7
	東三河	0
	南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク	2
	いづも	0
	隠岐ユネスコ世界ジオパーク	1
	山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク	6
近畿	四国西予ジオパーク	2
· 中	土佐清水	0
匹国	南紀熊野ジオパーク	1
	萩	1
	Mine 秋吉台ジオパーク	3
	室戸ユネスコ世界ジオパーク	2
	阿蘇ユネスコ世界ジオパーク	2
	天草ジオパーク	2
	おおいた姫島ジオパーク	0
九	おおいた豊後大野ジオパーク	2
	北九州	0
州	霧島ジオパーク	2
	桜島・錦江湾ジオパーク	1
	島原半島ユネスコ世界ジオパーク	2
	三島村・鬼界カルデラジオパーク	0
	合 計	103

ユネスコジオパーク 誕生記念フォーラム 報 告 書

平成28年5月23日発行

編集・発行 白山手取川ジオパーク推進協議会

写真提供 白山手取川ジオパーク推進協議会

国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット